

---

# SYLLABUS

シラバス

2012 年度

LEC 東京リーガルマインド大学大学院

高度専門職研究科会計専門職専攻

LEC GRADUATE SCHOOL OF ACCOUNTANCY

著作権者 LEC 東京リーガルマインド大学大学院  
©2012 LEC GRADUATE SCHOOL OF ACCOUNTANCY Printed in Japan  
複製・頒布を禁じます。

<b>2012 年度 講義日程／時間割</b>	2	租税法研究指導【2011 年度春入学生対象】*	64
<b>前期開講科目</b>		租税法研究指導【2011 年度秋入学生対象】*	66
		租税法研究指導【2012 年度入学生対象】*	68
<b>全体</b>		<b>後期開講科目</b>	
マネジメント・シミュレーション I (A)	6	<b>全体</b>	
マネジメント・シミュレーション I (B)	8	マネジメント・シミュレーション II (A)	70
会計総合事例研究	10	マネジメント・シミュレーション II (B)	72
<b>財務会計系</b>		会計総合事例研究	74
財務会計論	12	<b>財務会計系</b>	
簿記論	14	会計制度 I	76
税法会計	16	会計制度 II	78
公会計	18	ディスクロージャー制度	80
IFRS 研究	20	財務会計事例研究	82
財務会計論研究指導【2011 年度以前入学生対象】*	22	IFRS 研究	84
<b>管理会計系</b>		<b>管理会計系</b>	
管理会計論	24	原価計算論	86
マネジメント・コントロール・システム論	26	管理会計事例研究	88
意思決定会計	28	意思決定会計	90
応用管理会計	30	財務分析論	92
管理会計論研究指導【2011 年度以前入学生対象】*	32	<b>監査系</b>	
<b>監査系</b>		監査論	94
監査論	34	職業倫理	96
監査事例研究	36	監査手続論	98
<b>財務会計・管理会計・監査系</b>		内部統制監査	100
会計学研究指導【2012 年度入学生対象】*	38	<b>経営・ファイナンス系</b>	
<b>経営・ファイナンス系</b>		経営学 I	102
経済学	40	ファイナンス論	104
IT リテラシー	42	IT リテラシー	106
実用英語演習基礎	44	経営学 II	108
専門英語基礎	46	実用英語演習応用	110
経営事例研究	48	専門英語応用	112
ファイナンス事例研究	50	M&A	114
<b>法律系</b>		<b>法律系</b>	
企業法 I	52	租税法	116
租税法	54	企業法 II	118
法人税法	56	法人税法	120
企業法事例研究	58	所得税法	122
租税法事例研究	60	実践国際租税法	124
国際租税法	62		

注 1: \* の付いた科目は通年科目です。

注 2: 前期開講科目と後期開講科目に同じ科目名があるものは、講義内容が同じで開講日が異なる科目です。

注 3: 各シラバスの授業内容は、進度などに応じて変わることがあります。

LEC会計大学院 講義日程 — 2012年度(前期)4月16日開始

4月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5 オリエン テーション	6 オリエン テーション	7 オリエン テーション
8	9	10	11	12	13	14
15	16 第1回 ※前期授業開始	17 第1回	18 第1回	19 第1回	20 第1回	21 第1回
22 第1回	23 第2回	24 第2回	25 第2回	26 第2回	27 第2回	28 懇親会
29	30 振替休日					

5月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日
6	7 第3回	8 第3回	9 第3回	10 第3回	11 第3回	12 第2回
13 第2回	14 第4回	15 第4回	16 第4回	17 第4回	18 第4回	19 第3回
20 第3回	21 第5回	22 第5回	23 第5回	24 第5回	25 第5回	26 第4回
27 第4回	28 第6回	29 第6回	30 第6回	31 第6回		

6月

日	月	火	水	木	金	土
					1 第6回	2 第5回
3 第5回	4 第7回	5 第7回	6 第7回	7 第7回	8 第7回	9 第6回
10 第6回	11 第8回	12 第8回	13 第8回	14 第8回	15 第8回	16 第7回
17 第7回	18 第9回	19 第9回	20 第9回	21 第9回	22 第9回	23 第8回
24 第8回	25 第10回	26 第10回	27 第10回	28 第10回	29 第10回	30 第9回

7月

日	月	火	水	木	金	土
1 第9回	2 第11回	3 第11回	4 第11回	5 第11回	6 第11回	7 第10回
8 第10回	9 第12回	10 第12回	11 第12回	12 第12回	13 第12回	14 第11回
15 第11回	16 第13回 海の日	17 第13回	18 第13回	19 第13回	20 第13回	21 第12回
22 第12回	23 第14回	24 第14回	25 第14回	26 第14回	27 第14回	28 第13回
29 第13回	30	31				

8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4 第14回
5 第14回	6 第15回	7 第15回	8 第15回	9 第15回	10 第15回	11
12	13	14	15	16	17	18 第15回
19 第15回	20	21	22	23	24	25
	試験					
26 試験	27	28	29	30	31	

9月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17 敬老の日	18 前期 成績通知	19	20	21 オリエン テーション	22 オリエン 秋分の日
23	24	25	26	27	28	29
30						

※講義日程は発行日現在のものであり、変更になる場合があります。

LEC会計大学院 講義日程 — 2012年度(後期) 10月1日開始

10月

日	月	火	水	木	金	土
	1 第1回 ※後期授業開始	2 第1回	3 第1回	4 第1回	5 第1回	6 第1回
7 第1回	8 第2回 体育の日	9 第2回	10 第2回	11 第2回	12 第2回	13 第2回
14 第2回	15 第3回	16 第3回	17 第3回	18 第3回	19 第3回	20 第3回
21 第3回	22 第4回	23 第4回	24 第4回	25 第4回	26 第4回	27 第4回
28 第4回	29 第5回	30 第5回	31 第5回			

11月

日	月	火	水	木	金	土
				1 第5回	2 第5回	3 第5回 文化の日
4 第5回	5 第6回	6 第6回	7 第6回	8 第6回	9 第6回	10 第6回
11 第6回	12 第7回	13 第7回	14 第7回	15 第7回	16 第7回	17 第7回
18 第7回	19 第8回	20 第8回	21 第8回	22 第8回	23 第8回 勤労感謝	24 第8回
25 第8回	26 第9回	27 第9回	28 第9回	29 第9回	30 第9回	

12月

日	月	火	水	木	金	土
						1 第9回
2 第9回	3 第10回	4 第10回	5 第10回	6 第10回	7 第10回	8 第10回
9 第10回	10 第11回	11 第11回	12 第11回	13 第11回	14 第11回	15 第11回
16 第11回	17 第12回	18 第12回	19 第12回	20 第12回	21 第12回	22 第12回
23 第12回 天皇誕生日	24 振替休日	25	26	27	28	29
30	31					

1月

日	月	火	水	木	金	土
		1 元日	2	3	4	5
6	7 第13回	8 第13回	9 第13回	10 第13回	11 第13回	12 第13回
13 第13回	14 第14回 成人の日	15 第14回	16 第14回	17 第14回	18 第14回	19 第14回
20 第14回	21 第15回	22 第15回	23 第15回	24 第15回	25 第15回	26 第15回
27 第15回	28	29	30	31		
	試験					

2月

日	月	火	水	木	金	土
					1 試験	2
3 試験	4	5	6	7	8	9
10	11 建国記念	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

3月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6 後期 成績通知	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17 卒業式	18	19	20 春分の日	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2012年度 LEC 会計大学院 前期 時間割

※当時間割は予告なく変更等が発生する場合がありますことと予めご了承ください。※(★)は、2011年度入学生は必修科目になりますので、ご注意ください。

月	火	水	木	金	土	日
5限目 19:30～21:00	★企業法Ⅰ 平田和夫先生 【A31/収録無】(4/16開講)	★企業法Ⅰ 平田和夫先生 【A31/収録無】(4/16開講)	★企業法Ⅰ 平田和夫先生 【A31/収録無】(4/16開講)	★企業法Ⅰ 平田和夫先生 【A31/収録無】(4/16開講)	★意思決定会計 小林健吾先生 【B41/収録無】(4/21開講)	★租税法 小山登先生 【A51/収録有】(4/22開講)
	経営事例研究 藤松勝太郎先生 【C31/収録無】(4/16開講)	実用英語演習基礎 藤澤巖巳先生 【B11/収録無】(4/18開講)	専門英語基礎 藤澤巖巳先生 【E11/収録無】(4/19開講)	企業法事例研究 平田和夫先生 【C31/収録無】(4/20開講)	★IFRS研究 富田幸恵先生 【A51/収録有】(4/21開講)	租税法研究指導 (2012年春入学生対象) 藤松勝太郎先生・ 以下、研究指導委員会 【A51/収録無】(4/22開講)
	財務会計討論研究指導 若杉明先生 【A51/収録無】(4/23開講)	—	—	租税法事例研究 南塚樹先生 【B11/収録無】(4/20開講)	監査事例研究 篠宮雅明先生 【A31/収録無】(4/22開講)	国際租税法 大塚正臣先生 【B41/収録無】(4/22開講)
	★監査論 篠宮雅明先生 【A51/収録有】(4/17開講)	—	—	IRリサーチ 横井隆志先生 【B41/収録無】(4/20開講)	★マネジメント・コミュニケーション 小林健吾先生・高田博行先生・ 山本重明先生・横井隆志先生 【B41/収録無】 (4/21および6/30開講) ※3限・4限連続講義。	租税法研究指導 (2011年春入学生対象) 藤松勝太郎先生・ 以下、研究指導委員会 【A51/収録無】(4/22開講)
	法人税法 木村直人先生 【A31/収録有】(4/24開講)	★管理会計論 林總先生・小林健吾先生・ 山本重明先生 【A31/収録有】(4/19開講)	—	—	ファイナンス事例研究 鳥義夫先生 【C31/収録無】(4/21開講)	簿記論 篠藤淳先生 【A31/収録有】(4/22開講)
	税法会計 齋藤淳先生 【C31/収録有】(4/17開講)	—	—	—	★マネジメント・コミュニケーション 小林健吾先生・高田博行先生・ 山本重明先生・横井隆志先生 【B41/収録無】 (4/21および6/30開講) ※3限・4限連続講義。	公会計 兼谷勇先生 【C31/収録無】(4/22開講) ※4限・5限連続講義。
5限目 19:30～21:00	★管理会計 齋藤淳先生 【C31/収録有】(4/17開講)	—	—	—	応用管理会計 林總先生 【A31/収録無】(4/21開講)	租税法研究指導 (2011年秋入学生対象) 藤松勝太郎先生・ 以下、研究指導委員会 【A31/収録無】(4/22開講)
★企業法Ⅰ 平田和夫先生 【A31/収録有】(4/16開講)	実用英語演習基礎 藤澤巖巳先生 【B11/収録無】(4/18開講)	専門英語基礎 藤澤巖巳先生 【E11/収録無】(4/19開講)	企業法事例研究 平田和夫先生 【C31/収録無】(4/20開講)	租税法事例研究 南塚樹先生 【B11/収録無】(4/20開講)	★(★)会計総合事例研究 林總先生・齋藤淳先生・篠宮雅明先生・ 山本重明先生・高田博行先生・ 山本重明先生・高田博行先生 【A51/収録無】(4/21開講) ※3限・4限・5限・6限連続講義。	★財務会計論 齋藤淳先生 【A51/収録有】(4/22開講)
経営事例研究 藤松勝太郎先生 【C31/収録無】(4/16開講)	—	—	租税法事例研究 南塚樹先生 【B11/収録無】(4/20開講)	IRリサーチ 横井隆志先生 【B41/収録無】(4/20開講)	★(★)会計総合事例研究 林總先生・齋藤淳先生・篠宮雅明先生・ 山本重明先生・高田博行先生・ 山本重明先生・高田博行先生 【A51/収録無】(4/21開講) ※3限・4限・5限・6限連続講義。	★財務会計論 齋藤淳先生 【A51/収録有】(4/22開講)
財務会計討論研究指導 若杉明先生 【A51/収録無】(4/23開講)	—	—	—	—	監査事例研究 篠宮雅明先生 【A31/収録無】(4/22開講)	「マネジメント・コミュニケーション」は、 夏期に開講いたします。

2012年度 LEC 会計大学院 後期 時間割

※当時間割は予告なく変更等が発生する場合があります。※(★)は、2011年度入学生は必修科目になりますので、ご注意ください。

月	火	水	木	金	土	日
5限目 19:30—21:00	財務分析論 佐藤崇作先生 【A31/取録無】(10/1開講)	実用英語演習応用 藤澤隆巳先生 【B11/取録無】(10/2開講)	専門英語応用 藤澤隆巳先生 【B11/取録無】(10/4開講)	企業法Ⅱ 平田和夫先生 【C31/取録有】(10/5開講)	★意思決定会計 小林健吾先生 【B41/取録無】(10/6開講)	★相続法 小山登先生 【A51/取録有】(10/7開講)
	★職業倫理 慶松勝太郎先生・麻部彰先生 【A51/取録有】(10/1開講)	★監査論 篠宮雅明先生 【A51/取録有】(10/3開講)	★原価計算論 林健先生・山本宣明先生 【A51/取録有】(10/4開講)	M&A 南紫樹先生 【B11/取録無】(10/6開講)	—	法人税法 齋藤誠先生 【A31/取録有】(10/7開講)
	財務会計論研究指導 若杉明先生 【C31/取録無】(10/1開講)	—	—	—	★IFRS研究 富田幸恵先生 【A51/取録有】(10/6開講)	租税法研究指導 (2012年春入学生対象) 慶松勝太郎先生・ 以下、研究指導委員会 【A51/取録無】(10/7開講)
	—	—	—	—	内部統制監査 篠宮雅明先生 【A31/取録無】(10/6開講)	実践国際租税法 大塚正氏先生 【B41/取録無】(10/7開講)
	—	—	—	—	★経営学Ⅰ 慶松勝太郎先生 【A31/取録有】(10/6開講)	租税法研究指導 (2011年春入学生対象) 慶松勝太郎先生・ 以下、研究指導委員会 【A51/取録無】(10/7開講)
	—	—	—	—	マネジメント・シミュレーションⅡ 小林健吾先生・高田博行先生・ 山本宣明先生・榊井隆志先生 【B41/取録無】 【10/6および12/1開講】 ※3限・4限連続講義。	ディスクリージャー制度 齋藤淳先生 【A31/取録有】(10/7開講)
—	—	—	—	—	所得税法 伊真博之先生 【A51/取録有】(10/6開講)	租税法研究指導 (2011年秋入学生対象) 慶松勝太郎先生・ 以下、研究指導委員会 【A51/取録無】(10/7開講)
—	—	—	—	—	管理会計事例研究 林健先生 【B11/取録無】(10/6開講)	財務会計事例研究 高田博行先生 【C31/取録無】(10/7開講)
—	—	—	—	—	マネジメント・シミュレーションⅡ 小林健吾先生・高田博行先生・ 山本宣明先生・榊井隆志先生 【B41/取録無】 【10/6および12/1開講】 ※3限・4限連続講義。	ITリテラシー 榊井隆志先生 【B41/取録無】(10/7開講)
—	—	—	—	—	★ファイナンス論 高森寛先生 【C31/取録有】(10/6開講)	★会計制度Ⅱ 齋藤淳先生 【A31/取録有】(10/7開講)
—	—	—	—	—	(★)会計総合事例研究 林健先生・齋藤淳先生・篠宮雅明先生・ 山本宣明先生・富田幸恵先生 【A51/取録無】(10/6開講) ※3限・4限・5限連続講義。	—
—	—	—	—	—	会計学研究指導 (管理会計論研究指導) 山本宣明先生・ 以下、研究指導委員会 【A51/取録無】(10/13開講) ※3限・4限・5限連続講義。	—
—	—	—	—	—	(★)会計総合事例研究 林健先生・齋藤淳先生・篠宮雅明先生・ 山本宣明先生・富田幸恵先生 【A51/取録無】(10/6開講) ※3限・4限・5限連続講義。	—
—	—	—	—	—	会計学研究指導 (管理会計論研究指導) 山本宣明先生・ 以下、研究指導委員会 【A51/取録無】(10/13開講) ※3限・4限・5限連続講義。	—
—	—	—	—	—	—	6限目 18:30～20:00

ID: YA12112a

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	基本	マネジメント・シミュレーションⅠ (A)	小林健吾 高田博行 山本宣明 横井隆志	15	2

## 授業の目的

マネジメント・シミュレーションは、LEC 会計大学院の教育目的に基づいた実践的な教育の中核となる科目として設置されている。そこではバーチャルな経営環境の下で財務数値の分析に基づいた経営意思決定を行い、企業経営の諸問題への理解を促進する。そして、企業会計の必要性和効用をチームによる協働を通じて体験的に学習することを意図している。

マネジメント・シミュレーションⅠでは、入門的なステップとして、基礎的な知識の必要性を知覚させ、関連諸科目の学習を促し、学習意欲の向上に貢献することを目的としている。

## 授業の到達目標

マネジメント・シミュレーションⅠでは卸売業を対象とし、市場環境に応じた価格の決定、営業規模の選択と販売量の予測、それに対応する販売計画や仕入計画、財務計画の策定といった基礎的な問題に限定している。それらの意思決定を行うことによって、利益計画の基本構造を習得することが到達目標となる。

## 履修条件

必修として実施するから、履修条件は設けない。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	この授業の進め方のガイダンス、並びにチームの編成、企業内での職務の担当を決定する。次に、参加者間の討議によって第3期までの分析に基づく企業評価を行い、事後の経営方針を決定する。	4月21日(土) 連3限-4限
2	システムの立ち上げと利用方法のガイダンス。システムの運用についてはマネジメント・シミュレーションⅡも共通化しているので、要領をしっかり習得してもらう。場合によってはトライアルを行う。	4月21日(土) 連3限-4限
3	第3期までの財務数値の分析に基づいて第4期の入力を行う。続いてサーバー処理した結果について分析を行う。入力と結果の分析にはそれぞれ時間をかけ、指導主任の教授をはじめ全教員が適宜指導を行う。	5月12日(土) 連3限-4限
4	マネジメント・シミュレーションⅠは一連のマネジメント・シミュレーションの基礎入門編であることから、幾つかの基礎知識講座を設けている。ここではテーマ学習①として「利益計画と損益分岐点分析の実践」を執り行う。	5月12日(土) 連3限-4限
5	テーマ学習①を参考に第5期の入力について検討を行う。またサーバー処理後の結果についても分析を行う。適宜、自動主任を中心に教員一同がアドバイスを行う。	5月19日(土) 連3限-4限
6	第6期の意思決定と入力を行う。サーバー処理された結果を入手し分析する。参加者の習熟度を見ながら、特に損益分岐点分析の活用に注目してアドバイスを行う。	5月19日(土) 連3限-4限
7	基礎知識講座：テーマ学習②として「KPIとしての新しいROEモデル」を実施する。ここでは企業経営の目標としてのROEの重要性和、そのKPI(Key Performance Indicator)への展開と利用について演習を行う。	5月26日(土) 連3限-4限
8	第7期の意思決定と入力を行う。およびサーバー処理された結果を入手し分析する。テーマ学習②を参考に、利益計画を立てる際にどのようなKPIを重視し、どのように重視したかに注目する。	5月26日(土) 連3限-4限
9	第8期の意思決定と入力を行う。およびサーバー処理された結果を入手し分析する。加えて、各チームに業績について発表を行ってもらい、今後の方針等を説明してもらう。教育主任を中心に講評する。	6月2日(土) 連3限-4限
10	基礎知識講座：テーマ学習③として「キャッシュ・フローの重要性和その活用法」を実施する。ここではシステム内に準備されたテンプレートを利用して、キャッシュ・フローの重要性和その理解の仕方について実践的な講義を行う。	6月2日(土) 連3限-4限

11	第9期の意思決定と入力を行う。およびサーバー処理された結果を入手し分析する。ここではテーマ学習③の内容を踏まえた検討が行われているかに注目する。	6月9日(土) 連3限-4限
12	第10期の意思決定と入力を行う。およびサーバー処理された結果を入手し分析する。第2回目となる経営報告会も実施し、意思決定の精度が上がっているか検証する。	6月9日(土) 連3限-4限
13	第11期の意思決定と入力を行う。およびサーバー処理された結果を入手し分析する。経営報告会を踏まえて、一連のテーマ学習の成果が業績に結実するようアドバイスしていく。	6月16日(土) 連3限-4限
14	最終期となる第12期の意思決定と入力を行う。またサーバー処理された結果を入手し分析する。次回に行われる最終の経営報告会の準備を行う。	6月16日(土) 連3限-4限
15	経営報告会と反省会を行う。経営報告会は全期を通じた総括として報告をしてもらい、教育主任を中心に各チームの取り組みについて討議する。引き続いて反省会を実施する。	6月23日(土) 連3限-4限
試験	実施しない。	

## 使用教科書／評価方法等

教科書	参加者用マニュアルを配布する。
参考書	必要な資料等はインターネット・デバイスを通して随時配布される。
評価方法	企業業績だけではなく、計画と実績の乖離(業績管理能力)、株主総会の報告と資料の準備、(業績報告能力)、およびチーム内でのコミュニケーション(協調性と意思疎通能力)の状況、学習能力の向上(積極性と自己革新能力)の状況等によって総合的に評価する。
その他	<ol style="list-style-type: none"> <li>この授業では学生間のコミュニケーション能力の向上も重要なテーマであるから、授業中は勿論のこと、授業時間以外でもインターネット等を通して意見の交換が可能なように準備されるので、積極的にこれを活用することが求められる。</li> <li>この科目では授業時間中の状況に応じた適時の指導とコメントが重要な要因になっているから、これに受動的に対応するだけでなく、さらに積極的に疑問等を受講者の側から発信することが求められる。</li> <li>授業概要でも触れたように、この授業科目では学生諸君に基礎的知識の必要性を知覚してもらっても目標に含まれるが、特に知識の不足が見られる場合には、インターネットを利用して必要な情報を提供し、さらには必要に応じて臨時的に基礎知識講座を補足する。</li> <li>この科目は、そこで得られた利益計画の基本の上に、更により高度な競争環境での経営実践を学習する準備段階でもある。つまり、マネジメント・シミュレーションⅡ以降の準備段階とも位置づけられる。積極的なⅡ・Ⅲの受講も期待する。</li> </ol>



ID: YA12112b

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	基本	マネジメント・シミュレーション I (B)	小林健吾 高田博行 山本宣明 横井隆志	15	2

## 授業の目的

マネジメント・シミュレーションは、LEC 会計大学院の教育目的に基づいた実践的な教育の中核となる科目として設置されている。そこではバーチャルな経営環境の下で財務数値の分析に基づいた経営意思決定を行い、企業経営の諸問題への理解を促進する。そして、企業会計の必要性と効用をチームによる協働を通じて体験的に学習することを意図している。

マネジメント・シミュレーション I では、入門的なステップとして、基礎的な知識の必要性を知覚させ、関連諸科目の学習を促し、学習意欲の向上に貢献することを目的としている。

## 授業の到達目標

マネジメント・シミュレーション I では卸売業を対象とし、市場環境に応じた価格の決定、営業規模の選択と販売量の予測、それに対応する販売計画や仕入計画、財務計画の策定といった基礎的な問題に限定している。それらの意思決定を行うことによって、利益計画の基本構造を習得することが到達目標となる。

## 履修条件

必修として実施するから、履修条件は設けない。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	この授業の進め方のガイダンス、並びにチームの編成、企業内での職務の担当を決定する。次に、参加者間の討議によって第3期までの分析に基づく企業評価を行い、事後の経営方針を決定する。	6月30日(土) 連3限-4限
2	システムの立ち上げと利用方法のガイダンス。システムの運用についてはマネジメント・シミュレーションIIも共通化しているので、要領をしっかりと習得してもらう。場合によってはトライアルを行う。	6月30日(土) 連3限-4限
3	第3期までの財務数値の分析に基づいて第4期の入力を行う。続いてサーバー処理した結果について分析を行う。入力と結果の分析にはそれぞれ時間をかけ、指導主任の教授をはじめ全教員が適宜指導を行う。	7月7日(土) 連3限-4限
4	マネジメント・シミュレーション I は一連のマネジメント・シミュレーションの基礎入門編であることから、幾つかの基礎知識講座を設けている。ここではテーマ学習①として「利益計画と損益分岐点分析の実践」を執り行う。	7月7日(土) 連3限-4限
5	テーマ学習①を参考に第5期の入力について検討を行う。またサーバー処理後の結果についても分析を行う。適宜、自動主任を中心に教員一同がアドバイスを行う。	7月14日(土) 連3限-4限
6	第6期の意思決定と入力を行う。サーバー処理された結果を入手し分析する。参加者の習熟度を見ながら、特に損益分岐点分析の活用に注目してアドバイスを行う。	7月14日(土) 連3限-4限
7	基礎知識講座：テーマ学習②として「KPI としての新しいROEモデル」を実施する。ここでは企業経営の目標としてのROEの重要性と、そのKPI (Key Performance Indicator) への展開と利用について演習を行う。	7月21日(土) 連3限-4限
8	第7期の意思決定と入力を行う。およびサーバー処理された結果を入手し分析する。テーマ学習②を参考に、利益計画を立てる際にどのようなKPIを重視し、どのように重視したかに注目する。	7月21日(土) 連3限-4限
9	第8期の意思決定と入力を行う。およびサーバー処理された結果を入手し分析する。加えて、各チームに業績について発表を行ってもらい、今後の方針等を説明してもらう。教育主任を中心に講評する。	7月28日(土) 連3限-4限
10	基礎知識講座：テーマ学習③として「キャッシュ・フローの重要性とその活用法」を実施する。ここではシステム内に準備されたテンプレートを利用して、キャッシュ・フローの重要性とその理解の仕方について実践的な講義を行う。	7月28日(土) 連3限-4限

11	第9期の意思決定と入力を行う。およびサーバー処理された結果を入手し分析する。ここではテーマ学習③の内容を踏まえた検討が行われているかに注目する。	8月4日(土) 連3限-4限
12	第10期の意思決定と入力を行う。およびサーバー処理された結果を入手し分析する。第2回目となる経営報告会も実施し、意思決定の精度が上がっているか検証する。	8月4日(土) 連3限-4限
13	第11期の意思決定と入力を行う。およびサーバー処理された結果を入手し分析する。経営報告会を踏まえて、一連のテーマ学習の成果が業績に結実するようアドバイスしていく。	8月18日(土) 連3限-4限
14	最終期となる第12期の意思決定と入力を行う。またサーバー処理された結果を入手し分析する。次回に行われる最終の経営報告会の準備を行う。	8月18日(土) 連3限-4限
15	経営報告会と反省会を行う。経営報告会は全期を通じた総括として報告をしてもらい、教育主任を中心に各チームの取り組みについて討議する。引き続いて反省会を実施する。	8月25日(土) 連3限-4限
試験	実施しない。	

## 使用教科書／評価方法等

教科書	参加者用マニュアルを配布する。
参考書	必要な資料等はインターネット・デバイスを通して随時配布される。
評価方法	企業業績だけではなく、計画と実績の乖離(業績管理能力)、株主総会の報告と資料の準備、(業績報告能力)、およびチーム内でのコミュニケーション(協調性と意思疎通能力)の状況、学習能力の向上(積極性と自己革新能力)の状況等によって総合的に評価する。
その他	<ol style="list-style-type: none"> <li>この授業では学生間のコミュニケーション能力の向上も重要なテーマであるから、授業中は勿論のこと、授業時間以外でもインターネット等を通して意見の交換が可能なように準備されるので、積極的にこれを活用することが求められる。</li> <li>この科目では授業時間中の状況に応じた適時の指導とコメントが重要な要因になっているから、これに受動的に対応するだけでなく、さらに積極的に疑問等を受講者の側から発信することが求められる。</li> <li>授業概要でも触れたように、この授業科目では学生諸君に基礎的知識の必要性を知覚してもらっても目標に含まれるが、特に知識の不足が見られる場合には、インターネットを利用して必要な情報を提供し、さらには必要に応じて臨時的に基礎知識講座を補足する。</li> <li>この科目は、そこで得られた利益計画の基本の上に、更により高度な競争環境での経営実践を学習する準備段階でもある。つまり、マネジメント・シミュレーションⅡ以降の準備段階とも位置づけられる。積極的なⅡ・Ⅲの受講も期待する。</li> </ol>

ID: YA12132a

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	応用実践	会計総合事例研究	林總 齋藤淳 篠宮雅明 山本宣明 富田幸恵	15	2

## 授業の目的

本科目は従来、財務会計・管理会計・監査の各領域で設けられていた事例研究を統合して設けられました。各領域を個別に捉えるのではなく、総合的に捉えることが大きな特徴です。本科目は、会計専門職業人に求められる高度な論理的思考力（複眼的思考力）の養成を目的としています。

本科目は5人の担当教員が、1つのストーリーを題材としながら議論を深めていきます。各教員が履修者を巻き込んで談論風発的に議論を行い、議論を通じて複眼的思考力の養成を行います。したがって、積極的に議論に参加し授業に貢献することが履修者には求められます。また、授業は2週に1回のペースで、1回に2コマ（3時間）を当てます（初回だけは1コマ）。このことから分かるように、予習と復習の時間を十分にとることができます。授業当日は充実した議論ができるよう、各自準備をして臨んで頂きたいと思います。

## 授業の到達目標

本科目で養成したい論理的思考力は、財務会計、管理会計、監査のそれぞれの視点で事象を分析し、それらを総合して結論を導く能力（複眼的思考力）です。したがって、まず各視点で論理的な意見を述べることができ、それらを総合して結論を述べられることが到達目標となります。

## 履修条件

積極的に授業に参加すること。授業への貢献が成績に大きく影響します。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	プロローグ<趣旨説明やチーム分けなど>	4月21日(土) ⑤16:50-18:20
2	第1章<レクチャー担当: 齋藤淳先生>	5月19日(土) 連5限-6限
3	第2章<レクチャー担当: 齋藤淳先生>	5月19日(土) 連5限-6限
4	第3章<レクチャー担当: 齋藤淳先生>	6月2日(土) 連5限-6限
5	第3章<レクチャー担当: 齋藤淳先生>	6月2日(土) 連5限-6限
6	第4章<レクチャー担当: 山本先生>	6月16日(土) 連5限-6限
7	第5章<レクチャー担当: 山本先生>	6月16日(土) 連5限-6限
8	第6章<レクチャー担当: 富田先生>	6月30日(土) 連5限-6限
9	第7章<レクチャー担当: 篠宮先生>	6月30日(土) 連5限-6限
10	第8章<レクチャー担当: 山本先生>	7月14日(土) 連5限-6限
11	第8章<レクチャー担当: 山本先生>	7月14日(土) 連5限-6限
12	第9章<レクチャー担当: 富田先生>	7月28日(土) 連5限-6限
13	第10章<レクチャー担当: 篠宮先生>	7月28日(土) 連5限-6限
14	第11章<レクチャー担当: 篠宮先生>	8月18日(土)

		連5限-6限
15	まとめ	8月18日(土) 連5限-6限
試験		

## 使用教科書／評価方法等

教科書	林總著『餃子屋と高級フレンチではどちらが儲かるか』ダイヤモンド社
参考書	適宜紹介
評価方法	担当部分の発表や発言を含む授業への貢献を出席ととして総合する割合 (60%)、期末レポート (40%)
その他	授業の進度は状況に応じて変化します。

ID: YA12212

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	基本	財務会計論	齋藤淳	15	2

## 授業の目的

企業会計原則、その後公表されている諸々の会計基準、実務指針等や会社法、金融商品取引法等の規定をも踏まえた上で、会計理論について、企業の実例を参照にしつつ、収支会計や税務計算と絡めながら一連の流れがつかめるように、その基本と更に重要論点につき解説することによって、広範な体系的な知識を身につける。触れていない重要論点については、会計制度Ⅰ・会計制度Ⅱにて引き続き取り上げる。

## 授業の到達目標

細切れの単なる知識ではなく会計を巡る広範な世界を体系的にかつ実践的に理解し使いこなせるようになること。

## 履修条件

簿記の基礎知識は必要。素直な心と懐疑心が肝要。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	簿記、会計とは、監査とは、情報のリテラシーとは何か、有機的結びつきを踏まえ、その意義・内容を体系的に解説する。情報を正しく読み解くには何が必要か、重要か。	4月22日(日) ⑤16:50-18:20
2	設例による財務諸表の体系と、損益計算、収支計算、所得計算についての理解を深める。固定資産の減価償却計算と継続性の変更、正当な理由等についても理解する。	5月13日(日) ⑤16:50-18:20
3	設例による財務諸表の体系と、損益計算、収支計算、所得計算についての理解を深める。後発事象、追加情報の内容、類型、決算書、監査報告書における開示等についても理解する。	5月20日(日) ⑤16:50-18:20
4	設例による財務諸表の体系と、損益計算、収支計算、所得計算についての理解を深める。キャッシュフロー計算書の意義と二つの作成方法、資金収支計算書のさまざまなパターンとの比較を行う。	5月27日(日) ⑤16:50-18:20
5	設例による財務諸表の体系と、損益計算、収支計算、所得計算についての理解を深める。決算書の体系と様式、流動性・固定性配列法、流動・固定区分等についても理解する。	6月3日(日) ⑤16:50-18:20
6	計算書類、財務諸表の体系・注記を含めた表示、株主資本等変動計算書について整理し、一株当たり情報、希薄化について理解する。	6月10日(日) ⑤16:50-18:20
7	企業会計原則の設定、監査基準の設定、一般原則、重要性の原則と税法通達の比較等を行い、更に損益アプローチと資産負債アプローチに触れつつ国際会計基準とも対比しながら理解を深める。	6月17日(日) ⑤16:50-18:20
8	収益認識、発生主義、実現主義、特殊販売、長期の請負工事特に工事進行基準について理解する。	6月24日(日) ⑤16:50-18:20
9	種々の引当金とその意義・要件・計算、財務諸表表示について税法とも比較しながら理解する。	7月1日(日) ⑤16:50-18:20
10	給与・報酬・賞与等人件費の会計と、退職給付会計の様々な概念の意義、体系、仕組みについて理解する。	7月8日(日) ⑤16:50-18:20
11	棚卸資産の評価基準、評価方法、財務諸表表示について理解する。更に、後入先出法についてその是非を考えてみる。	7月15日(日) ⑤16:50-18:20
12	同その2	7月22日(日) ⑤16:50-18:20
13	ソフトウェア・研究開発費、繰延資産の意義と会計処理について、諸税金の意義と算出の仕方、表示について理解する。	7月29日(日) ⑤16:50-18:20
14	外貨建取引、外貨換算会計についての内容と処理について、実際の計算を行いながら理解する。	8月5日(日) ⑤16:50-18:20

15	その他の財務諸表項目（詳しくは、会計制度Ⅰ、Ⅱにおいて解説する）について触れる。	8月19日（日） ⑤16:50-18:20
試験	期末試験を実施する。	8月26日（日） ⑤16:50-18:20

## 使用教科書／評価方法等

教科書	『会計監査六法 平成24年版』 日本公認会計士協会編 中央経済社
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価方法	期末テスト50%、授業中の発言等20%、出席30%
その他	

ID: YA12213

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	基本	簿記論	齋藤淳	15	2

## 授業の目的

会計理論、監査論等の学習を進める上で必要な簿記の基礎・入門編として初学者向けに、設例をもとに広く基本的な解説をしていきます。

## 授業の到達目標

対象は初学者向けですが、履修終了により一通りの簿記の知識と実務能力の習得を目指します。

## 履修条件

簿記の基本から解説を行いますので特に履修条件はありません。初学者は毎回復習を行ってください。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	簿記と会計の概括、複式簿記の基礎、決算書の仕組みと構造等の簿記に関する基礎と体系を理解する。	4月22日(日) ③13:30-15:00
2	現金預金の意義とそれに関わる様々な入金取引、銀行勘定調整表、当座借越、現金過不足等様々な処理を理解する。	5月13日(日) ③13:30-15:00
3	売上債権に関わる様々な取引、債権の回収可能性の評価による貸倒引当金、貸倒損失の処理を理解する。	5月20日(日) ③13:30-15:00
4	手形取引における、振出、指図、名宛、約束手形と為替手形、金融手形と商業手形、裏書・割引・不渡等の処理について理解する。	5月27日(日) ③13:30-15:00
5	諸税金其々の算出の仕方と処理、税効果会計の意義と計算、処理の仕方と理解する。消費税の意義と処理の仕方、処理方式の違いによる決算書への反映の仕方について理解する。	6月3日(日) ③13:30-15:00
6	税効果会計の意義と様々な処理を実際の企業の決算処理・開示をも絡めて理解する。	6月10日(日) ③13:30-15:00
7	有価証券の意義とそれに関わる全部純資産直入法、部分純資産直入法、償却原価法等の処理を理解する。	6月17日(日) ③13:30-15:00
8	棚卸資産につき様々な評価方法の処理と特徴を比較し、売価還元法、期末の評価についても理解する。	6月24日(日) ③13:30-15:00
9	有形固定資産の取得、除却・売却の取引と減価償却計算について理解する。	7月1日(日) ③13:30-15:00
10	有形固定資産の圧縮記帳、火災未決算等の処理を理解する。ここまでの授業内容につき、テストを実施し理解度の確認を行う。	7月8日(日) ③13:30-15:00
11	無形固定資産、市場販売目的と自社利用の場合のソフトウェア、繰延資産取引の処理につき理解する。	7月15日(日) ③13:30-15:00
12	従業員の給与・賞与、役員の報酬・賞与、賞与引当金、退職給付会計の諸取引について理解する。	7月22日(日) ③13:30-15:00
13	純資産取引につき新株式取引発行の取引や配当と準備金の積立、自己株式の取得、所有、処分取引、株主資本等変動計算書の内容等について理解する。	7月29日(日) ③13:30-15:00
14	工事完成基準・工事進行基準につき税法と会計の改正事項を含めて理解する。	8月5日(日) ③13:30-15:00
15	リースの変遷、分類、要件、会計処理を税務上の取り扱いと比較しつつ理解する。	8月19日(日) ③13:30-15:00
試験	期末試験を実施する	8月26日(日) ③13:30-15:00

## 使用教科書／評価方法等

教科書	その都度レジュメを配布する
参考書	『会計監査六法 平成24年版』日本公認会計士協会
評価方法	期末テスト50%、確認テスト等25%、出席25%
その他	



ID: YA12225

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	発展	税法会計	齋藤淳	15	2

## 授業の目的

会計専門職業人としては会計理論と税務を有機的に結び付けて理解することが肝要である。法人税、地方税、消費税等の諸税法と企業会計とを、一体化して解説し、具体的な会計処理、決算書上の表示、申告書の記載の仕方、税当局の見方、取扱い等実践的な点にまで言及する。適宜設例をもとに実際の計算も取込んで行う。

## 授業の到達目標

机上の空論でもなく、実務倒れでもない、会計の知識と税の知識そしてそれを有機的に結び付けて総合的にパランスの取れた実務的な処理判断ができる能力の習得を目指す。

## 履修条件

簿記会計の基礎知識は必要。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	損益計算と所得計算の違い、会計上の決算と申告業務との関連、青色申告・白色申告、確定決算、損金経理、申告調整等につき解説。大法人と中小法人の違いと取り扱いについても言及。	4月17日(火) ⑤19:30-21:00
2	租税特別措置法と法人税法、基本通達等の位置づけ、欠損金の繰越制度、繰戻し還付制度につき解説。	4月24日(火) ⑤19:30-21:00
3	企業に係わる諸税金についてその概要と体系、計算の仕方を解説。外形標準課税についても言及。確定納付、中間納付、予定納付の処理の仕方、源泉税のグロス処理とネット処理、法人税等の発生ベース処理と現金主義ベース処理とで会計と税務計算がどう変わるかを検討。	5月8日(火) ⑤19:30-21:00
4	受取配当金の益金不算入制度の仕組みにつき解説。消費税導入の経緯とその概要、過去の変遷と今後の動向について言及。	5月15日(火) ⑤19:30-21:00
5	消費税等の税込処理、税抜処理、課税取引、非課税取引、課税事業者、簡易課税、課税売上割合、総額表示等について仕訳、計算例も織り込んで解説。未払消費税等についての会計と税務計算がどう変わるかを検討。	5月22日(火) ⑤19:30-21:00
6	同上その二	5月29日(火) ⑤19:30-21:00
7	同上その三	6月5日(火) ⑤19:30-21:00
8	固定資産についての取得価額、減価償却計算、除却損失、有姿除却、圧縮記帳、修繕費と資本的支出、固定資産税、償却資産税等の諸テーマについて計算例も織り込んで解説。その一	6月12日(火) ⑤19:30-21:00
9	同上その二	6月19日(火) ⑤19:30-21:00
10	交際費、寄付金課税の意図と概要、子会社支援損について解説。	6月26日(火) ⑤19:30-21:00
11	グループ法人税制の概要と処理につき解説。	7月3日(火) ⑤19:30-21:00
12	営業収益の認識、工事進行基準、工事完成基準につき解説。	7月10日(火) ⑤19:30-21:00
13	リース取引についての会計処理と法人税、消費税法上の取扱いを解説。	7月17日(火) ⑤19:30-21:00
14	役員報酬、従業員給与、賞与、未払賞与、賞与引当金、退職金、退職給付引当金、役員退職慰労引当金等の諸テーマについて計算例も織り込んで解説。請負、外注、出向、人材派	7月24日(火) ⑤19:30-21:00

	遣にまつわる会計処理と法人税、消費税法上の取扱いを解説。	
15	貸倒損失と貸倒引当金の繰入と取崩における会計処理と法人税、消費税法上の取扱いを解説。会社設立、納税地、及び会社の解散と清算の計算につき解説。	8月7日(火) ⑤19:30-21:00
試験	期末試験を実施する	8月21日(火) ⑤19:30-21:00

## 使用教科書／評価方法等

教科書	特に指定しない。
参考書	「税務六法平成24年版法令編及び通達編」日本税理士連合会編集 ぎょうせい
評価方法	期末テスト50%、授業中の発言等20%、出席30%
その他	

ID: YA12238

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	応用実践	公会計	筆谷勇	15	2

## 授業の目的

公的部門の財務報告のあり方について理解する。そのためには、あるべき公会計・公監査・行政評価のあり方について、日本及び先進諸外国の「公的部門財務報告の理論と実務の実態」について調査研究する。

## 授業の到達目標

公認会計士、税理士、公的部門における財務コンサルタント・ファイナンシャル・プランナー等の財務マネジメント専門家の養成。

## 履修条件

日本商工会議所が実施する簿記検定試験 2 級程度以上をマスターすることが望まれる。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>「公会計」「公監査」「行政評価」の概要説明</li> <li>GASB 概念意見書第 1 号の研究</li> <li>JICPA (日本公認会計士協会) 公表の「公会計原則 (試案)」の研究・東日本大震災復旧・復興財源に関する基本的な考え方</li> </ul>	4月22日(日) 連4限-5限
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「公会計改革と行財政改革」の研究</li> <li>「民主党マニフェスト (税金の使途と公会計のあり方)」の研究</li> <li>「行政改革基本法 (案) (平成 10 年 6 月 17 日、国会提出)」の研究</li> </ul>	4月22日(日) 連4限-5限
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>IFAC (国際会計士連盟) の STUDY (研究報告) 第 11 号・第 14 号、および、IFAC/IPSAS (国際公会計基準第 1 号～第 21 号) をベースにして、日本及び先進諸外国の「公会計」の動向について研究</li> </ul>	5月13日(日) 連4限-5限
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>IFAC (国際会計士連盟) の STUDY (研究報告) 第 11 号・第 14 号、および、IFAC/IPSAS (国際公会計基準第 1 号～第 21 号) をベースにして、日本及び先進諸外国の「公会計」の動向について研究</li> </ul>	5月13日(日) 連4限-5限
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNA (国民経済計算) の概要について研究</li> <li>統計 (SNA・GFS (政府財政統計)・ESA95 (欧州桿状システム 95)) 等と「公会計制度」との比較研究</li> </ul>	5月20日(日) 連4限-5限
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>「IASB (国際会計基準審議会)」による IFRS (国際財務報告基準) と IPSAS (国際公会計基準審議会) による IPSAS (国際公会計基準) との比較研究</li> </ul>	5月20日(日) 連4限-5限
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>「政府監査基準の構造(同文館出版)」に基づいて、「公監査」について研究</li> </ul>	5月27日(日) 連4限-5限
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>「公監査を公認会計士・監査法人が実施する場合に必要な制度要因の研究調査」(日本監査研究学会・公監査研究特別委員会、編)に基づいて、「公監査」について研究</li> </ul>	5月27日(日) 連4限-5限
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>公的部門の「パブリック・ガバナンス」, [NPM(新公的部門マネジメント)], および、「公的部門の内部統制」の研究</li> </ul>	6月3日(日) 連4限-5限
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>INTOSAI (国際最高検査官会議)、米国、英国、等の「公監査基準」の研究</li> <li>先進各国の公的部門監査の概要についての研究</li> </ul>	6月3日(日) 連4限-5限
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>公的部門における「行政評価」の最近の動向について研究</li> </ul>	6月10日(日) 連4限-5限
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>公的部門における「行政評価」の理論と実務の研究</li> </ul>	6月10日(日) 連4限-5限
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>(非営利組織体の会計基準)の「特性」についての研究</li> <li>日本国・地方公共団体・独立行政法人・地方独立行政法人・国立大学法人・公益法人・社会福祉法人、等の「会計基準」の特性についての比較研究</li> <li>「地方公共団体財政健全化法(平成 19 年 6 月 22 日施行)」の内容と実態についての研究</li> </ul>	6月17日(日) 連4限-5限

14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東京都の会計基準」についての「理論」と「活用」についての研究</li> <li>・「地方行財政検討会議(平成22年1月20日発足)」の審議概要と今後の動向についての研究</li> <li>・地方公営企業会計基準の改正内容の解説</li> </ul>	6月17日(日) 連4限-5限
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「今後の新地方公会計の推進に関する研究会(平成22年9月30日発足)」の審議概要と今後の動向についての研究</li> <li>・IFAC・IPSASBのSTUDY(研究報告)第2号をベースに、公的部門における「会計の基礎」と「測定の焦点」の重要性についての再確認とその活用方法についての研究</li> </ul>	6月24日(日) 連4限-5限
試験	・期末レポートの提出による。	

## 使用教科書／評価方法等

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「公会計原則の解説」 筆谷 勇著 中央経済社 1998年</li> <li>・「政府監査基準の構造」 鈴木 豊編著 同文館出版 2005年</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「公会計原論」 筆谷 勇共著 株式会社 東京リーガルマインド 2004年</li> <li>・「自治体の公会計・監査の入門」 筆谷 勇共著 (株)ぎょうせい 2002年</li> <li>・「Q&amp;A 公会計読本」 筆谷 勇共著 (株)ぎょうせい 2004年</li> <li>・「公会計・監査用語辞典」 筆谷 勇共著 (株)ぎょうせい 2002年</li> </ul>
評価方法	期末レポート50%、出席50%
その他	

ID: YA12243a

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	応用実践	IFRS 研究	富田幸恵	15	2

## 授業の目的

IFRS の基本的概念について考察をおこない、その基本的な考え方を理解し、グローバルに活躍できる会計専門職業人としての高い見識の習得を目的とする。

## 授業の到達目標

IFRS の基本的な考え方を理解し、IFRS 原文を論理的に解析することにより、その意味内容を一義的に特定できるようになることを目標とする。そのような能力を身につけることで、今後も流動的な IFRS に対応可能な、グローバルに活躍できる会計専門職業人となることを目標とする。

## 履修条件

特になし

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	IFRS とは？IFRS の特色	4月21日(土) ②11:10-12:40
2	概念フレームワーク(1):財務報告とその目的①	5月12日(土) ②11:10-12:40
3	概念フレームワーク(2):財務報告とその目的②	5月19日(土) ②11:10-12:40
4	概念フレームワーク(3):財務報告とその目的③	5月26日(土) ②11:10-12:40
5	概念フレームワーク(4):構成要素とその認識・測定①	6月2日(土) ②11:10-12:40
6	概念フレームワーク(5):構成要素とその認識・測定②	6月9日(土) ②11:10-12:40
7	概念フレームワーク(6):構成要素とその認識・測定③	6月16日(土) ②11:10-12:40
8	IFRS に基づく連結財務諸表のケーススタディー (HOYA 株式会社): 外貨建取引(1)	6月23日(土) ②11:10-12:40
9	IFRS に基づく連結財務諸表のケーススタディー (HOYA 株式会社): 外貨建取引(2)	6月30日(土) ②11:10-12:40
10	IFRS に基づく連結財務諸表のケーススタディー (HOYA 株式会社): 外貨建取引(3)	7月7日(土) ②11:10-12:40
11	IFRS に基づく連結財務諸表のケーススタディー (HOYA 株式会社): 有形固定資産(1)	7月14日(土) ②11:10-12:40
12	IFRS に基づく連結財務諸表のケーススタディー (HOYA 株式会社): 有形固定資産(2)	7月21日(土) ②11:10-12:40
13	IFRS に基づく連結財務諸表のケーススタディー (HOYA 株式会社): のれんを除く無形資産(1)	7月28日(土) ②11:10-12:40
14	IFRS に基づく連結財務諸表のケーススタディー (HOYA 株式会社): のれんを除く無形資産(2)	8月4日(土) ②11:10-12:40
15	総括	8月18日(土) ②11:10-12:40
試験		8月25日(土) ②11:10-12:40

## 使用教科書／評価方法等

教科書	『エッセンシャル IFRS』(第2版) 秋葉賢一 中央経済社
参考書	
評価方法	試験 25%、出席 75%
その他	注意事項：授業の内容は進度などに応じて変わることがあります。

ID: YA12239

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	通年	応用実践	財務会計論研究指導 【2011年度以前入学生対象】	若杉明	30	4

## 授業の目的

われわれは問題に直面した場合、これを解決するために、種々の方法を用いて解決策を見出さなければならない。財務会計論演習指導においては、このようなプロセスにおける会計的ものの考え方、方法の選択と適用等についてのトレーニングを通じて、各自が財務会計に関するテーマについて論文を作成するための指導を行います。論文指導は、たんなる講義だけでは得られない思考力と創造力を培い、高度の職業会計人の育成に役立ちます。

## 授業の到達目標

職業会計人は企業会計の実務的専門家として、常に種々の問題解決に取り組まなければなりません。本演習指導においては、会計職業専門家としての適切な判断が行使でき、創造的な指導力を発揮できる人材の養成を目標としています。

## 履修条件

--

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	情報科学としての企業会計の特質について考察する。 会計情報の概念、会計ディスクロージャ・システム、企業会計の社会的役割等、財務会計の社会科学としての基礎的性格について学習し、議論する。	4月23日(月) ⑤19:30-21:00
2	同上	5月7日(月) ⑤19:30-21:00
3	同上	5月14日(月) ⑤19:30-21:00
4	財務会計に関する研究および論文作成の基礎となる諸理論、すなわち情報理論、コミュニケーション理論、システム理論、プラグマティズムの哲学、概念の定義法等について学習し、議論する。	5月21日(月) ⑤19:30-21:00
5	同上	5月28日(月) ⑤19:30-21:00
6	財務会計に関する研究および論文作成にとって必要な各種の方法について学習する。すなわち会計公準論、会計主体論、伝統的な帰納法と演繹法、意思決定の方法、起承転結の論理、問題解決の方法、仮説演繹法、コンテインジェンシー理論等について学び、それらの応用について実践する。	6月4日(月) ⑤19:30-21:00
7	同上	6月11日(月) ⑤19:30-21:00
8	同上	6月18日(月) ⑤19:30-21:00
9	一般に認められた会計基準(GAAP)について、その役割、性格、種類、機能等について学ぶ。さらに国際会計基準(IFRS)とわが国会計基準との関係、すなわちハーモナイゼーション(調和化)、コンヴァージェンス(収束)およびアドプション(全面的導入)について議論する。	6月25日(月) ⑤19:30-21:00
10	同上	7月2日(月) ⑤19:30-21:00
11	金融商品等の会計;金融商品の概念、時価情報開示の必要性、金融商品の貸借対照表価額の算定、ヘッジ会計等について学習し、議論する。	7月9日(月) ⑤19:30-21:00
12	同上	7月16日(月) ⑤19:30-21:00
13	リース取引の会計;リース取引の分類、ファイナンス・リース取引の会計処理および表示、オペレイティング・リース取引の会計処理および表示等について学習し、議論する。	7月23日(月) ⑤19:30-21:00

14	同上	8月6日(月) ⑤19:30-21:00
15	退職給付会計；退職給付に関する諸概念の定義、負債の計上、退職給付費用の処理、貸借対照表および損益計算書の表示等について学習し、議論する。	8月20日(月) ⑤19:30-21:00
16	退職給付会計；退職給付に関する諸概念の定義、負債の計上、退職給付費用の処理、貸借対照表および損益計算書の表示等について学習し、議論する。	10月1日(月) ⑤19:30-21:00
17	税効果会計；税効果会計の目的、税効果に係る会計基準、繰延税金資産および繰延税金負債の計上方法および表示方法等について学習し、議論する。	10月8日(月) ⑤19:30-21:00
18	同上	10月15日(月) ⑤19:30-21:00
19	キャッシュ・フロー計算書の作成；キャッシュ・フロー計算書の財務諸表における位置づけ、作成目的、作成基準、表示方法等について学習し、議論する。	10月22日(月) ⑤19:30-21:00
20	同上	10月29日(月) ⑤19:30-21:00
21	固定資産の減損会計；減損会計の整備の必要性、対象資産、減損損失の認識と測定、減損処理後の会計処理、ファイナンス・リース取引の取扱い、投資不動産の会計処理等について学習し、議論する。	11月5日(月) ⑤19:30-21:00
22	同上	11月12日(月) ⑤19:30-21:00
23	企業結合会計；企業結合会計の整備の必要性、取得と持分の結合の考え方、取得の会計処理、持分の結合の会計処理、共通支配下の取引等の会計処理等について学習し、議論する。	11月19日(月) ⑤19:30-21:00
24	同上	11月26日(月) ⑤19:30-21:00
25	研究開発費の会計；研究開発費の定義、研究開発費を構成する原価要素、研究開発費に係る会計処理、ソフトウェア制作費の会計処理等について学習し、議論する。	12月3日(月) ⑤19:30-21:00
26	同上	12月10日(月) ⑤19:30-21:00
27	連結財務諸表制度；連結財務諸表の目的、連結の範囲、連結貸借対照表の作成、連結損益計算書の作成、連結剰余金計算書の作成等について学習し、議論する。	12月17日(月) ⑤19:30-21:00
28	同上	1月7日(月) ⑤19:30-21:00
29	企業犯罪の概念と経営倫理；企業犯罪と企業の不祥事、企業犯罪の分類、企業の社会的責任(CSR)、経営者と経営倫理等について学習し、議論する。	1月14日(月) ⑤19:30-21:00
30	企業価値と企業評価；企業価値の概念、企業価値と知的財産、企業価値形成における人的資源の役割、企業評価の概念と必要性、企業評価の諸方法について学習し、議論する。	1月21日(月) ⑤19:30-21:00
試験		1月28日(月) ⑤19:30-21:00

## 使用教科書／評価方法等

教科書	『企業会計の基礎的考え方』若杉明著 LEC会計大学院叢書 第3巻 2009年 会計学関係の専門誌に掲載されている各種の論文。
参考書	『現代財務会計』野村健太郎著 税務経理協会 2008年 『グローバル財務報告 — その真実と未来への警鐘』 J. J. ベンストン他著、川村義則、石井 明 監訳 中央経済社 2009年
評価方法	期末テストまたはレポート80%、出席20%
その他	



ID: YA12312

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	基本	管理会計論	林總 小林健吾 山本宣明	15	2

## 授業の目的

本会計大学院の管理会計領域全体の目的は、会計情報を利用したコンサルティング、会計ソリューションの提案ができる人材の養成にあります。管理会計領域の基本科目に位置付けられる本科目の目的は、管理会計がその名の通りマネジメントのための会計の技法であることを理解することです。ここで言うマネジメントが想定する内容は、基本的に利益計画を中心とする Plan-Do-See のサイクルです。そのサイクルに関連する技法を全体観を失わない形で理解して欲しいと思います。

授業の進め方としては、講義と共に履修者によるプレゼンテーションとディスカッションを取り入れます。また、昨年度の反省を踏まえ、具体的もしくは仮想的な問題をベースに授業を進めたいと考えています。8回目と15回目では、それぞれ諸井先生と小林先生をゲストに迎え、貴重な講義をしていただく予定です。

## 授業の到達目標

管理会計がマネジメントのための技法であることを理解し、各技法を利益計画全体の一部として位置付けられるようになること。

## 履修条件

必修科目なので制限を加えるということはありません。ただし、積極的に授業に参加することを求めます。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	<企業経営の基本目標と利益計画> 企業経営の基本目標は「満足できる利益」の実現にあります。利益計画は、この基本目標を達成するための計画です。「満足できる利益」とは何か。利益計画はどのような要素を含むものか。初回は管理会計の諸技法の基本的位置付けを行います。	4月19日(木) ⑤19:30-21:00
2	<予算の発展史> 予算の本質は何か。予算はどのような段階を経て発展してきたのか。各段階でどのような技法を整備していったのか。以上のような点を取り上げます。	4月26日(木) ⑤19:30-21:00
3	<CVP分析> 利益計画を立てる基本となるCVP分析について理論的に検討します。また、利益計画の立案にリニア・プログラミングが果たす役割を議論します。	5月10日(木) ⑤19:30-21:00
4	<予算編成の基本プロセス> 予算の種類として業務予算と資本(財務)予算を示し、業務予算の編成に焦点を当てて議論します。	5月17日(木) ⑤19:30-21:00
5	<中長期経営計画と予算> 予算編成の基礎となる中長期経営計画との関連を中心に上げます。特に原価企画に注目し、中長期経営計画と予算が連動することの重要性を考察します。	5月24日(木) ⑤19:30-21:00
6	<固定予算・変動予算・ローリング予算> 当初予算に位置付けられる固定予算と、実績との合理的な比較基準となる変動予算を検討します。また、ローリング予算の実態と可能性について議論します。	5月31日(木) ⑤19:30-21:00
7	<差異分析の実践的可能性と Beyond Budgeting> 伝統的な差異分析の手法と共に、『レバンス・ロスト』以降に提唱された差異分析を検討します。加えて、差異分析の在り方を根本的に否定もしくは変えようとする Beyond Budgeting について議論します。	6月7日(木) ⑤19:30-21:00
8	<諸井先生特別講義> わが国の管理会計を語る上で欠かすことのできない諸井先生に、ご自身の学問遍歴、すなわち原価計算からファイナンスへの道程について講義して頂きます。諸井先生の講義を聴けば、管理会計の問題意識の広がりご理解できます。そのことを共有して下さい。	6月14日(木) ⑤19:30-21:00

9	<p>&lt;在庫管理とキャッシュ・コンバージョン・サイクル&gt;          業務予算の連結環である在庫に注目し、関連する債権・債務の流れを取り上げます。自ずと、ジャスト・イン・タイムの理論的意義を明らかにすることになるでしょう。さらに同活動を支える業績測度の在り方を検討します。</p>	6月21日(木) ⑤19:30-21:00
10	<p>&lt;資本予算とキャッシュ・フロー&gt;          資本予算の基本的な評価法を概観すると共に、日本企業の実態について議論します。ここでも利益計画の一環として資本予算を捉えることの重要性を確認します。</p>	6月28日(木) ⑤19:30-21:00
11	<p>&lt;バランスト・スコアカード&gt;          予算管理の発展からバランスト・スコアカードをどのように位置づけることが適切なか。バランスト・スコアカードの概要と共に実践的な含意を抽出します。</p>	7月5日(木) ⑤19:30-21:00
12	<p>&lt;業績評価の測度と報酬&gt;          事業部などの組織単位を評価する測度を整理し、報酬設計に関する議論を検討します。</p>	7月12日(木) ⑤19:30-21:00
13	<p>&lt;日本型事業部制と管理会計&gt;          日本企業の独特な組織構造を概観し、管理会計との関連を深堀します。</p>	7月19日(木) ⑤19:30-21:00
14	<p>&lt;国際管理会計&gt;          為替リスクへの対応と国際振替価格を中心に検討します。移転価格税制との関連にも注目します。</p>	7月26日(木) ⑤19:30-21:00
15	<p>&lt;シミュレーションによる利益計画&gt;          小林健吾先生による表計算を用いた利益計画の講義となります。詳細は意思決定会計で展開されるものですが、基本科目である本科目においてそのエッセンスを伝えて頂きます。</p>	8月9日(木) ⑤19:30-21:00
試験	期末レポート	

## 使用教科書／評価方法等

教科書	林總著『新版 わかる!管理会計—経営の意思決定に役立つ会計のしくみを学ぶ』ダイヤモンド社
参考書	適宜紹介
評価方法	宿題や小テスト 20%、期末レポート 40%、授業出席・貢献度 40%
その他	授業内容などは進度に応じて変化します。

ID: YA12324

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	発展	マネジメント・コントロール・システム論	山本宣明	15	2

## 授業の目的

管理会計領域全体の目的は、会計情報を用いたコンサルティングやソリューションの提供ができる人材の養成にあります。その中で本科目が目指すのは、管理会計システムのテクニカルな側面ではなく、概念的ないし理論的な理解を構築することです。つまり、管理会計システムを構築する前段階に位置付けられるのが本科目です。

マネジメント・コントロール・システムという考え方は、管理会計諸技法の論理的統合とされています。何らかの管理会計システムを構築しようとする時、マネジメント・コントロール・システムという考え方を持つことは、適切かつ効率的なシステム設計を可能にします。企業だけでなく、あらゆる事業体の経営を考える時にも、マネジメント・コントロール・システムという視点は有用です。本科目は、ベーシックな考え方から比較的新しい試みまで履修者の要望に対応しながら進行します。

## 授業の到達目標

マネジメント・コントロール・システムという発想、言い換えると全体最適の思考法を身につけること。

## 履修条件

管理会計論か原価計算論を履修していること。加えて今年度からゼミ方式を採り入れるため、希望者が多い場合は管理会計論や原価計算論の成績と事前レポートなどで選抜します。最大 15 名程度で考えています。もちろん少なければ ALL O.K. です。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	マネジメント・コントロール・システムの特性について、中心となる問題（戦略実行）と基本概念（目標整合性）を紹介しします。また、戦略の策定やタスク・コントロールとの差異に注目しします。	9月1日（土） 連3限-4限
2	マネジメント・コントロール・システムが想定する戦略実行の内容について講義を行います。また、戦略を実行する具体的な手段である責任センターについて概要を中心に紹介しします。	9月1日（土） 連3限-4限
3	責任センターの特性を概観し、レベニュー・センターとエクスペンス・センターに焦点を当てます。インプットとアウトプットの関連付けや測定問題、効率性と有効性の峻別、利益の役割を紹介しします。	9月2日（日） 連3限-4限
4	プロフィット・センターを詳細に検討しします。前提条件、メリット、デメリット、基本型、応用型といった点を巡って議論しします。業績評価の各種利益概念にも言及しします。	9月2日（日） 連3限-4限
5	1回目から4回目までの講義を小括しします。また、ゲスト講師を迎えて表計算によるシステムの実装について討議しします。システムの実装を目指して、どのような点を考慮する必要があるのか、議論を深める機会にしたいと思います。	9月8日（土） 連3限-4限
6	インベストメント・センターについて講義しします。投下資本利益率や残余利益を用いることのメリットとデメリットを検討しします。また、投下資本に含める資産の範囲や資本コストの設定などにも言及しします。	9月8日（土） 連3限-4限
7	日本企業の事業部制の特性と変遷を捉えします。特にアンソニーが考える事業部制との異同に注目し、そのメリットとデメリットを検討しします。更に大企業を中心とする近年の組織再編の動向を管理会計の観点から分析しします。	9月9日（日） 連3限-4限
8	ミニ・プロフィット・センターを取り上げます。特に擬似ミニ・プロフィット・センターについて検討しします。マネジメント・コントロール・システムの基本概念から理論的にどのように位置づけることができるのか、事例も取り扱って議論を深めます。	9月9日（日） 連3限-4限
9	ミニ・プロフィット・センターを引き続き取り上げます。特に真性ミニ・プロフィット・センターについて検討しします。京セラのアメリカ経営を概説し、その会計的側面に焦点を当てます。	9月15日（土） 連3限-4限

10	コスト・センターの戦略的管理の方法として、トヨタの原価企画と原価改善を取り上げます。合わせて品質原価計算の議論にも言及します。この回の内容は第 11 回の戦略的コスト・マネジメントに連なるものとなります。	9月15日(土) 連3限-4限
11	原価企画の理論的含意について講義します。戦略的コスト・マネジメントの概要と基本となる考え方を押さえ、更に従来の管理会計との関連に焦点を当てます。本回を以って戦略的コスト・マネジメントの全体像を理解することを目標にします。	9月16日(日) 連3限-4限
12	バランスト・スコアカードを取り上げます。単にそのものを取り上げるだけでなく、その意図するところ、中心となる概念と実装する技術について議論していきます。いわゆるKPIを理論的に捉え掘り下げることに重点を置きます。	9月16日(日) 連3限-4限
13	6回から12回までの内容を小括します。ここまでの内容をシステムとして実装するポイントについて議論します。また、経営学の議論に触れながら、経営事象の捉え方を検討します。	9月17日(月) 連3限-4限
14	レベニュー・センターに注目し、レベニュー・マネジメントについて講義を行います。顧客別収益性分析やABC分析の含意を捉え、システムとしてどのような考えに基づいて実装する必要があるのかを議論します。	9月17日(月) 連3限-4限
15	本講義のラストは、不確実性への対処法として脱予算の議論を紹介し、表計算によるシミュレーションが持つ可能性を説明します。脱予算の議論が単純な予算無用論ということではなく、問題意識が不確実性への対応にあることを示し、表計算技術を使ったシミュレーションが予算管理にもたらすインパクトを検討します。	9月20日(金) ⑤19:30-21:00
試験	期末レポート(3,000字程度。コンサルタントとして問題を設定し、解決策を提示する。)	

## 使用教科書/評価方法等

教科書	特に指定しない。
参考書	『Management Control Systems』Anthony and Govindarajan 著 McGraw Hill Higher Education; 12th Revised edition 版 2006年
評価方法	期末レポート40%、出席(発表や議論など授業への貢献を含む)60%
その他	進度などは状況に応じて変化します。 講義日程は、変更が生じる可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

ID: YA12333a

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	応用実践	意思決定会計	小林健吾	15	2

## 授業の目的

本講義では、企業の各種の意思決定問題に関連する原価と収益の分析と、それらの情報の利用について実践的な教育を行う。本講義を通じて、受講者が企業の意思決定のための会計のフレームワークを理解するのみならず、パソコンを駆使して経営管理者に高度な情報を提供する技法を身につけてもらう。パソコンの利用を創造的に取り組めるように工夫する。

上述の目的に即して、本講義で取り扱うトピックは、①意思決定の基本的な理論である差額利益概念と、②パソコンによるゴールシークやソルバーを利用した多重的な分析技法の活用、③主観確率の利用を含めた不確実性に対応した経営意思決定のための情報の提供を、高度な数字のケースも視野に入れて受講生自身に課題を課しながら取り上げる。

## 授業の到達目標

本講義の到達目標は、終了時に受講者が意思決定の問題にパソコンの高度な活用によって、正しく対応できる能力を持つことである。職業会計人に必要な経営意思決定を支援する理論と実践の知識を得て、問題を体系的かつ論理的に処理する能力を身につけ、経営管理者に適切な情報を創造的に提供できることを目標とする。

## 履修条件

パソコンの表計算を高度に利用するが、開講時には表計算ソフトの基礎的な利用が出来る程度でよい。当初から使いこなすことは要求しない。しかし終了時までにはゴールシークやソルバーのほか、各種の表関数やユーザー定義関数の活用、さらにユーザー定義関数やマクロを利用した問題の処理まで行うので、事前にこれらの知識を習得していれば好ましいが、そうでない場合には講義の進行に応じて習得活用する意欲を持つことが不可欠である。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	入門としてまず、パソコンによって意思決定のための情報が有効かつ迅速に提供できることを体験してもらうために、原価分解と損益分岐点分析を取り上げる。ここでは費用な分析が差額利益分析であることの体験と、従来の分析技法とパソコンによる分析とが、どれほど違ってくかを体験的に学習して、パソコンの利用の必要を理解してもらうことに重点を置く。ゴールシークの利用や回帰式を求める方法なども習得する。	4月21日(土) ①9:30-11:00
2	入門的な学習の第2回として、従来説明されてきた意思決定会計での技法の例として使用材料の変更の選択案の例を取り上げ、不確実性を考慮しない分析がいかに脆弱であるかを体験してもらい、意思決定が諸要素の予測・見積もりに基づく異から、不確実性の問題への配慮を欠いては、信頼される経営管理のための情報を提供し得ないことを体験する。	5月12日(土) ①9:30-11:00
3	2回の入門的な学習に基づいて、ある投資決定の例を通して、現代の会計情報の経営管理への課題を、企業の常務会から経理部への注文のかたちでまとめ、この講義の基本的なシナリオとして提示する。そして、この現在の管理会計の課題の達成には、What-If分析を活用したシミュレーション技法が有効なことを明確にして、この授業科目の技法として位置づける。	5月19日(土) ①9:30-11:00
4	設備の取替で予測の誤りによって有利さが逆転する例によってシミュレーションの要領と、簡単な製品数2制約条件3のリニア・プログラミング(LP)の問題によって表計算を利用したシミュレーション・モデルの作成を基礎演習①として実施する。ここでLPを取り上げるのは、シミュレーションの要領の学習として適切であることとともに、意思決定会計の分析の拡大にきわめて有効な技法であることによる。この今後の展開のための基礎演習でもある。	5月26日(土) ①9:30-11:00
5	基礎知識講座①として、われわれの分野で不当に注目されてこなかった離散事象と連続事象の区別と、それぞれに対する資料からの有利さの評価の問題を取り上げる。特に連続事象に対しては回帰分析の適用とこれを活用してゴールシークを行う方法を採り上げ、絶対番地、IF構文、ユーザー定義関数を利用したシミュレータの効果的な作成を学習する。この週に「提出課題1」を出題する。問題はすでにテキストに印刷されている。	6月2日(土) ①9:30-11:00

6	基礎演習②として、ソルバーの活用を LP 問題によって実施するとともに、複雑な代替案の選択問題になると、従来の方法では十分でなく、LP の利用が有効なることを学習する。この週に提出課題 2」を出題する。この問題もテキストに印刷し、配布炭である。	6月9日(土) ①9:30-11:00
7	基礎演習③として広告費の効果の分析例によって、回帰分析を利用して販売量を予測する例によって、利用するグラフの種類による相違、回帰式を利用した分析での問題点、関連範囲の概念の重要性などを演習する。回帰式の信頼性の評価の問題は第 15 週に予定している。	6月16日(土) ①9:30-11:00
8	これまでは当然として取り上げてきたところの差額利益分析について、なぜ差額利益分析が必要か、なぜそれでよいのか、どのような範囲について考えるべきなのかを、部品を自家製造するか外注加工するかの問題例で採り上げる。これを通して代替案の選択では部分的な最適化の判断基準ではなく、総合的な最適化の必要性と、どのような意味での総合化が考えられべきかを学習する。	6月23日(土) ①9:30-11:00
9	管理会計において本来的な原理にぞくするものと、便宜的に適用されている原則との分けて認識する訓練として、投資決定法で取られる現在価値の概念を取り上げて、終点価値と対比してその特徴をシミュレーションによって分析する。ここでは上の識別とともに、シミュレータの作成の演習も兼ねる。なおこの認識は次週からの長期的な意思決定の原理を考える基礎になる。	6月30日(土) ①9:30-11:00
10	長期的な経営意思決定の問題を投資案の評価を通して取り上げる。ここでは従来とは比較にならないほど詳細でしかも不確実性に十分に配慮した分析が、表計算を利用したシミュレーションによって可能なることを学習する。特にいくつかの要因について不確実性が見いだされる場合にどのような分析が可能であるかが重要なテーマとなる。なお確率の利用は、第 14 週以降に取り上げる。	7月7日(土) ①9:30-11:00
11	先週の続き。「提出課題 3」の出題。問題はテキストに印刷済みであるが、状況によって一部修正や問題の取り替えも想定している。	7月14日(土) ①9:30-11:00
12	短期的な意思決定問題の例として、3 製品で 3 制約条件の場合のセールスマックスの決定、製品の採算性の基準(どの製品が有利な製品かの判断基準)が工業企業でも粗利益率であり得るか、何によって判断されるか、差額利益分析との関連を学習する。	7月21日(土) ①9:30-11:00
13	管理会計は経営工学の諸問題の技法を積極的に取り入れることで有効な分析が可能なることを、最適バッチサイズの設定と複雑な LP 問題の例で取り上げて学習する。前者については従来の公式によるのでは解決できないような問題も、表計算とソルバー等を利用したシミュレーションによって解決案が見いだされる。この週には最後の「提出課題 4」を出題する。この問題は製品数 4 つ、制約条件皮膚条件等も含めると合計 19 になる実践的レベルの LP 問題であるが、例年の受講者はこなしているレベルの問題である。	7月28日(土) ①9:30-11:00
14	意思決定出の不確実性に対応するための確率を利用した評価法を学習する。この週では標準偏差は知られているものとしてその利用法を取り上げ、特に確率を利用しない場合と比較してどのような提供する情報の違いが出るかを中心に学習する。ここでは統計学的な理論を取り上げるのではなく、利用者の立場で学習するから、特に統計学の理論についての知識を前提としない。	8月4日(土) ①9:30-11:00
15	経営では客観確率の利用できる例は非常に限られている。そこで主観確立を利用して不確実性を評価する方法を学習する。また標準誤差を利用した回帰分析の信頼性の検討の問題にもおよびたいが、例年時間の制約上断念することが多いことを断っておこう。	8月18日(土) ①9:30-11:00
試験	実施しない。	

## 使用教科書／評価方法等

教科書	作成した講義録を配布してテキストとする。毎年変わっているので、注意されたい。
参考書	講義の時間中に必要な参考書は適時指摘する。
評価方法	課題を 4 回ほど出すので、これの解答の提出が 75%、出席 25%。
その他	課題はできるだけ早く e メールで提出して添削を受けること。期限ぎりぎりに提出して添削の余裕時間のないのは、よい評価は得られない。

ID: YA12335

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	応用実践	応用管理会計	林總	15	2

## 授業の目的

管理会計は経営に役立たなくてはなりません。ところが、管理会計を使いこなせない、あるいはそもそも管理会計がよくわからないといった悩みを抱えている実務家、学生は少なくありません。その原因は、経営者の視点に立って管理会計を学んでいないからです。こうした理由から、マネジメントを発明したP.F. ドラッカーの著書の中で、管理会計のテキストと言うべき「創造する経営者」を精読し、ディスカッションを重ねることで、マネジメントのための会計の意味を理解、実感することを目的とします。

## 授業の到達目標

ドラッカーの著書を通じて、経営者はどのような視点で会社を経営し、会計をどのように利用しているかを理解することを到達目標とする。

## 履修条件

各回、予習をしてくること。2回目までに「ドラッカーと会計の話しよう」を読みドラッカー会計の概要を学習しておくこと。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	P.F. ドラッカーの会計観を概観する。 『創造する経営者』全体を通じて、どのような議論が為されているのかを把握する。また会計と言う視点から捉えると、どのような理解ができるのか考えて行く。ドラッカーは現在の会計学の考え方とは異なる発想で会計を表現していたりするので、初回は違いがあるという認識を共有する。	4月21日(土) ④15:10-16:40
2	第1章「企業の現実」を取り上げる。	5月12日(土) ④15:10-16:40
3	第2章「業績をもたらす領域」を取り上げる。	5月19日(土) ④15:10-16:40
4	第3章「利益と資源、その見通し」取り上げる。	5月26日(土) ④15:10-16:40
5	第4章「製品とライフサイクル」を取り上げる。	6月2日(土) ④15:10-16:40
6	第5章「コストセンターとコスト構造」を取り上げる。	6月9日(土) ④15:10-16:40
7	第6章「顧客が事業である」を取り上げる。	6月16日(土) ④15:10-16:40
8	第7章「知識が事業である」を取り上げる。	6月23日(土) ④15:10-16:40
9	第8章「これがわが社の事業である」を取り上げる。	6月30日(土) ④15:10-16:40
10	第9章「強み基礎とする」を取り上げる。	7月7日(土) ④15:10-16:40
11	第10章「事業機会の発見」を取り上げる。	7月14日(土) ④15:10-16:40
12	第11章「未来を今日築く」を取り上げる。	7月21日(土) ④15:10-16:40
13	第12章「意思決定」を取り上げる。	7月28日(土) ④15:10-16:40
14	第13章「事業戦略と経営計画」を取り上げる。	8月4日(土) ④15:10-16:40
15	第14章「業績をあげる」を取り上げる。	8月18日(土) ④15:10-16:40
試験	期末レポート	

## 使用教科書／評価方法等

教科書	『創造する経営者』P.F. ドラッカー原著 ダイアモンド社 2007年『ドラッカーと会計の話をしよう』林總著 中経出版 2010年
参考書	『ネクストソサエティ』P.F. ドラッカー原著 ダイアモンド社 1995年
評価方法	期末レポート 25%、出席(授業への貢献を含む) 75%
その他	



ID: YA12338

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	通年	応用実践	管理会計論研究指導 【2011年度以前入学生対象】	山本宣明 以下、研究指導 委員会	30	4

## 授業の目的

本科目は修士論文作成を目的としています。2年目は何よりも論文の完成そして合格が目標となりますが、その目的は各専門の論理的思考を身につけることにあります。修士論文の審査でそのことが明確に分かるよう、本科目では良い議論を積み重ねていきたいと思ひます。

## 授業の到達目標

修士論文の完成・審査での合格

## 履修条件

既に1年目の研究指導を経ていること。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	2年目の前期は修士論文本体の骨格となる先行研究の検討をとりまとめることが、まず必要になります。したがって、本論でのオリジナルの分析に入る前に、きっちりと先行研究の検討ができるよう授業では議論を積み重ねていきます。	5月12日(土) 連5限-6限
2	各自の発表と議論	5月12日(土) 連5限-6限
3	各自の発表と議論	5月26日(土) 連5限-6限
4	各自の発表と議論	5月26日(土) 連5限-6限
5	各自の発表と議論	6月9日(土) 連5限-6限
6	各自の発表と議論	6月9日(土) 連5限-6限
7	各自の発表と議論	6月23日(土) 連5限-6限
8	各自の発表と議論	6月23日(土) 連5限-6限
9	各自の発表と議論	7月7日(土) 連5限-6限
10	各自の発表と議論	7月7日(土) 連5限-6限
11	先行研究の検討がまとまった方から順次、暫定的な結論を固める作業に取り掛かります。あくまで暫定的な結論ですから、完全無欠なものにする必要はありません。これは、本論の完成に向けた作業と並行しつつ議論を積み重ねたいと思ひます。	7月21日(土) 連5限-6限
12	各自の発表と議論	7月21日(土) 連5限-6限
13	各自の発表と議論	8月4日(土) 連5限-6限
14	各自の発表と議論	8月4日(土) 連5限-6限
15	各自の発表と議論	8月25日(土) ⑤16:50-18:20
16	後期が始まる直前、夏季休暇の最終週あたりにプレ結論の発表会を行います。ここでは、先行研究の検討結果、本論での分析経過を踏まえてどのような結論になりそうか発表して	10月13日(土) 連5限-6限

	もらい、それに基づいて先生方から様々アドバイスをもらったり議論をしたりします。後期は、その機会を受けていよいよ本論の完成に向けて最後の詰めを行っていきます。	
17	各自の発表と議論	10月13日(土) 連5限-6限
18	各自の発表と議論	10月27日(土) 連5限-6限
19	各自の発表と議論	10月27日(土) 連5限-6限
20	各自の発表と議論	11月10日(土) 連5限-6限
21	各自の発表と議論	11月10日(土) 連5限-6限
22	各自の発表と議論	11月24日(土) 連5限-6限
23	各自の発表と議論	11月24日(土) 連5限-6限
24	各自の発表と議論	12月8日(土) 連5限-6限
25	各自の発表と議論	12月8日(土) 連5限-6限
26	各自の発表と議論	12月22日(土) 連5限-6限
27	各自の発表と議論	12月22日(土) 連5限-6限
28	各自の発表と議論	1月19日(土) 連5限-6限
29	各自の発表と議論	1月19日(土) 連5限-6限
30	修士論文の審査は全部で3回の機会を設ける予定です。これは租税法研究指導に合わせる為ですが、要するに3回の提出するチャンスがあるということです。早く完成する場合は12月上旬の審査を受けることができるようになると思います。ですので、できるだけ前のめりで完成に向けて全力疾走していきましょう。後期はとにかく完成に向けて論文全体を整備していくことになります。	2月2日(土) ⑤16:50-18:20
試験	修士論文の完成・審査の合格	

## 使用教科書/評価方法等

教科書	特に無し
参考書	特に無し
評価方法	修士論文の完成・合格40%、出席・貢献度60%
その他	

ID: YA12512a

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	基本	監査論	篠宮雅明	15	2

## 授業の目的

現代の市場経済では、企業に対して財務内容の開示が求められており、開示の主要な手段である財務諸表については、適正性に関する独立した公認会計士又は監査法人による監査が必要とされている。その意味で、財務諸表の監査は、市場経済を支える重要な役割を担っている。  
本講義では、財務諸表の監査を中心とした監査の目的から機能、我が国における監査制度、監査基準の構成、監査実施のプロセスについて学習していく。

## 授業の到達目標

監査の制度的枠組みや監査実施上の基本的な考え方・技術・意見形成の過程を理解することにより、監査理論の基礎を習得することを目標とする。

## 履修条件

なし

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	財務諸表監査の目的 財務諸表監査の必要性、監査人がなすべきこと、利害関係者が監査人に期待すること、監査人がなすべきことと期待のギャップなどについて学習する。	4月17日(火) ⑤19:30-21:00
2	経済事件と監査の信頼性向上のための取り組み カネボウ事件、エンロン事件、大和銀行事件など監査に関連した経済事件の概要、監査不信あるいは会計不信の払拭へのさまざまな取り組みについて学習する。	5月8日(火) ⑤19:30-21:00
3	公認会計士という職業 公認会計士の業務、公認会計士に求められるもの(独立性、正当な注意、職業的懐疑心、守秘義務など)、公認会計士の責任などについて学習する。	5月15日(火) ⑤19:30-21:00
4	監査を取り巻く組織 我が国における会計士の組織(日本公認会計士協会)、監督組織(金融庁、公認会計士・監査審査会)、会計基準の作成主体(企業会計基準委員会)の概要、米国及び国際的な組織の概要について学習する。	5月22日(火) ⑤19:30-21:00
5	法定監査—金融商品取引法と会社法 公認会計士が実施する監査には法定監査と任意監査があるが、今回は営利企業に対する監査を義務付ける法律である金融商品取引法と会社法について学習する。	5月29日(火) ⑤19:30-21:00
6	いろいろな組織の監査 今回は非営利組織体に対する外部監査について、民間団体の設立した組織体、公的部門に関わる組織体に分けて、その概要を学習する。	6月5日(火) ⑤19:30-21:00
7	監査のルール 財務諸表監査が社会的に信頼を得るためには、監査の実施や報告について一定の基準を設ける必要がある。我が国における一般に公正妥当と認められる監査の基準である監査基準のうち、主に一般基準について学習する。	6月12日(火) ⑤19:30-21:00
8	監査の基本的なプロセスとリスク・アプローチの考え方 監査の基本的なプロセス(監査戦略、試査)、リスク・アプローチの考え方(監査リスク、監査リスク・モデル、事業上のリスクなど)について学習する。	6月19日(火) ⑤19:30-21:00
9	監査の実施プロセスの概要 監査の実施プロセス(リスク評価、監査要点の設定、リスク対応、監査証拠の評価)の概要、経営者確認書、監査調書について学習する。	6月26日(火) ⑤19:30-21:00
10	監査人の心証と心証形成のプロセス 監査基準が求める合理的な保証とはどのようなものか、監査手続の実施と監査人の心証形	7月3日(火) ⑤19:30-21:00

	成の関係、監査人が確信を得るための制約・限界などについて学習する。	
11	監査上の重要性 監査上の重要性の意義、量的（金額的）重要性と質的重要性、重要性の基準値の算定について学習する。	7月10日（火） ⑤19:30-21:00
12	監査報告書 監査報告書の構成と記載内容（監査の対象、財務諸表に対する経営者の責任、監査人の責任、監査意見、利害関係）について学習する。	7月17日（火） ⑤19:30-21:00
13	監査意見と追記情報 監査報告書に記載される監査意見と除外事項の関係、除外事項の種類、追記情報の意義と種類について学習する。	7月24日（火） ⑤19:30-21:00
14	不正への対応 虚偽記載の原因となる行為としての不正の特徴、不正による重要な虚偽表示リスクの識別と評価、評価した不正による重要な虚偽表示リスクへの対応などについて学習する。	8月7日（火） ⑤19:30-21:00
15	四半期レビュー 四半期レビューの目的、四半期レビューと年度の財務諸表の監査の関係、四半期レビュー手続、四半期レビューにおける監査人の結論について学習する。	8月21日（火） ⑤19:30-21:00
試験	期末テスト（筆記試験）	8月28日（火） ⑤19:30-21:00

## 使用教科書／評価方法等

教科書	・『新版 まなびの入門監査論（第2版）』盛田良久・百合野正博・朴大栄編著 中央経済社 2012年 ・講義において配布する資料
参考書	・『財務諸表監査 私論』五十嵐達朗著 日経事業出版センター 2012年 ・『監査実務ハンドブック（平成24年版）』日本公認会計士協会出版局 2011年
評価方法	期末テスト60%、出席40%
その他	

ID: YA12532

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	応用実践	監査事例研究	篠宮雅明	15	2

## 授業の目的

本講義では、主として我が国における財務諸表監査を取り巻く重要な課題、いわゆる粉飾（不正による財務諸表の虚偽表示）、監査人の交代や監査実施に関する品質管理上の問題などについて、重要な事例に関する企業・監督官庁の開示資料や参考となる書籍、日本公認会計士協会の公表資料などを中心に考察していく。  
 なお、本講義の履修者には、各回の授業内容についての予習・発表を行い、積極的に議論に参加することが求められる。

## 授業の到達目標

- ①財務諸表の利用者として、不適切・不明瞭な開示などの問題点を推察できる能力を養うこと。
- ②財務諸表の監査人として、監査上の問題点の把握と対応・解決に対する実践的な能力を養うこと及び職業的専門家としての懐疑心を養うこと。

## 履修条件

「監査論」及び「監査手続論」の既履修もしくは同程度の理解を前提とする。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	財務諸表の監査は誰のために行うのか 財務諸表については、作成者である企業、株主・投資家・債権者・監督官庁などの利用者など、多数の利害関係者が存在する。その中で監査人は誰のために財務諸表の監査を行うのか。改めて財務諸表監査の目的について議論を行うことにより、次回以降の議論を深めることを目標とする。	4月21日(土) ②11:10-12:40
2	粉飾はなぜなくなるのか いわゆる粉飾（不正による財務諸表の虚偽表示）は、発覚した際には、企業イメージの毀損、経営者に対する刑事・民事訴訟、証券市場における上場廃止、企業の存続自体が困難になるケースなど、過去の事例から多額の代償を払うことは明らかである。それにもかかわらず粉飾はなぜなくなるのか。粉飾に至る心理などについて言及する。	5月12日(土) ②11:10-12:40
3	監査人はなぜ粉飾を把握できないのか 企業の存続自体が危ぶまれるような巨額の粉飾を、なぜ監査人は把握できないのか。それは本当に把握できないものなのか、それとも見て見ぬふりをしているのか。監査の機能と限界について議論を行う。	5月19日(土) ②11:10-12:40
4	リスク・アプローチによる監査の実施 平成3年の監査基準改訂においてリスク・アプローチの考え方が導入されてから既に20年が経過している。その一方で品質管理レビューにおいて、今もなおリスク・アプローチによる監査の実施についての改善勧告が数多くなされているという現実がある。リスク・アプローチによる監査の実施に対する課題について議論を行う。	5月26日(土) ②11:10-12:40
5	売上の架空計上 企業を取り巻く多くの利害関係者にとって、企業の業績は最大の関心事であり、その業績に対して売上高の計上、収益認識は重大な影響を与える。粉飾事例も不適切な収益認識に起因するものが多い。今回は実体のない売上取引の架空計上についての議論を行う。	6月2日(土) ②11:10-12:40
6	循環取引 売上の架空計上の一形態である、いわゆる循環取引については、ソフトウェア売上取引や商品を直送するあるいは名義変更で取引が行われるなど特有の商慣習を有する業界において粉飾の手段として用いられてきた経緯がある。この循環取引に対する監査上の課題について議論を行う。	6月9日(土) ②11:10-12:40
7	原価の過少計上－在庫の過大計上 不適切な収益認識と同様、原価を過少に計上することによっても粉飾を行うことは可能である。原価を過少に計上するためには、原価の発生そのものを隠蔽することや、在庫を過	6月16日(土) ②11:10-12:40

	大に計上すること（架空在庫の計上、評価の水増しや評価損の未計上）になる。今回は主に在庫に関する監査上の課題について議論を行う。	
8	投融資の評価－巨額損失の隠蔽 余剰資金の運用や本業での損失を補うため、あるいはM&Aなど、企業が投融資を行う理由は様々であるが、すべての投融資が企業の思惑通りの結果をもたらすとは限らない。いわゆる飛ばしなどに代表される損失の隠蔽について議論を行う。	6月23日（土） ②11:10-12:40
9	固定資産の減損 会計上の見積りについては不正か誤謬かの判断が難しいケースが多く存在する。その中でも固定資産の減損については、見積対象の期間が長期にわたることが多く、見積りのプロセスそのものも複雑である。今回は固定資産の減損に関する監査上の課題について議論を行う。	6月30日（土） ②11:10-12:40
10	繰延税金資産の回収可能性 会計上の見積りのうち繰延税金資産の回収可能性を取り上げる。繰延税金資産の回収可能性は、スケジューリングや課税所得の発生見込などの要素が複雑に絡み合い、その判断に困難を極めることが多い。今回は繰延税金資産の回収可能性に関する監査上の課題について議論を行う。	7月7日（土） ②11:10-12:40
11	継続企業の前提 企業外部の利害関係者にとって、企業が継続するか否かについての情報は、その意思決定に重要な影響を与える。一方で監査人にとっても、企業が継続するか否かの判断を行うことは決して容易なことではない。継続企業の前提に関する監査上の課題について議論を行う。	7月14日（土） ②11:10-12:40
12	連結の範囲－連結外し 連結財務諸表が中心的な役割を果たす現在のディスクロージャー制度においては、業績不良の子会社を連結の範囲から意図的に外すことで、企業集団の業績を歪めることが可能となる。連結の範囲をどのように判断するか、監査上の課題について議論を行う。	7月21日（土） ②11:10-12:40
13	経営者不正と従業員不正 不正の主体は大別すると経営者と従業員に分けられる。行為の態様、動機やプレッシャーなどの観点から、経営者不正と従業員不正の違いを理解するとともに、監査人としての対応について議論を行う。	7月28日（土） ②11:10-12:40
14	監査人の交代 監査人はどのような場合に交代するのか、交代の時期（任期満了か、期の途中か）、交代の理由、辞任か解任かなどの観点から、企業と監査人はどのような関係にあるのかを考察するとともに、企業側・監査人側それぞれの課題について議論を行う。	8月4日（土） ②11:10-12:40
15	再考－財務諸表の監査は誰のために行うのか 14回にわたる授業（議論）を踏まえた上で、監査人は誰のために財務諸表の監査を行うのかについて再度議論を行い、利用者として、あるいは監査人として、財務諸表の監査に対する理解を深める。	8月18日（土） ②11:10-12:40
試験	期末レポート	

## 使用教科書／評価方法等

教科書	講義において配布する資料
参考書	『不正を許さない監査－会計情報ほど信用できるか』浜田康著 日本経済新聞社 2002年 『監査難民』種村大基著 講談社 2007年 『公認会計士 vs 特捜検察』細野祐二著 日経BP社 2007年 『会計不正－会社の「常識」 監査人の「理論」』浜田康著 日本経済新聞出版社 2008年 『命燃やして－山－監査責任を巡る10年の軌跡』伊藤醇著 2010年 『巨額粉飾』嶋田健三郎著 新潮文庫 2011年 『監査実務ハンドブック（平成24年版）』日本公認会計士協会出版局 2011年
評価方法	期末レポート30%、発表30%、出席40%
その他	

ID: YA12811

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	通年	応用実践	会計学研究指導【2012年度入学生対象】	山本宣明 以下、研究指導 委員会	30	4

## 授業の目的

本科目は修士論文作成を目的とします。修士論文作成は極めて多大なエネルギーを必要とします。しかも当大学院の場合、ほとんどの方が働きながら作成するということが、一層の困難が伴う状況にあります。そこで、当大学院では修士論文作成のマイルストーン管理を実施しています。マイルストーンは中間点とも言うべきもので、論文作成を幾つかの段階に分けて指導し、チェックを行っていくものです。また、全体を通して集団指導を行います。すなわち、複数の目が入る中で論文作成を行っていきます。このことによって、個人指導による様々な弊害を乗り越え、誰もが納得する論文の完成に辿りつくものと考えています。論文作成は極めて大変な作業ですが、素晴らしい成果を勝ち取られることを委員会一同心から願っています。

## 授業の到達目標

1年目の目標は序論の完成です。夏季休暇前までに仮テーマを決め、後期スタート直前に序論ドラフト発表会を行います。そのため、前期は関心のあるテーマに関する論文を発表したりすることを中心とします。後期は何よりも序論の完成・合格が必要となります。

## 履修条件

修士論文作成を希望する方なら履修することは可能です。ただ物見遊山的な参加はお断りします。楽しい中にも真剣さのある空間にしたいと思うので、本気で修士論文を完成したい方だけ履修して下さい。何か書けば合格するようなものではないので、覚悟の上、履修をして頂きたいと思います。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	租税法研究指導の第1回に参加	4月22日(日) ②11:10-12:40
2	租税法研究指導の第2回に参加	5月13日(日) ②11:10-12:40
3	租税法研究指導の第3回に参加	5月20日(日) ②11:10-12:40
4	租税法研究指導の第4回に参加	5月27日(日) ②11:10-12:40
5	租税法研究指導の第5回に参加	6月3日(日) ②11:10-12:40
6	租税法研究指導の第6回に参加	6月10日(日) ②11:10-12:40
7	租税法研究指導の第7回に参加	6月17日(日) ②11:10-12:40
8	仮テーマ決定に向けた議論・発表 <なお、文章の書き方のメール指導を租税法研究指導のグループに合流して一貫して受けて頂きます。後期もあります。以後、同じ。>	6月23日(土) 18:30-20:00
9	仮テーマ決定に向けた議論・発表	7月7日(土) 連5限-6限
10	仮テーマ決定に向けた議論・発表	7月7日(土) 連5限-6限
11	仮テーマ決定に向けた議論・発表	7月21日(土) 連5限-6限
12	仮テーマ決定に向けた議論・発表	7月21日(土) 連5限-6限
13	仮テーマ決定に向けた議論・発表	8月4日(土) 連5限-6限
14	仮テーマ決定に向けた議論・発表	8月4日(土) 連5限-6限

15	仮テーマ決定 ＜後期スタート直前、夏季休暇最終週あたりに仮テーマに基づいた序論ドラフト発表会を行います。夏季休暇中はその作成に勤しんで下さい。＞	8月25日(土) ⑤16:50-18:20
16	序論完成に向けた議論・発表	10月13日(土) 連5限-6限
17	序論完成に向けた議論・発表	10月13日(土) 連5限-6限
18	序論完成に向けた議論・発表	10月27日(土) 連5限-6限
19	序論完成に向けた議論・発表	10月27日(土) 連5限-6限
20	序論完成に向けた議論・発表	11月10日(土) 連5限-6限
21	序論完成に向けた議論・発表 ＜序論が完成し、委員会で合格となった場合は、その先の「先行研究の検討」の章のドラフト作成に移行します。おそらくこの辺りから、早い人はそういった作業に取り掛かることになると思います。＞	11月10日(土) 連5限-6限
22	序論完成に向けた議論・発表+序論が合格した人は先行研究の検討の章の作成に入る。	11月24日(土) 連5限-6限
23	序論完成に向けた議論・発表+序論が合格した人は先行研究の検討の章の作成に入る。	11月24日(土) 連5限-6限
24	序論完成に向けた議論・発表+序論が合格した人は先行研究の検討の章の作成に入る。	12月8日(土) 連5限-6限
25	序論完成に向けた議論・発表+序論が合格した人は先行研究の検討の章の作成に入る。	12月8日(土) 連5限-6限
26	序論完成に向けた議論・発表+序論が合格した人は先行研究の検討の章の作成に入る。	12月22日(土) 連5限-6限
27	序論完成に向けた議論・発表+序論が合格した人は先行研究の検討の章の作成に入る。	12月22日(土) 連5限-6限
28	序論完成に向けた議論・発表+序論が合格した人は先行研究の検討の章の作成に入る。	1月19日(土) 連5限-6限
29	序論完成に向けた議論・発表+序論が合格した人は先行研究の検討の章の作成に入る。	1月19日(土) 連5限-6限
30	序論完成に向けた議論・発表+序論が合格した人は先行研究の検討の章の作成に入る。	2月2日(土) ⑤16:50-18:20
試験	序論合格を以って試験に代えます。序論が合格しない場合は、相談の上、修了が半期遅れとなります。そのことを肝に銘じて頑張ってください。	

## 使用教科書／評価方法等

教科書	特に無し。
参考書	特に無し
評価方法	序論完成・合格 40%、出席と貢献度 60%
その他	



ID: YA12415

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	基本	経済学	高森寛	15	2

## 授業の目的

会計およびファイナンスの分野でのプロフェッショナル（専門職業人）として活躍できるためには、個々の企業や組織内の会計業務を処理できるだけでなく、より広く、企業を取り巻く経済の動向が読めなくてはなりません。産業と経済を動かす原理や仕組み、ダイナミクスを理解し、企業や組織が切り開くべき進路と戦略を洞察できる知識と素養を身につけることを目的とします。

## 授業の到達目標

ミクロ経済学の基本的な知識や概念を身につけることを、第1の目標として、経済学的な思考力を磨き、また、マクロ経済と金融経済についても、基本的な知識と概念を学びます。経済の諸現象を、具体的なモデルで、具体的に分析し、思考できるように、演習することを重視します。

## 履修条件

特になし。中学、高等学校程度の数学知識が望ましい。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	I. イントロダクション 「経済学の十大原理」 希少性、経済学、効率、衡平、機会費用、限界的な変化、市場経済、市場の失敗、外部性、市場支配力、生産性、インフレーション、フィリップス曲線、景気循環特になし。中学、高等学校程度の数学知識が望ましい。	4月21日(土) ⑤16:50-18:20
2	テスト1. 「需要と供給」 需要曲線とは、価格弾力性、価格と需要、生産可能性フロンティア、需要曲線のシフト、生産機会、機会費用、特化と交易	5月12日(土) ⑤16:50-18:20
3	テスト2. 需要曲線と消費者行動 市場と競争、価格と需要、需要と収入、需要と効用、消費者余剰、需要と供給の均衡、市場清算価格、需要と効用最大化	5月19日(土) ⑤16:50-18:20
4	テスト3. 「費用の構造と供給行動」 供給曲線、平均費用と限界費用、供給のシフトと均衡の移動、機会費用、生産者余剰、供給の価格弾力性、利潤最大化行動と供給行動、生産可能性フロンティア	5月26日(土) ⑤16:50-18:20
5	テスト4. 「市場取引と資源配分」 市場と価格メカニズム、資源の還流の仕組み、余剰分析、計画経済と市場経済、市場競争と経済発展、自由貿易の利点、資源配分の歪み、比較優位、アダム・スミスの「見えざる手」	6月2日(土) ⑤16:50-18:20
6	テスト5. 「ゲームの理論入門」 「囚人のジレンマ」、囚人のジレンマ的な諸現象、ナッシュ均衡、参入阻止行動、強調のメカニズム、ゲームの樹による表現、ルールか裁量か	6月9日(土) ⑤16:50-18:20
7	テスト6. 「独占と競争の理論」 独占の理論、独占価格と資源配分、完全競争と独占的競争、退出行動と資源配分、市場の失敗	6月16日(土) ⑤16:50-18:20
8	テスト7. 「市場の失敗」 外部経済・外部性、外部性と市場の非効率性、外部性に関する余剰分析、外部性の内部化、公共財に理論、厚生経済学のエッセンス、コースの定理	6月23日(土) ⑤16:50-18:20
9	テスト8. 「不確実性と不完全情報の世界」 経済問題における不確実性、危険分散、保険とモラルハザード、株式市場とリスク分散、情報の不完全性と経済現象、レモン市場：逆選択の問題、シグナルの理論、エイジェンシー関係とモラルハザード	6月30日(土) ⑤16:50-18:20

10	テスト9. 「消費者の理論」 無差別曲線と効用、限界代替率、予算制約と消費者行動、所得変化と需要、需要関数、劣等財と正常財、価格の変化と需要、代替効果と所得効果、補完財と代替材、労働供給の理論	7月7日(土) ⑤16:50-18:20
11	II. マクロ経済学 テスト10. 「経済のマクロ的諸事象」、国民所得GDPについて、マクロ経済の鳥瞰(Over Views)、国内総生産、経済成長率、GDPに係る恒等式、ケインズ経済学と新古典派経済学、マクロ経済における需要と供給、供給サイドからのGDPと需要サイドからのGDP	7月14日(土) ⑤16:50-18:20
12	テスト11. 「有効需要と乗数メカニズム」 需要不足がもたらす不況、所得・需要・生産の相互メカニズム、所費関数と生産・所得・需要の決定、投資と政府支出、外国からの投資	7月21日(土) ⑤16:50-18:20
13	テスト12. 「貨幣の機能」 貨幣とは何か、貨幣の交換媒介機能、マネーサプライと信用乗数、信用乗数のマネーサプライの変化、貨幣供給と物価、金利と貨幣需要、貨幣の需給とインフレーション	7月28日(土) ⑤16:50-18:20
14	テスト13. 「マクロ経済政策」 財政政策と金融政策、資産市場と財市場の接点：利子率とGDP、金融政策と有効需要、フィリップス曲線について	8月4日(土) ⑤16:50-18:20
15	テスト14. 「インフレと失業」 インフレーションと物価、インフレーションと金利、雇用と失業、完全失業率、有効求人倍率、自然失業率、賃金の下方硬直性、効率性賃金仮説	8月18日(土) ⑤16:50-18:20
試験	期末試験	8月25日(土) ⑤16:50-18:20

## 使用教科書／評価方法等

教科書	『入門経済学』伊藤元重著、日本評論社、2010年
参考書	『入門経済学』マンキュー著、足立他訳、東洋経済新報社、2010年
評価方法	期末テスト40%、出席30%、宿題・課題等30%
その他	適宜に、宿題、課題等をだします。

ID: YA12416a

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	基本	IT リテラシー	横井隆志	15	2

## 授業の目的

LEC 会計大学院が掲げるシミュレーション・アプローチを具体化する上で重要な役割を果たすのが表計算アプリケーション“Microsoft Office Excel”である。本科目では、シミュレーション・アプローチの土台を形成すべく、実習を通じて Excel の基本操作を習得し、関数を中心としたワークシートの作り込みを行う。あわせて、修士論文の作成等を念頭に、研究資料の入手方法や、効率的な論文作成のためのワープロソフトの使用法を学習する。

## 授業の到達目標

シミュレーターの作成等に必要 Excel の操作法を中心に、IT リテラシーの基本的な素養を身につけ、表計算アプリケーションを用いて簡易的なシステムを構築できる程度のスキルを修得することを本科目の到達目標とする。

## 履修条件

特になし

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	<ガイダンス並びに Excel の基本> 初めて Excel を使用することを想定し、ワークシートの基本やセルを参照する計算など、Excel の基礎的な要素を学習する。その中で、相対参照と絶対参照について学習する。あわせて、関数の基本について触れる。	4月20日(金) ⑤19:30-21:00
2	<条件判断を行う関数> 設定された論理式(条件)の正否を判断する IF 関数について、基本的な用法を学ぶ。同時に、複数の関数を組み合わせるネストや、IF 関数を補う論理関数について学習する。	4月27日(金) ⑤19:30-21:00
3	<検索を行う関数> 様々な用途に活用できる基本的な関数として、表の中から目的の値を取り出すことができる VLOOKUP 関数、HLOOKUP 関数について学習する。	5月11日(金) ⑤19:30-21:00
4	<VLOOKUP 関数をより実践的に活用するための関数の活用> VLOOKUP 関数と組み合わせることにより、ワークシートの実用性を高める MATCH 関数について学習する。あわせて、INDEX 関数、CHOOSE 関数について学習し、早見表や複数の対照表からデータを取り出す方法について学習する。	5月18日(金) ⑤19:30-21:00
5	<修士論文執筆のための Word の活用> Word には、論文等の作成を念頭に、目次や脚注、引用文献、図表等を管理する機能が備わっている。これらの機能を活用し、より効率的に修士論文を作成する方法を学習する。	5月25日(金) ⑤19:30-21:00
6	<インターフェースを意識したワークシートの作り込み> 第三者がワークシートを使用することを想定する場合、作業の手順や入力する内容ができるだけわかりやすいようにワークシートの構成を工夫する必要がある。ここでは、データの入力規則等によるワークシートの操作性向上を目指す。	6月1日(金) ⑤19:30-21:00
7	<日付と時刻> Excel における日付と時刻の扱いについて、シリアル値の概念を中心に学習する。その中で、日付と時刻を操作する関数や、セルの書式設定について学ぶ。	6月8日(金) ⑤19:30-21:00
8	<IT ツールの活用と著作権問題> 社会人学生が効率的に研究を進めるための携帯情報端末やクラウド等の活用法について学ぶ。同時に、高度情報社会において生じる著作権の問題を考える。	6月15日(金) ⑤19:30-21:00
9	<データベース機能> Excel のワークシート上で「フィールド」と「レコード」という概念に基づいて構成されるデータベースについて、フォームによる入力やフィルタによるデータの抽出、さらに、データベース関数を用いてデータを取り出す方法について学ぶ。	6月22日(金) ⑤19:30-21:00

10	<p>&lt;ピボットテーブルとピボットグラフ&gt; ワークシートに入力されたデータについて項目別に集計や分析を行うことができるピボットテーブルおよびピボットグラフについて、集計元となるデータの作成法や、様々な用途を想定したデータの集計・分析の方法を学習する。</p>	6月29日(金) ⑤19:30-21:00
11	<p>&lt;Excel によるデータ分析&gt; 商品や顧客の重要度を把握するためのABC分析とパレート図の作成、商品の位置づけを確認するPPM分析を通じて、グラフの作成・加工の手法を学ぶ。</p>	7月6日(金) ⑤19:30-21:00
12	<p>&lt;職業会計人に求められる統計手法&gt; 統計処理を行うための高価なアプリケーションが多数存在するが、Excelでも高度な分析を行うことが可能である。ここでは、会計・監査の現場での活用を念頭に、Excelを用いた基本的な統計手法について学ぶ。</p>	7月13日(金) ⑤19:30-21:00
13	<p>&lt;システム的设计思想&gt; 作成者ではない人が操作することを想定したシステムをExcelで構築する際、ワークシートの配置やユーザーインターフェース(操作画面)の設計をどのように行う必要があるか、実例をもとに検討する。</p>	7月20日(金) ⑤19:30-21:00
14	<p>&lt;VBAの基本(1)&gt; Excelには操作を自動で実行するためのプログラミング言語としてVisual Basic for Applicationsが搭載されている。ここでは、一連の動作を記録することでマクロ化する方法とVBAコードの基本、VBAエディタを用いたマクロの編集について学習する。</p>	7月27日(金) ⑤19:30-21:00
15	<p>&lt;VBAの基本(2)&gt; あらかじめ用意された関数ではまかなえない処理を行う方法として、VBAで処理の内容を記述することによりワークシート上で一般の関数と同様に扱うことの出来る関数を作成するユーザー定義関数について学習する。</p>	8月10日(金) ⑤19:30-21:00
試験	試験は実施しない。授業で扱った内容に関連して出題する課題と出席状況により成績評価を行う。	

## 使用教科書/評価方法等

教科書	特に指定しない。
参考書	適宜、授業時間内に示す。
評価方法	課題50%、出席50%
その他	

ID: YA12450

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	発展	実用英語演習基礎	藤澤慶巳	15	2

## 授業の目的

言語学・音声学から見る日本語と英語の違いを理解し、日本人特有の英語の弱点を体系的に克服してゆきます。実用的な英語を身につけるため発音練習、表現力習得などのトレーニングを通しコミュニケーションの手段としての英語（実用的に英語を『読む、書く、聞く、話す』こと）を目標にします。最終的にはTOEICのスコアアップはもちろん、実践的なコミュニケーション力を養います。

## 授業の到達目標

英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテスト TOEIC で C ランク (470～730 点) 前半を目指す。

## 履修条件

--

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	流暢な英語の5つのリズム (波)「音のつながり」を体系的に克服していきます。 TOEIC 演習	4月18日(水) ⑤19:30-21:00
2	英語を聞くうえで、日本人特有の弱点である「リエゾン」を体系的に克服していきます。 TOEIC 演習	4月25日(水) ⑤19:30-21:00
3	Practicum (実践演習)	5月9日(水) ⑤19:30-21:00
4	英語の会話を聞き取る。 日常やビジネスの場面で用いられる実用的な語彙にも触れ、効果的に語彙力を高めていきます。 TOEIC 演習	5月16日(水) ⑤19:30-21:00
5	Practicum (実践演習)	5月23日(水) ⑤19:30-21:00
6	公的な英語を聞き取る。 TOEIC 演習	5月30日(水) ⑤19:30-21:00
7	記事、ビジネスレターを読む TOEIC 演習	6月6日(水) ⑤19:30-21:00
8	Practicum (実践演習)	6月13日(水) ⑤19:30-21:00
9	英文ライティング (Email、ビジネスレター) TOEIC 演習	6月20日(水) ⑤19:30-21:00
10	Expressions 聞き慣れない表現 TOEIC 演習	6月27日(水) ⑤19:30-21:00
11	TOEIC 模試 Listening	7月4日(水) ⑤19:30-21:00
12	TOEIC 模試 Reading	7月11日(水) ⑤19:30-21:00
13	Practicum (実践演習)	7月18日(水) ⑤19:30-21:00
14	身近にある誤った英語。 TOEIC 演習	7月25日(水) ⑤19:30-21:00
15	まとめ	8月8日(水) ⑤19:30-21:00

試験	
----	--

## 使用教科書／評価方法等

教科書	* 『藤澤博士の英語セラピー』 藤澤慶己著 マクミランランゲージハウス出版 2007年 * 各回配布レジメ
参考書	
評価方法	期末課題 50%、出席 30% 平常点 20%
その他	

ID: YA12452

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	応用実践	専門英語基礎	藤澤慶巳	15	2

## 授業の目的

英語能力を伸ばすための壁として、実用英語と学校英語の表現方法の違いを理解するのが大きなポイントとなります。この講座では、英語の様々な英語に接することによって、英語が理解できない理由を理論的に解説し、日本語と英語表現の根本的な発想の違い（ギャップ）を把握します。Reading・表現力の両面からギャップを意識的に矯正していく事で、読む・書くという実践的な英語力が身につくことを目標とします。

## 授業の到達目標

英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテスト TOEIC で B ランク (730~860 点) 前半を目指す。

## 履修条件

--

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	Eメールを読む Words & Expressions TOEIC 演習	4月19日(木) ⑤19:30-21:00
2	新聞記事を読む Words & Expressions TOEIC 演習	4月26日(木) ⑤19:30-21:00
3	Practicum (論文読解演習)	5月10日(木) ⑤19:30-21:00
4	広告を読む Words & Expressions TOEIC 演習	5月17日(木) ⑤19:30-21:00
5	旅先で見かける英語 Words & Expressions TOEIC 演習	5月24日(木) ⑤19:30-21:00
6	ビジネスレターを読む Words & Expressions TOEIC 演習	5月31日(木) ⑤19:30-21:00
7	日常生活の中の英語 Words & Expressions TOEIC 演習	6月7日(木) ⑤19:30-21:00
8	Practicum (論文読解演習)	6月14日(木) ⑤19:30-21:00
9	広告を読む Words & Expressions TOEIC 演習	6月21日(木) ⑤19:30-21:00
10	総合演習 Words & Expressions	6月28日(木) ⑤19:30-21:00
11	TOEIC 模試 Listening	7月5日(木) ⑤19:30-21:00
12	TOEIC 模試 Reading	7月12日(木) ⑤19:30-21:00
13	敬語的表現 Words & Expressions	7月19日(木) ⑤19:30-21:00

14	Practicum (論文読解演習)	7月26日(木) ⑤19:30-21:00
15	まとめ	8月9日(木) ⑤19:30-21:00
試験		

## 使用教科書／評価方法等

教科書	* 各回配布レジメ * 『レベル別問題でスコアアップ！新TOEIC テスト厳選700問』藤澤慶己著 DHC 出版
参考書	
評価方法	期末課題 50%、出席 30% 平常点 20%
その他	



ID: YA12431

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	応用実践	経営事例研究	慶松勝太郎	15	2

## 授業の目的

この講義では実際の企業の事例を取り上げ、そこでの問題点を討議することで企業への理解を深める。講義はゼミナール形式とし、事例についての討議を重点とする。  
 企業に関しては1. 種々の異なった企業形態があることを理解する。2. 異なった事業環境における異なった経営者判断について理解する。  
 SWOT分析を行い企業の強み・弱み・脅威・事業機会を解析する。実施の経営者による講演を企画する。

## 授業の到達目標

異なった事業形態、異なった技術的内容についておおよそを理解し、どのような業種であっても企業の内容が理解できることを目指す。  
 討論を通じてプレゼンテーション能力を高めるとともに、不確定条件下で意思決定が行えることを目標とする。

## 履修条件

--

## 授業計画

回数	授業内容	日程
1	イントロダクション	4月16日(月) ⑤19:30-21:00
2	ケース・メソッドによる事例研究	4月23日(月) ⑤19:30-21:00
3	ケース・メソッドによる事例研究	5月7日(月) ⑤19:30-21:00
4	ケース・メソッドによる事例研究	5月14日(月) ⑤19:30-21:00
5	経営者による講演(予定)	5月21日(月) ⑤19:30-21:00
6	ケース・メソッドによる事例研究	5月28日(月) ⑤19:30-21:00
7	ケース・メソッドによる事例研究	6月4日(月) ⑤19:30-21:00
8	ケース・メソッドによる事例研究	6月11日(月) ⑤19:30-21:00
9	ケース・メソッドによる事例研究	6月18日(月) ⑤19:30-21:00
10	ケース・メソッドによる事例研究	6月25日(月) ⑤19:30-21:00
11	ケース・メソッドによる事例研究	7月2日(月) ⑤19:30-21:00
12	経営者による講演(予定)	7月9日(月) ⑤19:30-21:00
13	ケース・メソッドによる事例研究	7月16日(月) ⑤19:30-21:00
14	ケース・メソッドによる事例研究	7月23日(月) ⑤19:30-21:00
15	総括討論	8月6日(月) ⑤19:30-21:00
試験	試験は行わない	

## 使用教科書/評価方法等

教科書	慶応ビジネス・スクール作成のケースより学生と相談のうえ教材を選ぶ。
-----	-----------------------------------

参考書	『ハーバードビジネススクールにて』土屋守章著 中央公論社出版 1995年(27版)。 『入門ケース・メソッド学習法』ウィリアム・エレット著 斎藤聖美訳 ダイヤモンド社 2010年。
評価方法	出席 50% プレゼンテーションと討論への貢献度 50%
その他	

ID: YA12435

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	応用実践	ファイナンス事例研究	島義夫	15	2

## 授業の目的

企業価値評価を中心として「コーポレート・ファイナンス」の主要な内容についてケーススタディを通じて学び、その内容を実践できるようにする。具体的には、将来のフリー・キャッシュフロー予想、資本コストの推定、投資プロジェクト評価、資本構成、企業価値最大化、M&A などである。企業を財務的に見る目を養うだけでなく、経営上の課題を発見し、問題解決に何が必要かまで理解できることを目的とする。

## 授業の到達目標

与えられた財務情報から実際に企業価値評価ができるようになる。その作業を通じて、現実世界で様々な企業の直面する経営上の問題を理解し、問題へ対処するためのメニューを具体的に考えることができるようになる。

## 履修条件

簿記・会計は必須。財務諸表分析の内容を一通り知っていることが望ましい。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	授業の概要と計画。この授業で何が学べるかの説明。教科書第1章。ファイナンスの全体像とコーポレートファイナンスの位置づけ。	4月21日(土) ③13:30-15:00
2	資産評価手法としてのDCF手法をマスターする。教科書第2章前半。DCF手法を使った資産評価を、不動産、株式などの実例を使って学び理解するだけでなく実践できるようにする。	5月12日(土) ③13:30-15:00
3	企業の投資プロジェクト評価を学ぶ。教科書第2章後半。代表的な投資プロジェクト評価であるNPVについて、類似手法であるIRRとの比較などを通じて精通する。	5月19日(土) ③13:30-15:00
4	営業フリーキャッシュフローを求める。教科書第3章。実際の企業財務諸表から営業フリーキャッシュフローを求め、その意味を理解する。	5月26日(土) ③13:30-15:00
5	営業フリーキャッシュフローの将来予測を行う。教科書第3章。営業フリーキャッシュフローの将来予想に必要な要素や注意点を理解し、その予想を実践する。	6月2日(土) ③13:30-15:00
6	企業価値評価の実践。教科書第3章後半。営業フリーキャッシュフローの予想とあらかじめ与えられた資本コストのもとで、実際に企業価値評価を行う。	6月9日(土) ③13:30-15:00
7	これまでのまとめと中間段階の確認テストを実施する。確認テスト実施の直後にはその解説を行う。	6月16日(土) ③13:30-15:00
8	資本コストの理解と実践。教科書第4章。資本コストの考え方を知り、株式資本コストについてCAPM式を通じて理解し、実際に推定ができるようになる。	6月23日(土) ③13:30-15:00
9	CAPM式の理解に必要な現代ポートフォリオ理論について学ぶ。教科書第4章後半と補論。リスク・リターンとの関係と投資理論の基本を学ぶことで資本コストの理解を深める。	6月30日(土) ③13:30-15:00
10	金融市場の実際の動きを実例などを通じて学ぶ。世界の代表的な金融メディアやインターネットなどを通じて、グローバル金融市場の動きを知り、資本コストの理解を深める。	7月7日(土) ③13:30-15:00
11	企業の資本構成に関する主要な論点を学ぶ。教科書第5章。MM命題、企業の最適負債比率など企業の資本構成に関係する実践的な問題について理解を深める。	7月14日(土) ③13:30-15:00
12	オプションとリアルオプション。教科書第6章。今や企業の投資決定にも応用されているオプションについて、その基本を知りその応用であるリアルオプションの基本を学ぶ。	7月21日(土) ③13:30-15:00
13	企業経営とファイナンス。教科書第7章。M&Aや企業再生など実例を通じて、企業の戦略や主要な意思決定を考えるのにいかにファイナンスが重要かを学ぶ。	7月28日(土) ③13:30-15:00
14	これまでのまとめ。疑問点の整理とそれに対する回答。最終課題へのアドバイス。今後のファイナンス学習へのアドバイスなど。	8月4日(土) ③13:30-15:00
15	出席者による最終課題の簡単な口頭で報告・説明と課題の提出。最終課題報告に対する講評も行う。	8月18日(土) ③13:30-15:00
試験	授業最終回の最終課題報告と提出があるので最終試験は行わない。	

## 使用教科書／評価方法等

教科書	『入門コーポレート・ファイナンス』 島義夫 著 日本評論社 2010年
参考書	必要に応じて適宜指示する。
評価方法	出席と授業への参加で成績評価全体の20%、中間段階で行う確認テストで30%、最終課題の発表と提出で50%とする。最終課題では、実際の企業の企業価値評価を行うとともに、そこから引き出される経営上または投資上のインプリケーションが求められる。
その他	税理士・会計士資格の取得後の業務展開には、顧客に対する財務アドバイス・コンサルティング能力などが必要となる。そのためにはコーポレート・ファイナンスの知識は必須である。またホールセール金融業務や企業財務に携わる人間にとっても必須の知識である。当授業の目的は学ぶだけでなく実践できることである。是非多くの学生に受講してほしい。

ID: YA12614

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	基本	企業法 I	平田和夫	15	2

## 授業の目的

この企業法 I においては、会社法の基礎知識の習得を目的とする。授業では、現時点で最も権威のある体系書をベースとして、適宜判例集を参照することにより、抽象的な概念の把握にとどまらず、具体的な事案についても理解を深めることができるようにする。本講義は、理論と実務の融合を目指すものであるが、更なる発展的な学習の契機ともなり得るものである。

## 授業の到達目標

法律系専門職に携わる以上、会社法の基礎的な理解は必須といつてよい。今や何らの付加価値もない専門職が生き残ることはできない。本講義で得た知識を武器として、質の高い会計専門職業人を目指してほしい。

## 履修条件

なし。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	総論 本講義の主な素材は株式会社であるが、合名会社との比較を通じて、株式会社の特質の概要を理解する。株主有限責任の原則を踏まえつつ、法人格否認の法理について主要な判例に触れる。	4月16日(月) ⑤19:30-21:00
2	設立 設立手続には発起設立と募集設立があるが、発起設立を中心に、手続の概要を理解する。併せて、預払い・見せ金について主要な判例に触れる。	4月23日(月) ⑤19:30-21:00
3	株式1 自益権及び共益権という株主の権利の分類を確認した上、株主平等の原則や多様な種類株式の概要を理解する。有価証券法理を踏まえつつ、株券及び株主名簿、更には振替口座簿の概要を学ぶ。	5月7日(月) ⑤19:30-21:00
4	株式2 株式の譲渡自由及び譲渡制限の基本を理解しつつ、自己株式取得の規制の概要を理解する。併せて、株式の分割・併合等の概要を学ぶ。	5月14日(月) ⑤19:30-21:00
5	機関1 定款自治による多様な機関構成及び権限分配の仕組みを理解する。株主総会について、権限、招集、議決権及び決議の瑕疵等の基本を学ぶ。	5月21日(月) ⑤19:30-21:00
6	機関2 取締役について、業務執行の権限分配の基本を押さえつつ、主に取締役会設置会社を念頭に置き、その選任・終任や取締役会及び代表取締役の権限等の基礎を学ぶ。	5月28日(月) ⑤19:30-21:00
7	機関3 引き続き取締役について、善管注意義務及び忠実義務を踏まえ、競業禁止義務、利益相反取引、報酬及び責任の概要につき、主要な判例に触れつつ理解する。	6月4日(月) ⑤19:30-21:00
8	機関4 監査役について、権限を中心にその制度の概要を理解する。委員会設置会社について、その仕組みの基本を学ぶ。併せて、会計参与及び執行役に触れる。	6月11日(月) ⑤19:30-21:00
9	計算 決算の手続の概要を理解し、剰余金の処分・配当、資本金・準備金の額の減少の手続に触れ、会計帳簿閲覧権について主要な判例に触れる。	6月18日(月) ⑤19:30-21:00
10	資金調達1 募集株式の発行等について、公開会社と全株式譲渡制限会社との規制の相違を踏まえ、募集の態様に応じて理解する。差止め、無効訴訟について、主要な判例に触れる。	6月25日(月) ⑤19:30-21:00

11	資金調達2 新株予約権について、発行手続の概要を踏まえつつ、買収防衛策について主要な判例に触れる。社債について、発行手続を中心にその概要を理解する。	7月2日(月) ⑤19:30-21:00
12	会社の基礎の変更1 定款の変更及び合併について学ぶ。合併については、株主及び債権者の保護の観点から、その手続の概要を理解する。株式買取請求権について、近時の主要な判例に触れる。	7月9日(月) ⑤19:30-21:00
13	会社の基礎の変更2 会社分割、株式交換・株式移転及び事業譲渡について学ぶ。合併手続との共通点を踏まえつつ、各手続の特殊性を理解することが重要である。	7月16日(月) ⑤19:30-21:00
14	解散・清算、倒産法 解散について、解散原因を中心にその基本を理解する。清算については、通常清算と特別清算とに分類されるが、通常清算を中心にその概要を学ぶ。また、破産法を中心に、倒産法の基礎を学ぶ。	7月23日(月) ⑤19:30-21:00
15	特例有限会社及び持分会社 特例有限会社について、その概要を理解する。合名会社、合資会社及び合同会社について、その異同を踏まえつつ、各会社形態の特色を浮き彫りにする。	8月6日(月) ⑤19:30-21:00
試験	期末テスト	8月20日(月) ⑤19:30-21:00

## 使用教科書／評価方法等

教科書	江頭憲治郎『株式会社法』(有斐閣、第4版、2011) 山下友信＝神田秀樹編『商法判例集』(有斐閣、第4版、2010) 『有斐閣判例六法平成24年版』(有斐閣、2011)
参考書	適宜指定する。
評価方法	授業への寄与度80%、期末テスト20%
その他	なし。

ID: YA12615a

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	基本	租税法	小山登	15	2

## 授業の目的

将来、みなさんが会計専門職業人として活躍される際、租税法に対する論理的思考が必須となります。特に租税法では、税実務上前例なき案件に直面することも多々あります。この案件を解決し結論を導出するには、高度の思考力、判断力、実践力が肝要とされるのです。租税法の授業を通じ、これらの能力を十分に養成し、経済社会の発展に貢献できる“人財”を育成することを目的としています。

## 授業の到達目標

租税法に限らず、会計実践上さまざまな案件に直面した際、自らの能力でその案件を解決し、結論を導き出さなければなりません。租税法の授業を通じて、この能力を養成し実社会で通用する人材を育成していきたいと考えています。

## 履修条件

受講生のみなさんが、事前に分担した項目につきまとめたレポートを発表し、教員がコメントする形で授業を進めていきます。みなさんの積極的な授業参加を希望します。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	「租税の意義・租税法の意義と特質」 これより研究対象とする租税法の意義と特質、さらに租税の種類と分類等の概要の検討を行います。	4月22日(日) ①9:30-11:00
2	「わが国における租税制度の発達 - 戦後における発達について -、租税法の基本原則」 わが国の戦後における租税制度の発達について、シャウプ勧告を中心に検討を行います。さらにわが国における将来の租税制度の展望を考察します。	5月13日(日) ①9:30-11:00
3	「租税法の法源と効力」 租税法の法源の内容を理解し、その効力について研究していきます。特に税実務上使用されている税務通達の意義と位置付けについても検討を行います。	5月20日(日) ①9:30-11:00
4	「租税法の解釈と適用 (1)」 租税法解釈の基盤とされている実質課税の原則について研究します。特に法実質主義と経済的実質主義について検討を行います。	5月27日(日) ①9:30-11:00
5	「租税法の解釈と適用 (2)」 租税法と私法との関連性について研究します。特に私法からの借用概念について判例等を通じて検討を行います。さらに解釈論の体系に文理解釈と目的論的解釈があり、これら解釈の考察を行います。	6月3日(日) ①9:30-11:00
6	「租税実体法の意義・課税要件総論」 租税実体法の意義を検討し、納税義務の成立要件とされる課税要件について考察を行います。特に各租税に共通の課税要件である納税義務者、課税物件、課税物件の帰属、課税標準(課税ベース)、税率について検討します。	6月10日(日) ①9:30-11:00
7	「課税要件各論・所得課税 - 所得税 -」 個人の所得に対する重要な租税である所得税について検討を行います。所得税の所得の意義、類型、課税単位さらに所得税制度の基本的仕組みについて具体的事例を使い考察をしていきます。	6月17日(日) ①9:30-11:00
8	「所得課税 - 法人税 - (1)」 法人の所得に対する重要な租税である法人税について検討を行います。特に法人税の課税根拠について法人擬制説と法人実在説をとりあげ考察を行います。	6月24日(日) ①9:30-11:00
9	「所得課税 - 法人税 - (2)」 前回の続きとして法人の納税義務者の問題をとりあげ検討を行います。さらにわが国の二重課税調整措置に関して具体例をあげ考察します。	7月1日(日) ①9:30-11:00
10	「法人税法第22条を巡る問題点」 法人税法第22条に規定のある法人の所得金額の計算システムについて検討します。特に	7月8日(日) ①9:30-11:00

	益金概念を構成する資産の無償譲渡について企業会計との相違点を考察します。この結果、法人税法上無償取引の益金構成要因を研究します。	
11	「法人税法第 22 条を巡る問題点」 法人税法第 22 条に規定のある法人の所得金額の計算システムについて検討します。特に益金概念を構成する資産の無償譲渡について企業会計との相違点を考察します。この結果、法人税法上無償取引の益金構成要因を研究します。	7月15日(日) ①9:30-11:00
12	「同族会社と所得課税」 同族会社の行為、または計算の否認規定について、判例等の事例に基づき、規定の趣旨、目的、さらに問題点を考察します。また、この否認規定の過去から現在に至る裁判所の見解に関する変遷の検討を行います。	7月22日(日) ①9:30-11:00
13	「多様な事業体・国際取引と所得課税(1)」 現在多様な事業体が存在し、この事業体に関する課税問題が租税法上の重要な課題とされています。そこで今回は多様な事業体を取りあげ課税問題を検討します。	7月29日(日) ①9:30-11:00
14	「国際取引と所得課税(2)」 今回、国際的経済活動に対する課税を研究します。この研究は国際租税法の研究であり、今日重要な課税問題の研究分野となっています。特に、国際的三重課税問題、移転価格税制の問題、過少資本税制の問題、タックス・ヘイヴン対策税制の問題等を取りあげ検討を行います。	8月5日(日) ①9:30-11:00
15	「まとめ」 1回～14回の問題の総括を行いたいと考えています。また、重要な課税事例を取りあげ、みなさんと共に討論を行いたいと思います。(各回、主要判例があれば検討したいと考えています。)	8月19日(日) ①9:30-11:00
試験	課題レポート提出	

## 使用教科書／評価方法等

教科書	『租税法』金子宏著 弘文堂(開講時に最新版(第17版)が出版されていればこれを使用)『確認租税法用語250』増田英敏・加瀬昇一編著 成文堂(2008年12月)
参考書	『ケースブック租税法 第3版』金子宏 他3名編著 弘文堂(2011年3月)
評価方法	期末課題レポート70%、出席および発表30%
その他	みなさんの授業への出席が、授業の成果を有効に高める原動力となります。みなさんの全15回出席を希望します。



ID: YA12627a

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	発展	法人税法	木村直人	15	2

## 授業の目的

法人税法の全体構造を把握すること、授業で取り上げる国内税務・国際税務に関する重要な事項について理論的な理解を深めることによって、企業の活動に伴って必然的に発生する様々な税務上の課題の本質を的確に把握し、正しい判断ができる能力を養うことを目的とします。それにより、高度な専門的知識、問題解決能力を身に着けた質の高い会計専門職業人として社会の発展に寄与する人材の育成に資することとします。

## 授業の到達目標

法人税の専門家として、企業の活動から日々生ずる様々な税務問題に的確に対処できる能力を身に着けること、現行税法の問題点や今後の税制のあり方について自分なりの考え方を持てるようになることを目指します。授業では必要に応じ重要な判例を取り上げて研究します。

## 履修条件

企業の取引と法人課税に興味を持ち、法人税についての基礎的な知識を有していること。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	総論 法人税の意義・性格、法人税の納税義務者の種類と納税義務の範囲、事業年度・納税地の意義について考察します。	4月24日(火) ⑤19:30-21:00
2	課税所得の計算原理 決算利益と所得金額の計算構造について検討し、決算調整・申告調整といった税務調整がどのような意義を有しているかについて考察します。	5月8日(火) ⑤19:30-21:00
3	益金の額の計算(1) 益金の意義、益金の認識基準について、棚卸資産の販売収益、請負の収益を中心に考察します。	5月15日(火) ⑤19:30-21:00
4	益金の額の計算(2)・・・受取配当等の益金不算入・外国子会社配当等の益金不算入 受取配当等の益金不算入制度の意義、益金不算入額がどのように計算されるのかについて考察します。また、外国子会社配当等の益金不算入制度導入の意義について考察します。	5月22日(火) ⑤19:30-21:00
5	益金の額の計算(3)・・・その他の益金 資産の評価益、受贈益、還付金等の収益について、益金算入の可否について考察します。	5月29日(火) ⑤19:30-21:00
6	損金の額の計算(1) 損金の意義、損金の認識基準について考察します。	6月5日(火) ⑤19:30-21:00
7	損金の額の計算(2)・・・減価償却資産、繰延資産の償却費 減価償却資産の意義・取得価額・償却方法、繰延資産の範囲・償却方法・償却期間について考察します。また、償却限度額がどのように定められているか検討します。	6月12日(火) ⑤19:30-21:00
8	損金の額の計算(3)・・・資産の評価損、役員と使用人の給与等 資産の評価損、役員と使用人給与、租税公課等、不正行為の費用等の損金算入制限について考察します。	6月19日(火) ⑤19:30-21:00
9	損金の額の計算(4)・・・交際費等・寄附金の損金不算入 交際費等に含まれる費用や寄附金の範囲、交際費等や寄附金の損金算入制限について考察します。	6月26日(火) ⑤19:30-21:00
10	損金の額の計算(5)・・・貸倒損失、圧縮記帳 貸倒損失の損金算入、圧縮記帳制度の意義・課税上の効果について考察します。	7月3日(火) ⑤19:30-21:00
11	グループ法人税制、連結納税制度 完全支配関係の意義、完全支配関係がある内国法人間の譲渡取引における譲渡利益(損失)額の取扱い、連結納税制度を選択した場合に単体納税制度とどのような相違があるかについて考察します。	7月10日(火) ⑤19:30-21:00

12	国際課税（1） 国際課税の考え方や租税条約の考え方について考察します。	7月17日（火） ⑤19:30-21:00
13	国際課税（2）・・・タックス・ヘイブン税制 タックス・ヘイブン税制の意義、課税対象金額の計算、適用除外の意義・要件について考察します。	7月24日（火） ⑤19:30-21:00
14	国際課税（3）・・・移転価格税制 移転価格税制の意義、独立企業間価格の算定方法について考察します。さらに移転価格課税回避の手段としての事前確認制度、国際的三重課税の回避手段としての相互協議の意義について考察します。	8月7日（火） ⑤19:30-21:00
15	まとめ 第1回から14回の授業の総まとめを行います。 最近の法人税改正の方向性等について考察します。	8月21日（火） ⑤19:30-21:00
試験	課題レポート提出	

## 使用教科書／評価方法等

教科書	『法人税法 理論と計算』（七訂版）成松洋一（平成23年8月25日発行）
参考書	『租税法（第17版）』金子宏（平成24年4月3日発行）
評価方法	期末課題レポート50%、平常点（出席、授業での発言等）50%
その他	

ID: YA12631

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	応用実践	企業法事例研究	平田和夫	15	2

## 授業の目的

この企業法事例研究においては、会社法を中心に、企業法Ⅰ・Ⅱで得た基礎知識の応用力を養成することを目的とする。オリジナルの問題を受講生に事前に配付するので、徹底的に考え、悩んだ上で、授業に臨んでいただきたい。授業では、受講生全員に発言してもらおうので、自らの考えを論理的に表現できるよう努力してほしい。本講義は、正に理論と実務の融合を目指すものであるが、更なる発展的な学習の契機ともなり得るものである。

## 授業の到達目標

法律系専門職に携わる以上、会社法等の知識の応用力は必須といつてよい。今や何らの付加価値もない専門職が生き残ることはできない。本講義で得た応用力を武器として、質の高い会計専門職業人を目指してほしい。

## 履修条件

企業法Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	会社法総論 法人格否認の法理を出題する。一般に形骸型と濫用型とに区別されているが、事案に当てはめる際の悩みを学んでほしい。関連して、詐害行為取消権、否認権などにも触れる。	4月20日(金) ⑤19:30-21:00
2	設立 見せ金を出題する。発起設立の場合と募集設立の場合とを分類し、条文を丁寧に引用しつつ、各場合における関係者の責任を検討してもらおう。	4月27日(金) ⑤19:30-21:00
3	株式1 種類株式を出題する。種類株式には多くの種類があり、会社法の規定も複雑である。事業承継の事案を通じて、各種類株式の利用方法の例を学んでほしい。	5月11日(金) ⑤19:30-21:00
4	株式2 株式譲渡を出題する。株式譲渡に関し、契約書、譲渡承認請求書、取締役会議事録などを作成してもらうことを通じて、契約書等の書面作成の実務の一端に触れる。	5月18日(金) ⑤19:30-21:00
5	株式3 株券及び株主名簿を出題する。善意取得や名義書換の論点を通じ、有価証券理論の基本を学ぶ。併せて、失念株に関する基本的な論点を理解する。	5月25日(金) ⑤19:30-21:00
6	機関1 株主総会について、手続及び決議取消訴訟を出題する。手続については、招集通知や議事録を実際に作成してもらおう。決議取消訴訟については、組織再編無効訴訟との関係などを理解する。	6月1日(金) ⑤19:30-21:00
7	機関2 代表権の制約を出題する。権限濫用、表見代表取締役、取締役会決議事項、株主総会特別決議事項などの多様な素材を基に、基本的な論点について、事例を通じて理解する。	6月8日(金) ⑤19:30-21:00
8	機関3 取締役に係る競業取引及び退職慰労金を出題する。いずれも最新の判例及び実務を踏まえ、実践的な観点から検討してもらおう。競業取引に関し、不正競争防止法にも触れる。	6月15日(金) ⑤19:30-21:00
9	計算 会計帳簿閲覧権を出題する。近時、最高裁判例を含め重要な判例が複数出ている分野である。実務上も重要な論点について、判例の事案を題材として検討する。	6月22日(金) ⑤19:30-21:00
10	資金調達 募集株式発行の差止め及び無効訴訟を出題する。差止めについては、主要目的ルールの実務を理解する。無効訴訟については、全株式譲渡制限会社である場合の特殊性にも触れる。	6月29日(金) ⑤19:30-21:00

11	会社の基礎の変更 会社分割を出題する。労働契約承継法について、近時の最高裁判例を踏まえ、その手続を理解する。債権者異議手続について、異議権の有無及び個別催告の要否などを検討する。	7月6日(金) ⑤19:30-21:00
12	商法総則・商行為 商行為の代理、多数当事者間の債務の連帯及び商人間の留置権を出題する。留置権については、近時の東京地裁の運用にも触れる。併せて、関連する民法上の諸問題も検討する。	7月13日(金) ⑤19:30-21:00
13	金融商品取引法1 継続開示における民事責任を出題する。近時、関連する判例が相次いでいる分野である。準用の多い複雑な条文を使いこなせるようにする。	7月20日(金) ⑤19:30-21:00
14	金融商品取引法2 公開買付けを出題する。公開買付規制の適用範囲に関する近時の最高裁判例などを踏まえ、実務上の重要な論点について、事案を通じて理解を深める。	7月27日(金) ⑤19:30-21:00
15	民法 企業法に関連する財産法を出題する。財産法に限っても、総則、物権及び債権と、民法が扱う分野は極めて幅広い。近時の判例を踏まえ、実務に即した検討をする。	8月10日(金) ⑤19:30-21:00
試験	期末テスト	8月17日(金) ⑤19:30-21:00

## 使用教科書／評価方法等

教科書	下記のものはいずれも、企業法Ⅰ・Ⅱで教科書として指定されたものである。 江頭憲治郎『株式会社法』（有斐閣、第4版、2011） 山下友信＝神田秀樹編『金融商品取引法概説』（有斐閣、2010） 大村敦志『民法のみかた：『基本民法』サブノート』（有斐閣、2010） 山下友信＝神田秀樹編『商法判例集』（有斐閣、第4版、2010） 『有斐閣判例六法平成24年版』（有斐閣、2011）
参考書	適宜指定する。
評価方法	授業への寄与度80%、期末テスト20%
その他	なし。

ID: YA12632

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	応用実践	租税法事例研究	南繁樹	15	2

## 授業の目的

本講義は、主として所得税法と法人税法に関し、裁判例や立法資料を題材に、特定の論点について掘り下げた検討を行う。以下の授業内容は、『ケースブック租税法 第3版』に沿ったものであり、頁数は同書のものである。受講者は、同書の該当頁を予習してることが前提である。

## 授業の到達目標

基本的知識を前提に、特定の論点についてどのような考え方が可能か、なぜそのような考え方がありうるのか、そしてどのような考え方が可能かを突き詰めて考える。それにより、実務において未知の問題点に遭遇したときに自分で考えることができる力を養成する。

## 履修条件

所得税法と法人税法の基礎知識を習得していることを前提とする。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	所得税法：所得の概念（中高年齢者雇用開発給付金事件（194頁）、利息制限法違反利息事件（197頁）、株式会社藤松事件（203頁）、所得の帰属（歯科医院親子共同経営事件（226頁）、株取引包括委任事件（228頁））	4月20日（金） ⑤19:30-21:00
2	所得税法：所得税額計算の基本的な仕組み（240頁）、収入金額と必要経費（増井良啓論文（350頁）、賃貸用土地贈与事件（352頁）、高松市塩田宅地分譲事件（357頁）、損益通算（岩手リゾートホテル事件（395頁）、所得控除（事実婚「配偶者控除」訴訟（402頁）、税率構造（412頁）	4月27日（金） ⑤19:30-21:00
3	所得税法：年度帰属（雑所得貸倒分不当利得返還請求事件（361頁）、金子宏論文（366頁）、仙台家賃増額請求事件（376頁）	5月11日（金） ⑤19:30-21:00
4	所得税法：所得分類（譲渡所得：名古屋医師財産分与事件（261頁）、ゴルフ会員権贈与事件（281頁）、支払利子付随費用判決（288頁）、給与所得：弁護士顧問料事件（305頁）、大嶋別訴第一審判決（314頁）、会社取締役商品先物取引事件（337頁）	5月18日（金） ⑤19:30-21:00
5	法人税法：法人税と所得税の関係（418頁）、法人税の納税義務者（429頁）	5月25日（金） ⑤19:30-21:00
6	法人税法：法人所得の意義（「税法と企業会計との調整に関する意見書」（444頁）、大竹貿易株式会社事件（449頁）、資本等取引（458頁）	6月1日（金） ⑤19:30-21:00
7	法人税法：益金の意義（法人税法22条2項（460頁）、南西通商株式会社事件（461頁）、清水惣事件（466頁）、オープンシャホールディング事件（475頁）	6月8日（金） ⑤19:30-21:00
8	法人税法：損金の意義-22条3項1号から3号（牛久市売上原価見積事件（493頁）、株式会社ケーエム事件（496頁）、NTTドコモ事件（500頁）	6月15日（金） ⑤19:30-21:00
9	法人税法：損金の意義-22条3項1号から3号（興銀事件（506頁）、日本総合物産事件（516頁）	6月22日（金） ⑤19:30-21:00
10	法人税法：損金の意義-役員給与（523頁）、寄附金（太洋物産売上値引事件（530頁）、PL農場事件（534頁）、交際費等（荒井商事オートオークション事件（540頁）	6月29日（金） ⑤19:30-21:00
11	法人税法：繰越欠損金（行田電線株式会社事件（545頁）、同族会社の特例（南日本高圧コンクリート株式会社事件（565頁）	7月6日（金） ⑤19:30-21:00
12	多様な組織体と課税（578頁）	7月13日（金） ⑤19:30-21:00
13	相続税法：税制調査会報告（583頁）、課税対象財産（588頁）、小規模宅地の負担軽減措置（613頁）、ニチアス株式負担付贈与事件（649頁）	7月20日（金） ⑤19:30-21:00
14	租税法律主義（固定資産税名義人課税主義事件（41頁）、大阪銘板事件（47頁）、光楽園旅館事件（59頁）、福岡マンション譲渡損失事件（71頁）、租税法の解釈と適用（レーシングカー物品税事件（111頁）、錯誤による財産分与契約事件（135頁）	7月27日（金） ⑤19:30-21:00

15	租税回避と否認の可否（相互売買事件（152 頁）、グレゴリー事件（158 頁）、外国税額控除余裕枠りそな銀行事件（162 頁）、パラツィーナ事件（168 頁））	8 月 10 日(金) ⑤19:30-21:00
試験		8 月 24 日(金) ⑤19:30-21:00

## 使用教科書／評価方法等

教科書	・『ケースブック租税法 第3版』金子宏ほか著 弘文堂 ・『租税法 第17版』金子宏著 弘文堂 2012年4月1日刊行予定
参考書	
評価方法	期末テスト70%、出席30%
その他	授業日程は、変更が生じることがありますので、あらかじめご了承下さい。

ID: YA12633

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	前期	応用実践	国際租税法	大塚正民	15	2

## 授業の目的

「国際租税法」という「法律」は存在しません。日本には、主な「租税に関する法律」として、「所得税法」、「法人税法」、「消費税法」、「相続税法」などが存在します。この講義で「国際租税法」というのは、これらの「租税に関する法律」の「国際的側面」を指す「用語」です。「国際的側面」を便宜的に「対内的取引に関するもの」と「対外的取引に関するもの」の2つに分けます。大雑把に言えば、前者は「外国人または外国法人が日本に入ってくる形の取引に関するもの」ですし、後者は「日本人または日本法人が日本から出て行く形の取引に関するもの」です。ただし、「国際的側面」を学ぶ前提として、「国内的側面」の一応の理解は必須です。しかも、そのような「国内的側面」が、国際的な立場からすると、どのような「特異的側面」を有しているかに留意することが大切です。

## 授業の到達目標

日本の主な「租税に関する法律」の「特異的側面」に留意しつつ「国内的側面」を理解し、それとの対比で「国際的側面」を学ぶことにより、「日本国内法としての国際租税法の全体像」を把握します。

## 履修条件

とくにありません。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	日本の主な「租税に関する法律」である「所得税法」、「法人税法」、「消費税法」、「相続税法」の「国内的側面」としての「特異的側面」その1	4月22日(日) ②11:10-12:40
2	日本の主な「租税に関する法律」である「所得税法」、「法人税法」、「消費税法」、「相続税法」の「国内的側面」としての「特異的側面」その2	5月13日(日) ②11:10-12:40
3	個人納税者に関わる「所得税法」の「国際的側面」としての「対内的取引に関するもの」その1	5月20日(日) ②11:10-12:40
4	個人納税者に関わる「所得税法」の「国際的側面」としての「対内的取引に関するもの」その2	5月27日(日) ②11:10-12:40
5	個人納税者に関わる「所得税法」の「国際的側面」としての「対内的取引に関するもの」その3	6月3日(日) ②11:10-12:40
6	個人納税者・法人納税者に関わる「消費税法」の「国際的側面」としての「対内的取引に関するもの」	6月10日(日) ②11:10-12:40
7	個人納税者に関わる「相続税法」の「国際的側面」としての「対内的取引に関するもの」	6月17日(日) ②11:10-12:40
8	法人納税者に関わる「法人税法」の「国際的側面」としての「対内的取引に関するもの」その1	6月24日(日) ②11:10-12:40
9	法人納税者に関わる「法人税法」の「国際的側面」としての「対内的取引に関するもの」その2	7月1日(日) ②11:10-12:40
10	法人納税者に関わる「所得税法」の「国際的側面」としての「対内的取引に関するもの」その1	7月8日(日) ②11:10-12:40
11	法人納税者に関わる「所得税法」の「国際的側面」としての「対内的取引に関するもの」その2	7月15日(日) ②11:10-12:40
12	法人納税者に関わる「法人税法」の「国際的側面」としての「対外的取引に関するもの」その1	7月22日(日) ②11:10-12:40
13	法人納税者に関わる「法人税法」の「国際的側面」としての「対外的取引に関するもの」その2	7月29日(日) ②11:10-12:40

14	個人納税者に関わる「所得税法」の「国際的側面」としての「対外的取引に関するもの」	8月5日(日) ②11:10-12:40
15	日本が締結している「租税条約」との交錯	8月19日(日) ②11:10-12:40
試験	ペーパーテストはありません。	

## 使用教科書／評価方法等

教科書	とくにありません。すべてインターネットを介して関係資料を閲覧します。
参考書	[第4版] 外国企業との取引と税務、仲谷ほか、商事法務(2009年2月)
評価方法	出席率と授業の際の質問・回答(授業への寄与度)を総合的に判断します。
その他	



ID: YA12636a

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	通年	応用実践	租税法研究指導【2011年度春入学生対象】	慶松勝太郎 以下、研究指導 委員会	30	4

## 授業の目的

本授業は修士論文の作成を目的としています。2年目となる本年度は、いよいよ論文の完成が必達目標となります。前期中は先行研究の検討をとりまとめ、夏季休暇中に結論の暫定案を作成し、後期は全体の完成を目指します。本授業は、これらのマイルストーンをクリアするための作業と打ち合わせの機会を提供します。

## 授業の到達目標

審査で合格できるレベルの修士論文の完成。

## 履修条件

1年目の研究指導を履修していること。最低、序論が合格している若しくは合格寸前であること。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	2年次は論文作成作業をベースにします。また、初回からグループ分けを行い、グループ毎に主査を中心に議論を行っていきます。概ね3週に1回ぐらいのペースで議論の機会が回ってくるようになると思います。それまでに残りの2週は準備をする、論文作成するようにして行って下さい。状況に応じて、適宜、全体を集めてのアナウンスをする機会も設けます。	4月22日(日) ③13:30-15:00
2	同上	5月13日(日) ③13:30-15:00
3	同上	5月20日(日) ③13:30-15:00
4	同上	5月27日(日) ③13:30-15:00
5	同上	6月3日(日) ③13:30-15:00
6	同上	6月10日(日) ③13:30-15:00
7	同上	6月17日(日) ③13:30-15:00
8	同上	6月24日(日) ③13:30-15:00
9	同上	7月1日(日) ③13:30-15:00
10	同上	7月8日(日) ③13:30-15:00
11	同上	7月15日(日) ③13:30-15:00
12	同上	7月22日(日) ③13:30-15:00
13	同上	7月29日(日) ③13:30-15:00
14	同上	8月5日(日) ③13:30-15:00
15	前期中の目標は先行研究の検討をとりまとめることです。1つの章としてまとめることを基本ラインにしたいと思っています。早く完成した人は順次、結論の暫定的に作成する作業に移って下さい。後期開始直前に暫定結論の発表会を予定します。そこでの議論を受けて、後期は結論を固め、それに連なる本論の完成へと邁進することになります。	8月19日(日) ③13:30-15:00

16	後期は結論を固めて、本論が過不足なく序論と結論をつなぐように充実させることが必要になります。ここからが非常に大事な局面になります。後期も前期と同じく作業ベースでグループ単位毎のディスカッションを行っていきます。	10月7日(日) ③13:30-15:00
17	同上	10月14日(日) ③13:30-15:00
18	同上	10月21日(日) ③13:30-15:00
19	同上	10月28日(日) ③13:30-15:00
20	同上	11月4日(日) ③13:30-15:00
21	同上	11月11日(日) ③13:30-15:00
22	同上	11月18日(日) ③13:30-15:00
23	同上	11月25日(日) ③13:30-15:00
24	同上	12月2日(日) ③13:30-15:00
25	同上	12月9日(日) ③13:30-15:00
26	同上	12月16日(日) ③13:30-15:00
27	同上	12月23日(日) ③13:30-15:00
28	同上	1月13日(日) ③13:30-15:00
29	同上	1月20日(日) ③13:30-15:00
30	論文の正式審査日を全部で3回予定します。12月上旬、1月上旬、2月上旬です。早く論文が完成した人から順次審査を受けて下さい。リトライも勿論認めます。つまり、最大で3回審査を受けることも可能です。ですので、とにかく全体を早く完成させれば、審査で合格できる可能性も高くなります。2010年度生については初年度ということもあって、イレギュラーな対応をしましたが、2011年度以降はこの審査方式を厳守します。審査に不合格となる場合は、論文作成上は自動的に半期遅れとなりますので、合格できるレベルのものを早めに完成させ、審査を受けることをお勧めします。無論、審査は厳正に行います。	1月27日(日) ③13:30-15:00
試験	最終審査を以って代える。	

## 使用教科書／評価方法等

教科書	
参考書	
評価方法	論文提出と審査の合格 40%、出席と貢献度 60% (つまり全て出席することを前提とします。どうしても休む場合は、必ず事前に事務局を通じて連絡し、無断欠席としないようにして下さい。また、クラス全体への何らかの貢献をお願いします。それらを総合的に加味して成績はつけます。)
その他	

ID: YA12636b

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	通年	応用実践	租税法研究指導【2011年度秋入学生対象】	慶松勝太郎 以下、研究指導 委員会	30	4

## 授業の目的

本授業は修士論文の作成を目的としています。1年目の後期から始まる本年度は、序論の完成と先行研究の検討をとりまとめることが必須となります。また、結論についても暫定案を作成することを求めるようになると思うので、各自作業を自己責任でどんどん前に進めて欲しいと思います。

## 授業の到達目標

序論の完成・合格、先行研究の検討結果のとりまとめ。

## 履修条件

既に昨年度の研究指導を受けていること。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	論文作成作業をベースにします。また、初回からグループ分けを行い、グループ毎に主査を中心に議論を行っていきます。概ね3週に1回ぐらいのペースで議論の機会が回ってくるようになると思います。それまでに残りの2週は準備をする、論文作成するようにして行って下さい。状況に応じて、適宜、全体を集めてのアナウンスをする機会も設けます。	4月22日(日) ④15:10-16:40
2	同上	5月13日(日) ④15:10-16:40
3	同上	5月20日(日) ④15:10-16:40
4	同上	5月27日(日) ④15:10-16:40
5	同上	6月3日(日) ④15:10-16:40
6	同上	6月10日(日) ④15:10-16:40
7	同上	6月17日(日) ④15:10-16:40
8	同上	6月24日(日) ④15:10-16:40
9	同上	7月1日(日) ④15:10-16:40
10	同上	7月8日(日) ④15:10-16:40
11	同上	7月15日(日) ④15:10-16:40
12	同上	7月22日(日) ④15:10-16:40
13	同上	7月29日(日) ④15:10-16:40
14	同上	8月5日(日) ④15:10-16:40
15	ここまでで序論が完成し主査と中心とする委員会の合格を得ていることが、最低必要です。	8月19日(日) ④15:10-16:40
16	序論が完成した次は先行研究の検討をとりまとめる作業にとりかかることとなります。この期中に先行研究の検討をとりまとめ、暫定的な結論を描くことが求められることにな	10月7日(日) ④15:10-16:40

	ります。そのため、ここでも一貫して作業をベースにグループ毎に議論を積み重ねていくように授業は回します。	
17	同上	10月14日(日) ④15:10-16:40
18	同上	10月21日(日) ④15:10-16:40
19	同上	10月28日(日) ④15:10-16:40
20	同上	11月4日(日) ④15:10-16:40
21	同上	11月11日(日) ④15:10-16:40
22	同上	11月18日(日) ④15:10-16:40
23	同上	11月25日(日) ④15:10-16:40
24	同上	12月2日(日) ④15:10-16:40
25	同上	12月9日(日) ④15:10-16:40
26	同上	12月16日(日) ④15:10-16:40
27	同上	12月23日(日) ④15:10-16:40
28	同上	1月13日(日) ④15:10-16:40
29	同上	1月20日(日) ④15:10-16:40
30	ここまでで先行研究の検討がまとまってくるが必要になります。春季休暇が明ける直前に結論暫定案の発表会を予定します。したがって、作業を進める中で結論についても吟味するようにして下さい。	1月27日(日) ④15:10-16:40
試験	序論の完成・合格、先行研究の検討結果の書類を以って代える。	

## 使用教科書／評価方法等

教科書	
参考書	
評価方法	序論の完成・合格、先行研究の検討結果の評価で40%、出席と貢献度60%（つまり全て出席することを前提とします。どうしても休む場合は、必ず事前に事務局を通じて連絡し、無断欠席とならないようにして下さい。また、クラス全体への何らかの貢献をお願いします。それらを総合的に加味して成績はつけます。）
その他	

ID: YA12636c

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	通年	応用実践	租税法研究指導【2012年度春入学生対象】	慶松勝太郎 以下、研究指導 委員会	30	4

## 授業の目的

本授業は修士論文の作成を目的としています。1年目となる本年度の最後には序論が完成・合格していることが必達です。前期中は論文作成に必須の知識の教授を中心に行いますが、その際にも常に自身の論文作成を念頭に作業をしてもらいます。そして仮テーマを決め、夏季休暇中の最終週辺りに序論ドラフトの発表会を行います。後期は発表会を受け序論の完成に邁進します。早めに完成・合格した人については、次の課題にも早く取り組んでもらいますので、自主的・主体的にどんどん論文作成を進めて欲しいと思います。

また本年度から新たな試みとして、文章指導をメールベースで開始します。したがって、履修者の皆さんは論文作成をすると共に、文章作成の訓練も同時にこなさなければなりません。この取り組みはこれまでの論文指導の中から出てきたものです。真剣に取り組めば、論文の合格も近くなります。もちろん成績評価にも影響しますので、真剣に取り組んで下さい。

## 授業の到達目標

序論の完成・合格

## 履修条件

真剣に修士論文を完成させることを考えていること。主体的に論文作成に取り組む姿勢を堅持すること。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	「修士論文の書き方」講義①	4月22日(日) ②11:10-12:40
2	「修士論文の書き方」講義②	5月13日(日) ②11:10-12:40
3	「修士論文の書き方」講義を受けて、修士論文とはどういったものか共有するためのディスカッション。	5月20日(日) ②11:10-12:40
4	文献検索の方法に関する講義と実習<文献リストの作成>	5月27日(日) ②11:10-12:40
5	文献読解の方法・情報整理法の講義	6月3日(日) ②11:10-12:40
6	文献読解の方法・情報整理法の実習①	6月10日(日) ②11:10-12:40
7	文献読解の方法・情報整理法の実習②	6月17日(日) ②11:10-12:40
8	税法論文のテーマに関する講義①	6月24日(日) ②11:10-12:40
9	税法論文のテーマに関する講義②	7月1日(日) ②11:10-12:40
10	税法論文のテーマに関する講義③	7月8日(日) ②11:10-12:40
11	税法論文のテーマに関する講義④	7月15日(日) ②11:10-12:40
12	仮テーマ発表・討議	7月22日(日) ②11:10-12:40
13	仮テーマ発表・討議	7月29日(日) ②11:10-12:40
14	仮テーマ発表・討議	8月5日(日) ②11:10-12:40

15	仮テーマ発表・討議	8月19日(日) ②11:10-12:40
16	後期は序論ドラフト(レジュメ)発表会を経てグループ分けを行い、序論作成の作業をベースとしつつ、グループ毎にディスカッションを行います。ディスカッションの機会は3週に1回ぐらいのペースになると考えて下さい。それ以外の週はひたすら作業を行うこととなります。	10月7日(日) ②11:10-12:40
17	同上	10月14日(日) ②11:10-12:40
18	同上	10月21日(日) ②11:10-12:40
19	同上	10月28日(日) ②11:10-12:40
20	同上	11月4日(日) ②11:10-12:40
21	同上	11月11日(日) ②11:10-12:40
22	同上	11月18日(日) ②11:10-12:40
23	同上	11月25日(日) ②11:10-12:40
24	同上	12月2日(日) ②11:10-12:40
25	同上	12月9日(日) ②11:10-12:40
26	同上	12月16日(日) ②11:10-12:40
27	同上	12月23日(日) ②11:10-12:40
28	同上	1月13日(日) ②11:10-12:40
29	同上	1月20日(日) ②11:10-12:40
30	ここまでで序論が完成し合格していることが必達です。前年度までは少し大目にみてきた部分がありますが、期末までに序論が完成しない人は結局論文本体の完成もおぼつかないことが多いことから、本年度からは厳格にここでの完成・合格を見ます。つまり、序論が合格しない人は自動的に半期遅れることとなります。くれぐれも遅れることのないよう緊張感をもって取り組んで下さい。	1月27日(日) ②11:10-12:40
試験	序論の完成・合格を以って代える。	

## 使用教科書／評価方法等

教科書	
参考書	
評価方法	序論の完成・合格で40%、出席と貢献度60%(つまり全て出席することを前提とします。どうしても休む場合は、必ず事前に事務局を通じて連絡し、無断欠席としないようにして下さい。また、クラス全体への何らかの貢献をお願いします。それらを総合的に加味して成績はつけます。)
その他	

ID: YA12121a

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	発展	マネジメント・シミュレーションⅡ (A)	小林健吾 高田博行 山本宣明 横井隆志	15	2

## 授業の目的

本年度からマネジメント・シミュレーションはⅠとⅡだけになったが、LEC 会計大学院の実践的な教育の中核となるマネジメント・シミュレーションの仕上げとして、また大学院の勉強の総まとめとして実施するのがマネジメント・シミュレーションⅡである。複数製品の製造業の販売予測から販売計画、設備投資と製造計画、材料の購入計画、営業員の雇用計画、さらには株式発行、社債の発行と償還の計画までを含めた、販売・製造・財務の総合的な諸問題に対する意思決定を体験する。

マネジメント・シミュレーションⅡでは、Ⅰに比して決定するべき項目は非常に多くなり、価格競争も厳しく、また近年のアメリカからの金融恐慌の様な急激な経営環境の変化を、緊急経営情報によって実施することを予定しているなど、現実の経営環境に非常に近く設定して実施するので、マネジメント・シミュレーションによる学習の仕上げとして受講されることを期待している。

上記の狙いの他に、会計を通じた企業業績の発表や経営方針についての説明といったプレゼンテーション能力や、企業職能の各担当社としてのコミュニケーションによる能力の向上も意図している。そのため、ⅡではⅠと多少趣を異にして、入力回数少なくして、経営方針や結果の分析、分析方法などの発表の機会を多くするゼミ的な実施を予定している。

その他、Ⅰと同様に開講時に準備されるインターネット・デバイスを通して、多くの資料等が提供されるので、その活用による実践能力の向上を図ることが要求される。

## 授業の到達目標

経営管理のための財務諸表の分析に止まらず、その状況でのニーズに対応した会計情報の処理分析技法の創造にも対応できる能力を持った人材の育成を目指す。このため、ディスカッションを重視するとともに、参加者独自の利益計画のし群れ一他の開発等も背景的に支援することによって、履修者による創造的で合理的な分析方法の構築を到達目標とする。

## 履修条件

特に設けない。

## 授業計画

回数	授業内容	日程
1	マネジメント・シミュレーションⅡの要点と、授業の進め方のガイダンス、並びにチームの構成、企業内での職務の担当を決定し、参加者間の討議によって第3期までの分析に基づく企業評価を行い、事後の経営方針を決定する。	10月6日(土) 連3限-4限
2	システムの立ち上げと利用方法のガイダンスと実施。基本的にマネジメント・シミュレーションⅠと同様であるため、場合によっては4期の入力へと進む可能性もある。もしくは3期までの分析について時間をとって行い、ディスカッションする。	10月6日(土) 連3限-4限
3	第3期までの財務数値の分析に基づく第4期の入力と、結果の入手と反省・分析。経営報告会に向けたプレゼンテーションの準備。	10月13日(土) 連3限-4限
4	第4期の決定と結果に関連しての経営報告会。各企業チームの発表を踏まえて全員でディスカッションする。特にどのような視点と方法によって意思決定を行ったか。その妥当性などを中心に検討する。	10月13日(土) 連3限-4限
5	ここまでで見出された問題についての研究報告やシミュレーションの状況報告。各企業チームの意思決定と論拠、方法を比較しながら全員で議論を深めていく。	10月20日(土) 連3限-4限
6	第5期の意思決定と入力、および結果の入手と分析。プレゼンテーションに向けた準備。	10月20日(土) 連3限-4限
7	第5期の決定と結果に関連しての経営報告会。第4期でのディスカッションと同様。	10月27日(土) 連3限-4限
8	見出された問題についての研究報告やシミュレーションの状況報告。第4期の際と同様の方法で深掘りする。	10月27日(土) 連3限-4限

9	第6期の意思決定と入力、および結果の入手と分析。プレゼンテーションに向けた準備。	11月3日(土) 連3限-4限
10	第6期の決定と結果に関連しての経営報告会。第5期でのディスカッションと同様。	11月3日(土) 連3限-4限
11	見出された問題についての研究報告やシミュレーションの状況報告。第5期の際と同様の方法で深掘りする。	11月10日(土) 連3限-4限
12	第7期の意思決定と入力、および結果の入手と分析。プレゼンテーションに向けた準備。	11月10日(土) 連3限-4限
13	見出された問題についての研究報告やシミュレーションの状況報告。第6期の際と同様の方法で深掘りする	11月17日(土) 連3限-4限
14	第8期の意思決定と入力、および結果の入手と分析。プレゼンテーションに向けた準備。	11月17日(土) 連3限-4限
15	反省会。各自の分析モデルについて時間を十分にとって経過と結果を報告してもらう。また、得られた知見を情報共有する	11月24日(土) 連3限-4限
試験	実施しない。	

## 使用教科書/評価方法等

教科書	特に使用しない。参加者マニュアルを配布する。
参考書	必要な資料等はインターネット・デバイスを通して随時配布される。
評価方法	<p>企業業績だけではなく、計画と実績の乖離(業績管理能力)、株主総会の報告と資料の準備、(業績報告能力)、およびチーム内でのコミュニケーション(協調性と意思疎通能力)の状況、学習能力の向上(積極性と自己革新能力)の状況等によって総合的に評価する。</p> <p>また、このⅢでは各自の会計的分析能力とプレゼンテーション能力の向上を目指しているため、積極的に授業に貢献した者、しようとしている者の姿勢を評価する。</p>
その他	<p>マネジメント・シミュレーションⅡでは、価格や広告費の企業間競争が生じるほか、経営環境が複雑になり、意思決定すべき項目も飛躍的に増加するが、これと共に状況によって毎期に大きな環境変化が生じるなど、参加者の分析能力が大きく要求される。また日程からも知られるように、ゼミ的に頻繁に報告が要求されるので、マネジメント・シミュレーションⅠで確実に基礎を築いておくことが望ましい。</p> <p>マネジメント・シミュレーションで求める基礎とは、販売の不確実性に対処しつつ販売と製造、購買のバランスを実現することであり、企業の利益計画の骨格の理解である。単に頭で理解するだけでなく、体感的に理解できていることが望まれる。</p> <p>その上で、需要の価格弾力性、マネジッド・コスト、コミテッド・コスト、ROA と ROE、セールス・ミックス、プロダクト・ミックス、KPI マネジメント、キャッシュ・フロー・マネジメントといった、利益計画と経営意思決定に関連する重要な概念を総合的に理解する能力を完成させることを期待している。</p> <p>とりわけ、ファンダメンタルと株価、社債価格の関係などにも見聞を広め、ファイナンス的な素養も身につけてもらいたい。Ⅰのモデルでは、ファイナンスに関する部分を限定的に取り上げていたので、これらの本格的な実践はこのⅡ登場する。ここではこうしたパソコンで有効に実行できる範囲でできるだけ広く取り上げている。企業は製品市場だけでなく、資本市場ともうまく付き合わなければならない。その付き合い方のポイントを理解してもらいたいと考えている。</p> <p>注意事項：授業の内容や進度は状況に応じて変更することがあります。</p>



ID: YA12121b

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	発展	マネジメント・シミュレーションⅡ (B)	小林健吾 高田博行 山本宣明 横井隆志	15	2

## 授業の目的

本年度からマネジメント・シミュレーションはⅠとⅡだけになったが、LEC 会計大学院の実践的な教育の中核となるマネジメント・シミュレーションの仕上げとして、また大学院の勉強の総まとめとして実施するのがマネジメント・シミュレーションⅡである。複数製品の製造業の販売予測から販売計画、設備投資と製造計画、材料の購入計画、営業員の雇用計画、さらには株式発行、社債の発行と償還の計画までを含めた、販売・製造・財務の総合的な諸問題に対する意思決定を体験する。

マネジメント・シミュレーションⅡでは、Ⅰに比して決定するべき項目は非常に多くなり、価格競争も厳しく、また近年のアメリカからの金融恐慌の様な急激な経営環境の変化を、緊急経営情報によって実施することを予定しているなど、現実の経営環境に非常に近く設定して実施するので、マネジメント・シミュレーションによる学習の仕上げとして受講されることを期待している。

上記の狙いの他に、会計を通じた企業業績の発表や経営方針についての説明といったプレゼンテーション能力や、企業職能の各担当社としてのコミュニケーションによる能力の向上も意図している。そのため、ⅡではⅠと多少趣を異にして、入力回数少なくして、経営方針や結果の分析、分析方法などの発表の機会を多くするゼミ的な実施を予定している。

その他、Ⅰと同様に開講時に準備されるインターネット・デバイスを通して、多くの資料等が提供されるので、その活用による実践能力の向上を図ることが要求される。

## 授業の到達目標

経営管理のための財務諸表の分析に止まらず、その状況でのニーズに対応した会計情報の処理分析技法の創造にも対応できる能力を持った人材の育成を目指す。このため、ディスカッションを重視するとともに、参加者独自の利益計画のし群れ一他の開発等も背局的に支援することによって、履修者による創造的で合理的な分析方法の構築を到達目標とする。

## 履修条件

特に設けない。

## 授業計画

回数	授業内容	日程
1	マネジメント・シミュレーションⅡの要点と、授業の進め方のガイダンス、並びにチームの構成、企業内での職務の担当を決定し、参加者間の討議によって第3期までの分析に基づく企業評価を行い、事後の経営方針を決定する。	12月1日(土) 連3限-4限
2	システムの立ち上げと利用方法のガイダンスと実施。基本的にマネジメント・シミュレーションⅠと同様であるため、場合によっては4期の入力へと進む可能性もある。もしくは3期までの分析について時間をとって行い、ディスカッションする。	12月1日(土) 連3限-4限
3	第3期までの財務数値の分析に基づく第4期の入力と、結果の入手と反省・分析。経営報告会に向けたプレゼンテーションの準備。	12月8日(土) 連3限-4限
4	第4期の決定と結果に関連しての経営報告会。各企業チームの発表を踏まえて全員でディスカッションする。特にどのような視点と方法によって意思決定を行ったか。その妥当性などを中心に検討する。	12月8日(土) 連3限-4限
5	ここまでで見出された問題についての研究報告やシミュレーションの状況報告。各企業チームの意思決定と論拠、方法を比較しながら全員で議論を深めていく。	12月15日(土) 連3限-4限
6	第5期の意思決定と入力、および結果の入手と分析。プレゼンテーションに向けた準備。	12月15日(土) 連3限-4限
7	第5期の決定と結果に関連しての経営報告会。第4期でのディスカッションと同様。	12月22日(土) 連3限-4限
8	見出された問題についての研究報告やシミュレーションの状況報告。第4期の際と同様の方法で深掘りする。	12月22日(土) 連3限-4限

9	第6期の意思決定と入力、および結果の入手と分析。プレゼンテーションに向けた準備。	1月12日(土) 連3限-4限
10	第6期の決定と結果に関連しての経営報告会。第5期でのディスカッションと同様。	1月12日(土) 連3限-4限
11	見出された問題についての研究報告やシミュレーションの状況報告。第5期の際と同様の方法で深掘りする。	1月19日(土) 連3限-4限
12	第7期の意思決定と入力、および結果の入手と分析。プレゼンテーションに向けた準備。	1月19日(土) 連3限-4限
13	見出された問題についての研究報告やシミュレーションの状況報告。第6期の際と同様の方法で深掘りする	1月26日(土) 連3限-4限
14	第8期の意思決定と入力、および結果の入手と分析。プレゼンテーションに向けた準備。	1月26日(土) 連3限-4限
15	反省会。各自の分析モデルについて時間を十分にとって経過と結果を報告してもらう。また、得られた知見を情報共有する	2月2日(土) 連3限-4限
試験	実施しない。	

## 使用教科書/評価方法等

教科書	特に使用しない。参加者マニュアルを配布する。
参考書	必要な資料等はインターネット・デバイスを通して随時配布される。
評価方法	<p>企業業績だけではなく、計画と実績の乖離(業績管理能力)、株主総会の報告と資料の準備、(業績報告能力)、およびチーム内でのコミュニケーション(協調性と意思疎通能力)の状況、学習能力の向上(積極性と自己革新能力)の状況等によって総合的に評価する。</p> <p>また、このⅢでは各自の会計的分析能力とプレゼンテーション能力の向上を目指しているため、積極的に授業に貢献した者、しようとしている者の姿勢を評価する。</p>
その他	<p>マネジメント・シミュレーションⅡでは、価格や広告費の企業間競争が生じるほか、経営環境が複雑になり、意思決定するべき項目も飛躍的に増加するが、これと共に状況によって毎期に大きな環境変化が生じるなど、参加者の分析能力が大きく要求される。また日程からも知られるように、ゼミ的に頻繁に報告が要求されるので、マネジメント・シミュレーションⅠで確実に基礎を築いておくことが望ましい。</p> <p>マネジメント・シミュレーションで求める基礎とは、販売の不確実性に対処しつつ販売と製造、購買のバランスを実現することであり、企業の利益計画の骨格の理解である。単に頭で理解するだけでなく、体感的に理解できていることが望まれる。</p> <p>その上で、需要の価格弾力性、マネジッド・コスト、コミテッド・コスト、ROA と ROE、セールス・ミックス、プロダクト・ミックス、KPI マネジメント、キャッシュ・フロー・マネジメントといった、利益計画と経営意思決定に関連する重要な概念を総合的に理解する能力を完成させることを期待している。</p> <p>とりわけ、ファンダメンタルと株価、社債価格の関係などにも見聞を広め、ファイナンス的な素養も身につけてもらいたい。Ⅰのモデルでは、ファイナンスに関する部分を限定的に取り上げていたので、これらの本格的な実践はこのⅡ登場する。ここではこうしたパソコンで有効に実行できる範囲でできるだけ広く取り上げている。企業は製品市場だけでなく、資本市場ともうまく付き合わなければならない。その付き合い方のポイントを理解してもらいたいと考えている。</p> <p>注意事項：授業の内容や進度は状況に応じて変更することがあります。</p>

ID: YA12132b

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	応用実践	会計総合事例研究	林總 齋藤淳 篠宮雅明 山本宣明 富田幸恵	15	2

## 授業の目的

本科目は従来、財務会計・管理会計・監査の各領域で設けられていた事例研究を統合して設けられました。各領域を個別に捉えるのではなく、総合的に捉えることが大きな特徴です。本科目は、会計専門職業人に求められる高度な論理的思考力（複眼的思考力）の養成を目的としています。

本科目は5人の担当教員が、1つのストーリーを題材としながら議論を深めていきます。各教員が履修者を巻き込んで談論風発的に議論を行い、議論を通じて複眼的思考力の養成を行います。したがって、積極的に議論に参加し授業に貢献することが履修者には求められます。また、授業は2週に1回のペースで、1回に2コマ（3時間）を当てます（初回だけは1コマ）。このことから分かるように、予習と復習の時間を十分にとることができます。授業当日は充実した議論ができるよう、各自準備をして臨んで頂きたいと思います。

## 授業の到達目標

本科目で養成したい論理的思考力は、財務会計、管理会計、監査のそれぞれの視点で事象を分析し、それらを総合して結論を導く能力（複眼的思考力）です。したがって、まず各視点で論理的な意見を述べることができ、それらを総合して結論を述べられることが到達目標となります。

## 履修条件

積極的に授業に参加すること。授業への貢献が成績に大きく影響します。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	プロローグ<趣旨説明やチーム分けなど>	10月6日(土) ⑤16:50-18:20
2	第1章<レクチャー担当: 齋藤淳先生>	10月20日(土) 連5限-6限
3	第2章<レクチャー担当: 齋藤淳先生>	10月20日(土) 連5限-6限
4	第3章<レクチャー担当: 齋藤淳先生>	11月3日(土) 連5限-6限
5	第3章<レクチャー担当: 齋藤淳先生>	11月3日(土) 連5限-6限
6	第4章<レクチャー担当: 山本先生>	11月17日(土) 連5限-6限
7	第5章<レクチャー担当: 山本先生>	11月17日(土) 連5限-6限
8	第6章<レクチャー担当: 富田先生>	12月1日(土) 連5限-6限
9	第7章<レクチャー担当: 篠宮先生>	12月1日(土) 連5限-6限
10	第8章<レクチャー担当: 山本先生>	12月15日(土) 連5限-6限
11	第8章<レクチャー担当: 山本先生>	12月15日(土) 連5限-6限
12	第9章<レクチャー担当: 富田先生>	1月12日(土) 連5限-6限
13	第10章<レクチャー担当: 篠宮先生>	1月12日(土) 連5限-6限
14	第11章<レクチャー担当: 篠宮先生>	1月26日(土) 連5限-6限

15	まとめ	1月26日(土) 連5限-6限
試験		

## 使用教科書／評価方法等

教科書	林總著『餃子屋と高級フレンチではどちらが儲かるか』ダイヤモンド社
参考書	適宜紹介
評価方法	担当部分の発表や発言を含む授業への貢献を出席ととして総合する割合 (60%)、期末レポート (40%)
その他	授業の進度は状況に応じて変化します。

ID: YA12229

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	発展	会計制度 I	齋藤淳	15	2

## 授業の目的

会計制度Ⅱでカバーし切れなかった論点について、その背景、実情、将来展望等について、税法、監査とも絡めながら多角的に解説していく。単に講義を聴くだけでなく各自で読み解き、考えていって欲しい。あるべき会計は永遠に完成されることはなく常に流動変化している。「真実はひとつ」などということは、会計の世界では適合するとは限らない。

## 授業の到達目標

細切れの単なる知識ではなく会計を巡る広範な世界を体系的にかつ実践的に理解し実務的にも使いこなせるようになること。

## 履修条件

簿記、会計の基礎を身につけていたほうが望ましい。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	コンバージェンスの国際的動向と日本の対応を概説。IFRS の日本における導入の状況、そのパターン、会社法や税法に与える影響と問題点等について解説。IFRS 基準の内容についての特徴・問題点についても解説。	10月2日(火) ⑤19:30-21:00
2	同その2	10月9日(火) ⑤19:30-21:00
3	貸借対照表の純資産の意義、内容、損益計算書・株主資本等変動計算書と絡めた財務諸表の体系を、改正前の決算書体系と比較して理解する。自己株式の意義、取扱い、表示の変遷、取得・保有・処分・消却における処理の仕方につき設例も参照しつつ解説。企業再編における自己株式交付とデッド・エクイティ・スワップについても解説。	10月16日(火) ⑤19:30-21:00
4	同その2	10月23日(火) ⑤19:30-21:00
5	連結会計の意義、仕組、基本的会計処理の概要を理解する。	10月30日(火) ⑤19:30-21:00
6	連結の範囲、連結財務諸表の表示等について理解する。	11月6日(火) ⑤19:30-21:00
7	企業結合会計について理解する。	11月13日(火) ⑤19:30-21:00
8	特別講義(内容未定)	11月20日(火) ⑤19:30-21:00
9	特別講義(内容未定)	11月27日(火) ⑤19:30-21:00
10	公益法人会計の意義、財務諸表体系、とその仕組み、参考事例を参照に、各種財務諸表から税額計算までの一連の流れを収支計算を意識しながら理解する。	12月4日(火) ⑤19:30-21:00
11	公益法人の制度改革についての理解。NPOや学校法人、社会福祉法人等の様々な会計についてその概略を理解する。	12月11日(火) ⑤19:30-21:00
12	学校法人会計の意義、財務諸表体系、とその仕組みを理解する。	12月18日(火) ⑤19:30-21:00
13	社会福祉法人会計・独立行政法人会計の意義、財務諸表体系、とその仕組みを理解する。	1月8日(火) ⑤19:30-21:00
14	公会計の目的、実態、特長と改革、健全化の要点、地方公共団体の監査、決算書の仕組と内容につき事例を参照しつつ理解する。	1月15日(火) ⑤19:30-21:00
15	同その2	1月22日(火) ⑤19:30-21:00

試験	レポートによる	
----	---------	--

## 使用教科書／評価方法等

教科書	『会計監査六法 平成24年版』 日本公認会計士協会編 中央経済社
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価方法	期末レポート50%、授業中の発言等20%、出席30%
その他	

ID: YA12230

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	発展	会計制度Ⅱ	齋藤淳	15	2

## 授業の目的

財務会計論でカバーし切れなかった論点について、その背景、実情、将来展望等について、税法、監査とも絡めながら多角的に解説していく。単に講義を聴くだけでなく各自で読み解き、考えていって欲しい。あるべき会計は永遠に完成されることはなく常に流動変化している。「真実はひとつ」などということは、会計の世界では適合するとは限らない。触れていない重要論点については、会計制度Ⅰにて引き続き取り上げる。

## 授業の到達目標

細切れの単なる知識ではなく会計を巡る広範な世界を体系的にかつ実践的に理解し使いこなせるようになること。

## 履修条件

簿記、会計の基礎を身につけていたほうが望ましい。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	減損会計基準、設定に関する意見書等の内容を検討し、減損会計導入の経緯、仕組みと考え方、公正評価額、時価とは、将来CF、割引計算、割引率、グルーピング、表示等について理解する。	10月7日(日) ⑤16:50-18:20
2	土地再評価法の内容と減損処理との違い、減損会計導入前の導入延期の動きを参照しつつ、会計と政治の絡みについても考えてみる。	10月14日(日) ⑤16:50-18:20
3	計算設例により、減損の判定と計算の過程、会計処理、税務上の取扱い、実際の決算書、注記の実例を検討。減損会計の処理と監査上の留意事項について理解する。	10月21日(日) ⑤16:50-18:20
4	減損会計の内容が含まれている公認会計士試験の問題を検討、共用資産、のれんの会計処理について理解を図り、減損会計の意義と問題点について改めて検討する。	10月28日(日) ⑤16:50-18:20
5	損益会計と税務会計の関係、税効果会計導入の経緯、当時の経済的、会計的背景、その仕組みと考え方を設例に基づき理解する。税効果会計基準、実務指針等の内容を検討。	11月4日(日) ⑤16:50-18:20
6	税効果会計基準、実務指針等の内容を参照しつつ、具体的な会計処理・仕訳、実際の決算書の表示実例を参考にしつつ理解を図る。日本における現状と問題点を検討。住民税の説明を行ったうえで、実効税率の考え方と実務における算出の仕方を理解する。	11月11日(日) ⑤16:50-18:20
7	企業の実例を参照しつつ、税効果会計が与えた影響とその背景に触れた上で、繰延税金資産の資産性、将来予測判定、回収可能性について理解し、税効果会計の意義と問題点、監査上の留意点を総括する。	11月18日(日) ⑤16:50-18:20
8	資産除去債務の意義、導入の背景、計算と処理につき設例も使いながら理解する。減損会計基準との関係、原子力発電所の会計処理についても言及する。	11月25日(日) ⑤16:50-18:20
9	資産除去債務会計の問題点について検討する。借地権の意義分類等について理解する。	12月2日(日) ⑤16:50-18:20
10	金融資産、金融負債の範囲とその発生・消滅の認識評価における基本的考え方、時価、有価証券の評価における種々のポイントを理解する。更に金融危機下における欧米及び日本における動向、問題点に論及。時価会計、更には取得原価主義会計について改めて考えてみる。	12月9日(日) ⑤16:50-18:20
11	同その2	12月16日(日) ⑤16:50-18:20
12	貸倒見積高の算定における債権の区分とそれぞれにおける算定方法、会計処理の仕方、キャッシュフロー見積法、財務内容評価法のそれぞれにおける留意点、問題点、更には税法上の取扱いとの関係等について検討理解する。	12月23日(日) ⑤16:50-18:20
13	無形固定資産の意義、分類、前払費用・繰延資産との違い、特許権等の工業所有権、知財	1月13日(日) ⑤16:50-18:20

	評価と意義、種々の評価方法とその問題点、営業権の処理と開示について理解する。	
14	リース取引の分類、意義、要件について理解したうえで会計処理、税務上の取扱を比較しつつ検討理解を深める。	1月20日(日) ⑤16:50-18:20
15	会計上の変更および誤謬の訂正に関する会計について理解する。	1月27日(日) ⑤16:50-18:20
試験	期末試験を実施する。	2月3日(日) ⑤16:50-18:20

## 使用教科書／評価方法等

教科書	『会計監査六法 平成24年版』 日本公認会計士協会編 中央経済社
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価方法	期末テスト50%、授業中の発言等20%、出席30%
その他	



ID: YA12240

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	発展	ディスクロージャー制度	齋藤淳	15	2

## 授業の目的

わが国のディスクロージャー制度の概要を把握する。特に、会社法および金融商品取引法におけるディスクロージャー制度の目的、役割および実際の運用について理解させる。さらに、発行市場および流通市場におけるディスクロージャーにまつわる様々な諸問題を、実例に基づき検討、解説、学生の参加活動によって開示制度についてのさまざまな知識を体系的に身につけるとともに自分なりの思考力・判断力・表現力を身につける。

## 授業の到達目標

各自が自分なりの分析、研究を行い、発表、質疑応答等を実践することによって、より深い理解とコミュニケーション能力の向上を図る。

## 履修条件

前向きな心と素朴な懐疑心。既存の思い込み先入観を離れ柔軟に新たなる目で物事を見直す気持ちが肝要です。会計の基礎知識が必要。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	ディスクロージャー制度概括	10月7日(日) ③13:30-15:00
2	事例研究A解説。トピックなテーマがあれば随時取り上げますのでどのような事例を取り上げるかは不明です。	10月14日(日) ③13:30-15:00
3	事例研究A解説	10月21日(日) ③13:30-15:00
4	事例研究討議	10月28日(日) ③13:30-15:00
5	事例研究討議	11月4日(日) ③13:30-15:00
6	事例研究講評解説	11月11日(日) ③13:30-15:00
7	事例研究B解説	11月18日(日) ③13:30-15:00
8	事例研究発表	11月25日(日) ③13:30-15:00
9	事例研究発表	12月2日(日) ③13:30-15:00
10	事例研究講評解説	12月9日(日) ③13:30-15:00
11	事例研究C解説	12月16日(日) ③13:30-15:00
12	事例研究発表	12月23日(日) ③13:30-15:00
13	事例研究発表	1月13日(日) ③13:30-15:00
14	事例研究講評解説	1月20日(日) ③13:30-15:00
15	総括・補足説明等	1月27日(日) ③13:30-15:00
試験	試験は行わない	

## 使用教科書／評価方法等

教科書	特に指定しない。
-----	----------

参考書	『会計監査六法 平成24年版』 日本公認会計士協会編 中央経済社
評価方法	授業中の発言、発表60%、出席40%
その他	

ID: YA12232

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	応用実践	財務会計事例研究	高田博行	15	2

## 授業の目的

本講義は会計情報の投資情報としての有用性と限界を理解させることを目的とする。この目的を達成のため、デフォルメした「ケース」を用いる。この「ケース」では、概念フレームワークに示されている資産・負債の概念が、キャッシュフローの裏付けを有するがゆえに有用と考えられていることを理解せしめるのに必要な範囲の会計基準を取り上げ、また、ある種の負債がこの例外となっていることから意思決定情報として有用性が減殺されていることを理解せしめるために、社債債務を取り上げる。

## 授業の到達目標

会計情報の投資情報としての有用性と限界とが理解でき、また、会計事象を、財務会計に関する概念フレームワークと矛盾することなく解析し、また、論理的かつ財務諸表の利用者に誤解を避けさせる配慮をしつつ表現できるようにすること。

## 履修条件

質疑応答を交えつつ双方向性ある講義を目指したい。講義への積極的な貢献をせんとする心構えがあれば特段の履修条件は設けない。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	双方向性のある講義には論理的思考能力が要求されることから、相手の立場にたつて論旨を読み取り、事実の誤認、論理の飛躍、根拠薄弱、データ解析の誤謬などの有無を、批判的に検討することのできる能力の向上が必要であることを説明する。	10月7日(日) ④15:10-16:40
2	資産、負債の意義、差額概念としての純資産の経済社会における役割期待などを説明する。負債消滅の要件を説明し、社債の借り換えを例にとり、負債消滅の要件が法的概念である債務消滅の要件とは異なることを説明する。	10月14日(日) ④15:10-16:40
3	企業会計に関する基準や指針などの会計ルールに基づき演繹的かつ論理的に結論を出す能力の向上を目的として、資本等取引や統計的サンプリングを例に挙げ、定義や意義に基づき論理的・演繹的に考えることが重要であることを説明する。	10月21日(日) ④15:10-16:40
4	会計ルールを正確に読取る能力の向上を目的として、一例として「その他」と「その他の」との読み分けの重要性を説明する。また、預託金方式のゴルフ会員権が金銭債権に該当しないことや、退職給付に係る負債と債務との異同などを説明する。	10月28日(日) ④15:10-16:40
5	金融商品の認識における2つのアプローチを説明し、金融商品である有価証券については、財務構成要素アプローチが適用されていることを説明する。また、有価証券の法的な性格が必ずしも会計処理と整合していないことを説明する。	11月4日(日) ④15:10-16:40
6	金融商品の時価概念や公正価値概念を理解せしめる。時価評価の困難性を理解せしめるため、格子モデルやブラック＝ショールズ・モデルの問題点を説明する。資産の当初認識のルールが会計上の交換取引と一部不整合となっていることを説明する。	11月11日(日) ④15:10-16:40
7	金融資産の当初の認識、有価証券の売買契約の認識、償却原価の算定、及び、満期保有目的の債券の適格要件に関するルールなどを説明する。「その他有価証券」の会計処理、及び、表示につき、会計規則集を参照させつつ、説明する。	11月18日(日) ④15:10-16:40
8	減損処理に関する会計基準の概要、並びに、臨時償却、及び、臨時損失との異同を説明する。減損処理が製造設備に係る投資の回収剰余計算に影響を与え、結果として、製品原価情報の位置付けが変化したことを説明する。	11月25日(日) ④15:10-16:40
9	固定資産の減損の兆候、判定のプロセス、及び、法人税法における減損損失の取り扱いを説明する。デット・アサンプション、及び、ローン・パーティシペーションを取り上げ、金融負債や金融資産の消滅の要件を参照させつつ、会計処理方法を説明する。	12月2日(日) ④15:10-16:40
10	減損処理の製品製造原価への影響を実感させるため、簡単な数値例を用いて説明する。満期日と償還金額とが確定している債券の会計処理の概要を説明する。債券の割引現在価値法による評価を、数値例を用いて説明する。	12月9日(日) ④15:10-16:40

11	過剰設備の減損処理が投資情報としての有用性に与える影響を理解せしめるため、数値例を用いて説明する。ライブドア事件を取り上げ、会計において自己株式とは何を意味するのかを考えさせる。デット・アサンプション実行後の信託財産に生じた収益の税務上の取扱いを説明する。	12月16日(日) ④15:10-16:40
12	税効果会計の意義、実効税率の計算プロセス、並びに、繰延税金資産に係る評価性引当額の計上・取崩しのルールにつき、数値例を用いて説明する。自己社債の会計処理を、資産・負債の概念に基づき、法的な考え方と対比させつつ、説明する。	12月23日(日) ④15:10-16:40
13	実際の有価証券報告書から集めたデータに基づき、複数の総合スーパーを比較分析する。一人当たりの売上高や交差比率が分析ツールとして重要なことを認識せしめる。実質支配力基準の下では「ゼロ連結」となることが理論上は生じ得ること説明する。	1月13日(日) ④15:10-16:40
14	現実をデフォルメした過少資本企業を検討すべき「ケース」として与え、グループ討議により、現状分析と論点析出をさせる。	1月20日(日) ④15:10-16:40
15	前回のグループ討議により検討した「ケース」につき、グループごとに会社再建策を発表させる。	1月27日(日) ④15:10-16:40
試験	記述式。会計監査六法、及び、電卓は、必ず持参すること。詳細は授業最終回において指示する。	2月3日(日) ④15:10-16:40

## 使用教科書／評価方法等

教科書	オリジナルのテキストを配布する。
参考書	講義時間中に適宜、指示する。
評価方法	<p>期末テスト40%、出席50%、講義中の発言10%</p> <p>知識の再現力よりは、論理的に考え、かつ、表現する能力の向上を目指しており、院生の能力を常に把握する必要性から、出席を重視し、評価のウェイトを50%とする。全15回すべてに出席した場合は、原則として50点を付与する。ただし、9回以上、講義に出席することが及第の最低限の条件とする。</p> <p>つぎに、参加者が相互に啓発されることを期待して、教員と院生、院生と院生相互間の双方向の活発な質疑応答を期待している。参加者は、積極的な貢献が求められており、学際領域を意識した発言、応用能力の高さを示す発言、その他の貢献に対するウェイトは10%とする。</p> <p>残りの40%は、教育効果を測定するための記述式試験を課して評価する。</p>
その他	講義の内容及び進度は、受講者の理解度を勘案して適宜変更する。

ID: YA12243b

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	応用実践	IFRS 研究	富田幸恵	15	2

## 授業の目的

IFRS の基本的概念について考察をおこない、その基本的な考え方を理解し、グローバルに活躍できる会計専門職業人としての高い見識の習得を目的とする。

## 授業の到達目標

IFRS の基本的な考え方を理解し、IFRS 原文を論理的に解析することにより、その意味内容を一義的に特定できるようになることを目標とする。そのような能力を身につけることで、今後も流動的な IFRS に対応可能な、グローバルに活躍できる会計専門職業人となることを目標とする。

## 履修条件

特になし

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	IFRS とは？IFRS の特色	10月6日(土) ②11:10-12:40
2	概念フレームワーク(1):財務報告とその目的①	10月13日(土) ②11:10-12:40
3	概念フレームワーク(2):財務報告とその目的②	10月20日(土) ②11:10-12:40
4	概念フレームワーク(3):財務報告とその目的③	10月27日(土) ②11:10-12:40
5	概念フレームワーク(4):構成要素とその認識・測定①	11月3日(土) ②11:10-12:40
6	概念フレームワーク(5):構成要素とその認識・測定②	11月10日(土) ②11:10-12:40
7	概念フレームワーク(6):構成要素とその認識・測定③	11月17日(土) ②11:10-12:40
8	IFRS に基づく連結財務諸表のケーススタディー (HOYA 株式会社): 外貨建取引(1)	11月24日(土) ②11:10-12:40
9	IFRS に基づく連結財務諸表のケーススタディー (HOYA 株式会社): 外貨建取引(2)	12月1日(土) ②11:10-12:40
10	IFRS に基づく連結財務諸表のケーススタディー (HOYA 株式会社): 外貨建取引(3)	12月8日(土) ②11:10-12:40
11	IFRS に基づく連結財務諸表のケーススタディー (HOYA 株式会社): 有形固定資産(1)	12月15日(土) ②11:10-12:40
12	IFRS に基づく連結財務諸表のケーススタディー (HOYA 株式会社): 有形固定資産(2)	12月22日(土) ②11:10-12:40
13	IFRS に基づく連結財務諸表のケーススタディー (HOYA 株式会社): のれんを除く無形資産(1))	1月12日(土) ②11:10-12:40
14	IFRS に基づく連結財務諸表のケーススタディー (HOYA 株式会社): のれんを除く無形資産(2)	1月19日(土) ②11:10-12:40
15	総括	1月26日(土) ②11:10-12:40
試験		2月2日(土) ②11:10-12:40

## 使用教科書／評価方法等

教科書	『エッセンシャル IFRS』(第2版) 秋葉賢一 中央経済社
参考書	
評価方法	試験 25%、出席 75%
その他	注意事項：授業の内容は進度などに応じて変わることがあります。

ID: YA12325

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	発展	原価計算論	林總 山本宣明	15	2

## 授業の目的

原価計算は幾つかの目的を有しています。しかし、基本的に原価計算が必要とされるのは、企業の利益計画を遂行するためです。すなわち、原価計算システムは各企業の利益計画の在りように影響されます。管理会計を理解するのが難しいのは、利益計画の多様性、もっと言えば経営の多様性に影響されるからです。原価計算構造の細部への視点と共に経営的な視点を持つことが、真に必要とされる原価計算システムの構築を可能にします。職業会計人に求められる原価計算観を養成すること、これが本科目の目的です。

なお、管理会計論と同様に、授業は講義だけでなく履修者によるプレゼンテーションとディスカッションを取り入れます。積極的な授業への貢献を望みます。また、工場見学を予定するので、可能な限り参加をお願いします(工場見学は平日の日中に組まざるを得ない可能性が高い)。

## 授業の到達目標

原価計算の基本的な思考法を理解すること。また、思考法を活かした計算が具体的に行えること。

## 履修条件

必修科目なので特に設けませんが、管理会計論を履修していることが望ましい。また、原価計算に関する自己学習を積極的に行うこと。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	<原価計算の基本フレームワークと小史> 原価計算の基本フレームワークである費目別計算、部門別計算、製品別計算という3段階計算の意味を検討します。合わせて原価計算の発展史の概要を紹介します。	10月4日(木) ⑤19:30-21:00
2	<個別原価計算と総合原価計算> 伝統的な原価計算の代表的存在である個別原価計算と総合原価計算の両者を比較します。特に総合原価計算の現代的な役割について検討します。	10月11日(木) ⑤19:30-21:00
3	<標準原価計算と原価改善> 原価管理の主要な方法である標準原価計算の歴史と現状を検討します。しかる後にトヨタで発展した原価改善と呼ばれる方法を紹介し、標準原価計算との異同を考察します。	10月18日(木) ⑤19:30-21:00
4	<活動基準原価計算 その1> 活動基準原価計算が何故提起されることになったのかを、『レレバンス・ロスト』の議論を整理することで考察していきます。活動基準原価計算シリーズの初回では、どこに問題の焦点があるのかを把握することに重点を置いて議論します。	10月25日(木) ⑤19:30-21:00
5	<活動基準原価計算 その2> 『レレバンス・ロスト』以降、活動基準原価計算を巡ってどのような議論が為されていたのかをレビューします。活動基準原価計算の基本構造を押さえ、研究の進展によってどのような論点やツールが提起されるようになったのかを検討します。	11月1日(木) ⑤19:30-21:00
6	<活動基準原価計算 その3> 問題の所在とこれまでの研究の経過を踏まえ、活動基準原価計算システムの実装について議論します。そのため、林先生が構築されたシステムを素材に議論を深めていきます。加えて、幾つかの事例を紹介し批判的に検討します。	11月8日(木) ⑤19:30-21:00
7	<原価計算基準の研究> 我が国の原価計算実務に大きな影響を与えてきた「原価計算基準」を取り上げます。全文を精読した上で、基準ができるまでの経過や、できた後の論議を精査します。また、同基準に対する批判がどのような点にあるのか明確にします。	11月15日(木) ⑤19:30-21:00
8	<諸井先生ご講演> 「原価計算基準」の作成に携わられた諸井先生にご講演を賜ります。時間に応じて質疑	11月22日(木) ⑤19:30-21:00

	応答も予定します。	
9	<p>&lt;直接原価計算&gt; 直接原価計算が何故必要とされたのかを明確にし、その有用性を検討します。歴史的な検討と共に、理論的な深堀を行います。全部原価計算との調整など実務的に焦点となるポイントを特に検討します（固変分解にも触れます）。</p>	11月29日（木） ⑤19:30-21:00
10	<p>&lt;小林先生ご講演&gt; わが国の直接原価計算の研究を語る時、小林先生の研究に触れない訳にはいきません。まさに直接原価計算研究の泰斗と言うべき小林先生にご講演を賜ります。</p>	12月6日（木） ⑤19:30-21:00
11	<p>&lt;スループット会計&gt; ゴールドラットが提唱した制約理論のポイントを押さえた上で、原価計算の観点からスループット会計の位置付けを行います。またスループット会計がどのような射程を持つものなのか議論していきます。</p>	12月13日（木） ⑤19:30-21:00
12	<p>&lt;品質原価計算&gt; 活動基準原価計算の回で戦略的コスト・マネジメントを取り上げますが、その展開として品質原価計算に焦点を当てます。概要を踏まえた上で、原価企画との関連に特に注目し、製品の設計段階における原価管理の重要性と戦略性を考察します。</p>	12月20日（木） ⑤19:30-21:00
13	<p>&lt;ライフサイクル・コスト&gt; 製品ライフを考慮した原価計算を取り上げます。品質原価計算と同様に戦略的コスト・マネジメントの1つの展開として捉えていきます。</p>	1月10日（木） ⑤19:30-21:00
14	<p>&lt;工場見学&gt; 工場見学の予定は先方の都合もあるため、シラバス上はここに置きますが、どこかで1回必ず行くことを予定します。</p>	1月17日（木） ⑤19:30-21:00
15	<p>&lt;総まとめ&gt; 工場見学やこれまでの講義内容を踏まえ、林先生に在りうべき原価計算についてお話頂きます。また、履修者の皆さんと議論を深めたいと思います。</p>	1月24日（木） ⑤19:30-21:00
試験	<p>計算問題と論述など原価計算の基本思考が身についているかチェックする試験を行います。</p>	1月31日（木） ⑤19:30-21:00

## 使用教科書／評価方法等

教科書	林總著『新版わかる！管理会計』ダイヤモンド社
参考書	適宜指定
評価方法	小テスト20%、期末テスト40%、出席（授業への貢献度も含む）40%
その他	授業内容や進度は状況に応じて変化します。積極的な貢献を期待します。



ID: YA12332

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	応用実践	管理会計事例研究	林總	15	2

## 授業の目的

現代の管理会計は、理論だけでなく、IT(情報技術)、そしてビジネスを知らないと理解できません。特に重要なのはビジネスそのものの理解です。本講では、システムを通して、ビジネスがどのように行われているか。また、管理会計とITはどのようにかかわっているのかについて学んでいきます。

## 授業の到達目標

単なる知識にとどまることなく、管理会計を仕事に生かせるスキルを養成する。

## 履修条件

管理会計か原価計算を履修していること

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	講義の進め方、管理会計の意義と体系 管理会計がなぜ必要とされるか。管理会計の体系を俯瞰する (講義の進め方、受講の前提の説明、成績評価基準、自己紹介)	10月6日(土) ④15:10-16:40
2	会社の仕組み 管理会計の理解には会社の活動の知識が不可欠である。そこで、企業統治、会社組織(事業部、部門)、ビジネスプロセス(受注、生産、販売、在庫、管理)、情報システムを俯瞰する。特に、生産管理について理解を深める。管理会計との結びつきを学ぶ。	10月13日(土) ④15:10-16:40
3	工場の仕組み(製造プロセス) どのように生産活動がなされるのか、具体的な事例をとりあげる。さらに、原価計算と在庫会計との位置づけを検討する。 なぜ原価計算をするのか理解する	10月20日(土) ④15:10-16:40
4	営業の仕組み どのように営業活動がなされるのか。具体的な事例をとりあげる。製造部門との関係はどのようにになっているのか	10月27日(土) ④15:10-16:40
5	ERP パッケージの構造	11月3日(土) ④15:10-16:40
6	ERP パッケージ導入に際しての留意点	11月10日(土) ④15:10-16:40
7	一般会計システムの構造・販売管理システムの構造	11月17日(土) ④15:10-16:40
8	生産管理システムの構造	11月24日(土) ④15:10-16:40
9	在庫管理システムの構造	12月1日(土) ④15:10-16:40
10	予算システムの構造	12月8日(土) ④15:10-16:40
11	伝統的原価計算とオブジェクト指向による原価計算 経営資源(リソースコスト)の(理論と事例) 経費、作業時間、機械時間等原単位原価の収集方法と原価計算とどのように連動させるかを学ぶ。	12月15日(土) ④15:10-16:40
12	プロセス・アクティビティ(理論と事例) プロセス、アクティビティの定義、アクティビティコストの計算方法、アクティビティの管理の仕方を具体的に学ぶ。	12月22日(土) ④15:10-16:40
13	コストオブジェクト(理論と事例)	1月12日(土) ④15:10-16:40

	コストオブジェクトの定義の仕方、アクティビティとの関係、さまざまな業種におけるコストオブジェクトコストの計算と分析の仕方を学ぶ。	
14	管理会計システムの構造。実例による解説 製造業	1月19日(土) ④15:10-16:40
15	管理会計システムの構造。実例による解説 小売業	1月26日(土) ④15:10-16:40
試験		

## 使用教科書／評価方法等

教科書	『美容院と1000円カットでは、どちらが儲かるか』林總著 ダイアモンド社 2008年 オリジナルレジュメ
参考書	レジュメを配布します
評価方法	出席70%、レポート30%
その他	

ID: YA12333b

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	応用実践	意思決定会計	小林健吾	15	2

## 授業の目的

本講義では、企業の各種の意思決定問題に関連する原価と収益の分析と、それらの情報の利用について実践的な教育を行う。本講義を通じて、受講者が企業の意思決定のための会計のフレームワークを理解するのみならず、パソコンを駆使して経営管理者に高度な情報を提供する技法を身につけてもらう。パソコンの利用を創造的に取り組めるように工夫する。

上述の目的に即して、本講義で取り扱うトピックは、①意思決定の基本的な理論である差額利益概念と、②パソコンによるゴールシークやソルバーを利用した多重的な分析技法の活用、③主観確率の利用を含めた不確実性に対応した経営意思決定のための情報の提供を、高度な数字のケースも視野に入れて受講生自身に課題を課しながら取り上げる。

## 授業の到達目標

本講義の到達目標は、終了時に受講者が意思決定の問題にパソコンの高度な活用によって、正しく対応できる能力を持つことである。職業会計人に必要な経営意思決定を支援する理論と実践の知識を得て、問題を体系的かつ論理的に処理する能力を身につけ、経営管理者に適切な情報を創造的に提供できることを目標とする。

## 履修条件

パソコンの表計算を高度に利用するが、開講時には表計算ソフトの基礎的な利用が出来る程度でよい。当初から使いこなすことは要求しない。しかし終了時までにはゴールシークやソルバーのほか、各種の表関数やユーザー定義関数の活用、さらにユーザー定義関数やマクロを利用した問題の処理まで行うので、事前にこれらの知識を習得していれば好ましいが、そうでない場合には講義の進行に応じて習得活用する意欲を持つことが不可欠である。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	入門としてまず、パソコンによって意思決定のための情報が有効かつ迅速に提供できることを体験してもらうために、原価分解と損益分岐点分析を取り上げる。ここでは費用な分析が差額利益分析であることの体験と、従来の分析技法とパソコンによる分析とが、どれほど違ってくかを体験的に学習して、パソコンの利用の必要を理解してもらうことに重点を置く。ゴールシークの利用や回帰式を求める方法なども習得する。	10月6日(土) ①9:30-11:00
2	入門的な学習の第2回として、従来説明されてきた意思決定会計での技法の例として使用材料の変更の選択案の例を取り上げ、不確実性を考慮しない分析がいかに脆弱であるかを体験してもらい、意思決定が諸要素の予測・見積もりに基づく異から、不確実性の問題への配慮を欠いては、信頼される経営管理のための情報を提供し得ないことを体験する。	10月13日(土) ①9:30-11:00
3	2回の入門的な学習に基づいて、ある投資決定の例を通して、現代の会計情報の経営管理への課題を、企業の常務会から経理部への注文のかたちでまとめ、この講義の基本的なシナリオとして提示する。そして、この現在の管理会計の課題の達成には、What-If分析を活用したシミュレーション技法が有効なことを明確にして、この授業科目の技法として位置づける。	10月20日(土) ①9:30-11:00
4	設備の取替で予測の誤りによって有利さが逆転する例によってシミュレーションの要領と、簡単な製品数2制約条件3のリニア・プログラミング(LP)の問題によって表計算を利用したシミュレーション・モデルの作成を基礎演習①として実施する。ここでLPを取り上げるのは、シミュレーションの要領の学習として適切であることとともに、意思決定会計の分析の拡大にきわめて有効な技法であることによる。この今後の展開のための基礎演習でもある。	10月27日(土) ①9:30-11:00
5	基礎知識講座①として、われわれの分野で不当に注目されてこなかった離散事象と連続事象の区別と、それぞれに対する資料からの有利さの評価の問題を取り上げる。特に連続事象に対しては回帰分析の適用とこれを活用してゴールシークを行う方法を採り上げ、絶対番地、IF構文、ユーザー定義関数を利用したシミュレータの効果的な作成を学習する。この週に「提出課題1」を出題する。問題はすでにテキストに印刷されている。	11月3日(土) ①9:30-11:00

6	基礎演習②として、ソルバーの活用を LP 問題によって実施するとともに、複雑な代替案の選択問題になると、従来の方法では十分でなく、LP の利用が有効なることを学習する。この週に提出課題 2」を出題する。この問題もテキストに印刷し、配布炭である。	11月10日(土) ①9:30-11:00
7	基礎演習③として広告費の効果の分析例によって、回帰分析を利用して販売量を予測する例によって、利用するグラフの種類による相違、回帰式を利用した分析での問題点、関連範囲の概念の重要性などを演習する。回帰式の信頼性の評価の問題は第 15 週に予定している。	11月17日(土) ①9:30-11:00
8	これまでは当然として取り上げてきたところの差額利益分析について、なぜ差額利益分析が必要か、なぜそれでよいのか、どのような範囲について考えるべきなのかを、部品を自家製造するか外注加工するかの問題例で採り上げる。これを通して代替案の選択では部分的な最適化の判断基準ではなく、総合的な最適化の必要性と、どのような意味での総合化が考えられべきかを学習する。	11月24日(土) ①9:30-11:00
9	管理会計において本来的な原理にぞくするものと、便宜的に適用されている原則との分けて認識する訓練として、投資決定法で取られる現在価値の概念を取り上げて、終点価値と対比してその特徴をシミュレーションによって分析する。ここでは上の識別とともに、シミュレータの作成の演習も兼ねる。なおこの認識は次週からの長期的な意思決定の原理を考える基礎になる。	12月1日(土) ①9:30-11:00
10	長期的な経営意思決定の問題を投資案の評価を通して取り上げる。ここでは従来とは比較にならないほど詳細でしかも不確実性に十分に配慮した分析が、表計算を利用したシミュレーションによって可能なることを学習する。特にいくつかの要因について不確実性が見いだされる場合にどのような分析が可能であるかが重要なテーマとなる。なお確率の利用は、第 14 週以降に取り上げる。	12月8日(土) ①9:30-11:00
11	先週の続き。「提出課題 3」の出題。問題はテキストに印刷済みであるが、状況によって一部修正や問題の取り替えも想定している。	12月15日(土) ①9:30-11:00
12	短期的な意思決定問題の例として、3 製品で 3 制約条件の場合のセールスマックスの決定、製品の採算性の基準(どの製品が有利な製品かの判断基準)が工業企業でも粗利益率であり得るか、何によって判断されるか、差額利益分析との関連を学習する。	12月22日(土) ①9:30-11:00
13	管理会計は経営工学の諸問題の技法を積極的に取り入れることで有効な分析が可能なることを、最適バッチサイズの設定と複雑な LP 問題の例で取り上げて学習する。前者については従来の公式によるのでは解決できないような問題も、表計算とソルバー等を利用したシミュレーションによって解決案が見いだされる。この週には最後の「提出課題 4」を出題する。この問題は製品数 4 つ、制約条件皮膚条件等も含めると合計 19 になる実践的レベルの LP 問題であるが、例年の受講者はこなしているレベルの問題である。	1月12日(土) ①9:30-11:00
14	意思決定出の不確実性に対応するための確率を利用した評価法を学習する。この週では標準偏差は知られているものとしてその利用法を取り上げ、特に確率を利用しない場合と比較してどのような提供する情報の違いが出るかを中心に学習する。ここでは統計学的な理論を取り上げるのではなく、利用者の立場で学習するから、特に統計学の理論についての知識を前提としない。	1月19日(土) ①9:30-11:00
15	経営では客観確率の利用できる例は非常に限られている。そこで主観確立を利用して不確実性を評価する方法を学習する。また標準誤差を利用した回帰分析の信頼性の検討の問題にもおよびたいが、例年時間の制約上断念することが多いことを断っておこう。	1月26日(土) ①9:30-11:00
試験	実施しない。	

## 使用教科書／評価方法等

教科書	作成した講義録を配布してテキストとする。毎年変わっているので、注意されたい。
参考書	講義の時間中に必要な参考書は適時指摘する。
評価方法	課題を 4 回ほど出すので、これの解答の提出が 75%、出席 25%。
その他	課題はできるだけ早く e メールで提出して添削を受けること。期限ぎりぎりに提出して添削の余裕時間のないのは、よい評価は得られない。

ID: YA12334

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	応用実践	財務分析論	佐藤榮作	15	2

## 授業の目的

財務諸表を見たり、新聞などの財務関連の記事を読んだりした際に、その背後にある経営事象・財務の動きを洞察する力を涵養することが、本講義の目的である。

本講義は二つのフェーズに分かれる。

●基礎編（第1～6回）：教科書に基づき、財務分析の基本的な手法（安全性・収益性・生産性・成長性・キャッシュフローなどの財務分析）を理解する。

●応用編（第7～15回）：ケーススタディを通じて、①競合分析（同業他社との比較）、②与信分析（銀行融資・債券投資）、③M&A（企業買収・株式投資）などの実務で遭遇する場面で、どのような財務分析手法を用いて企業を評価するかを学ぶ。

## 授業の到達目標

経営者、アナリスト、銀行員、投資家、M&Aアドバイザー、コンサルタントなどの立場により、財務分析の目的と方法は異なるが、受講生が将来いずれの立場に立っても適用できる財務分析の視点と基礎力・応用力を身につける。

## 履修条件

●財務諸表論の既習者（財務諸表に関する一定レベルの理解が前提として必要となるため、2年生が望ましいが、他校での履修や独学による場合も可）

●e-mail、Word（2003、2007、2010）、Excel（2003、2007、2010）、Acrobat Reader（PDFを見るソフト）を自宅で使えること（e-mailで講義資料や演習課題を送信します）。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	財務分析とは何か（イントロダクション） ・業績が急回復した日産自動車のIR情報を教材にして －営業報告書・有価証券報告書・決算短信とはどんなものか －個別財務諸表と連結財務諸表とはどう違うか	10月1日（月） ⑤19:30-21:00
2	貸借対照表の見方と分析（安全性分析） ・BS関係の財務比率の理解 ・日産自動車のBS分析（経営不振期、回復期、直近期） 連結貸借対照表と個別貸借対照表の理解（ソニー、日立）	10月8日（月） ⑤19:30-21:00
3	損益計算書の見方と分析（収益性分析、成長性分析） ・PL関係の財務比率の理解 ・日産自動車と他の自動車メーカーのPL分析 連結損益計算書と個別損益計算書の理解	10月15日（月） ⑤19:30-21:00
4	貸借対照表と損益計算書の組み合わせによる分析 ・ROA・ROE・回転率・回転日数などの財務比率の理解 生産性分析（付加価値分析）、EVA・SVAと企業の意味決定	10月22日（月） ⑤19:30-21:00
5	キャッシュフロー計算書の見方と分析 ・キャッシュフロー計算書の作成問題を解く ・日産自動車などのキャッシュフロー計算書の分析 ・資金の運用・調達・資金繰りの把握	10月29日（月） ⑤19:30-21:00
6	大企業と急成長新興企業のキャッシュフロー計算書の事例研究 ・危機的状況の三菱自動車 vs. 急成長のサイバーエージェント ・不動産開発業者などに見られる黒字倒産の事例研究	11月5日（月） ⑤19:30-21:00
7	小テストの実施（講義の理解度を確認するためのもの） 業種別の財務諸比率の差・特徴の理解（1） ・製造業・非製造業の各業種による相違の把握 ・その他の特殊業種（私鉄、電力、不動産等）の理解	11月12日（月） ⑤19:30-21:00

8	小テストの解説 業種別の財務諸比率の差・特徴の理解 (2) ・ 製造業の中で 素材メーカー vs. 消費財メーカー ・ 商業の中で 卸売業(総合商社) vs. 小売業(百貨店・スーパー) ・ 各業界平均値との比較	11月19日(月) ⑤19:30-21:00
9	競合分析(1): 経営戦略を考える立場から財務分析を学ぶ ・ 競争戦略(マイケル・ポーター)と財務分析 ・ コスト構造分析(新日鐵 vs. 資生堂) ・ 百貨店業界のケーススタディ: 業界再編の動きを競合分析の視点から考える	11月26日(月) ⑤19:30-21:00
10	競合分析(2): ・ スーパー業界のケーススタディ: セブン&アイ, イオン, ダイエーの比較、有価証券報告書のセグメント情報分析	12月3日(月) ⑤19:30-21:00
11	与信分析(1): 与信担当者の立場から財務分析を学ぶ ・ 大手格付機関による社債などの格付け ・ 銀行が行なっている与信格付け ・ 東京商工リサーチ、帝国データなどの信用調査レポート ・ 簡単な格付けソフトで格付けを体験する	12月10日(月) ⑤19:30-21:00
12	与信分析(2): 破綻企業の分析 ・ マイカル(2001年に破綻したスーパーで、イオングループが吸収合併)の1999年度、2000年度の財務諸表を分析し、破綻の予兆と破綻の原因を分析	12月17日(月) ⑤19:30-21:00
13	株価評価の算定方式(1) ・ 株価指標の見方を学ぶ(ホンダ、任天堂、ミクシイ) ・ 類似会社比準方式による株価算定 —簡単な設例による株価算定 —みずほ証券の誤発注で話題となったジェイコムの子株算定	1月7日(月) ⑤19:30-21:00
14	株価評価の算定方式(2) ・ 各種株価算定方式(純資産法、収益還元法、DCF法、類似業種比準法、類似会社比準法、配当還元法など)を学ぶ ・ カネボウの自社株買い取り時の適正価格算定	1月14日(月) ⑤19:30-21:00
15	総合問題を解く(公認会計士試験の問題、本講義の過去の期末試験問題などを題材にして、財務分析の手法を復習する)	1月21日(月) ⑤19:30-21:00
試験	期末テスト	1月28日(月) ⑤19:30-21:00

## 使用教科書/評価方法等

教科書	ポイント図解式会計『財務諸表分析入門』平林亮子編 アスキー・メディアワークス出版 2008年(基礎編で教科書を使用するが、一般的に配布資料が主な教材となります)
参考書	ケーススタディ対象会社のIR情報、新聞記事、分析レポートなど(教材として配布、あるいはe-mailで資料等の印刷を指示します)
評価方法	期末テスト50%、小テスト20%、出席(出席率、課題提出、講義への貢献度)30%
その他	本講義の受講には“予習が必須”です。 演習課題を適宜アサインし、提出を求めます。(2011年度は11回の演習課題提出あり)

ID: YA12512b

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	基本	監査論	篠宮雅明	15	2

## 授業の目的

現代の市場経済では、企業に対して財務内容の開示が求められており、開示の主要な手段である財務諸表については、適正性に関する独立した公認会計士又は監査法人による監査が必要とされている。その意味で、財務諸表の監査は、市場経済を支える重要な役割を担っている。  
本講義では、財務諸表の監査を中心とした監査の目的から機能、我が国における監査制度、監査基準の構成、監査実施のプロセスについて学習していく。

## 授業の到達目標

監査の制度的枠組みや監査実施上の基本的な考え方・技術・意見形成の過程を理解することにより、監査理論の基礎を習得することを目標とする。

## 履修条件

なし

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	財務諸表監査の目的 財務諸表監査の必要性、監査人がなすべきこと、利害関係者が監査人に期待すること、監査人がなすべきことと期待のギャップなどについて学習する。	10月3日(水) ⑤19:30-21:00
2	経済事件と監査の信頼性向上のための取り組み カネボウ事件、エンロン事件、大和銀行事件など監査に関連した経済事件の概要、監査不信あるいは会計不信の払拭へのさまざまな取り組みについて学習する。	10月10日(水) ⑤19:30-21:00
3	公認会計士という職業 公認会計士の業務、公認会計士に求められるもの(独立性、正当な注意、職業的懐疑心、守秘義務など)、公認会計士の責任などについて学習する。	10月17日(水) ⑤19:30-21:00
4	監査を取り巻く組織 我が国における会計士の組織(日本公認会計士協会)、監督組織(金融庁、公認会計士・監査審査会)、会計基準の作成主体(企業会計基準委員会)の概要、米国及び国際的な組織の概要について学習する。	10月24日(水) ⑤19:30-21:00
5	法定監査—金融商品取引法と会社法 公認会計士が実施する監査には法定監査と任意監査があるが、今回は営利企業に対する監査を義務付ける法律である金融商品取引法と会社法について学習する。	10月31日(水) ⑤19:30-21:00
6	いろいろな組織の監査 今回は非営利組織体に対する外部監査について、民間団体の設立した組織体、公的部門に関わる組織体に分けて、その概要を学習する。	11月7日(水) ⑤19:30-21:00
7	監査のルール 財務諸表監査が社会的に信頼を得るためには、監査の実施や報告について一定の基準を設ける必要がある。我が国における一般に公正妥当と認められる監査の基準である監査基準のうち、主に一般基準について学習する。	11月14日(水) ⑤19:30-21:00
8	監査の基本的なプロセスとリスク・アプローチの考え方 監査の基本的なプロセス(監査戦略、試査)、リスク・アプローチの考え方(監査リスク、監査リスク・モデル、事業上のリスクなど)について学習する。	11月21日(水) ⑤19:30-21:00
9	監査の実施プロセスの概要 監査の実施プロセス(リスク評価、監査要点の設定、リスク対応、監査証拠の評価)の概要、経営者確認書、監査調書について学習する。	11月28日(水) ⑤19:30-21:00
10	監査人の心証と心証形成のプロセス 監査基準が求める合理的な保証とはどのようなものか、監査手続の実施と監査人の心証形	12月5日(水) ⑤19:30-21:00

	成の関係、監査人が確信を得るための制約・限界などについて学習する。	
11	監査上の重要性 監査上の重要性の意義、量的（金額的）重要性と質的重要性、重要性の基準値の算定について学習する。	12月12日（水） ⑤19:30-21:00
12	監査報告書 監査報告書の構成と記載内容（監査の対象、財務諸表に対する経営者の責任、監査人の責任、監査意見、利害関係）について学習する。	12月19日（水） ⑤19:30-21:00
13	監査意見と追記情報 監査報告書に記載される監査意見と除外事項の関係、除外事項の種類、追記情報の意義と種類について学習する。	1月9日（水） ⑤19:30-21:00
14	不正への対応 虚偽記載の原因となる行為としての不正の特徴、不正による重要な虚偽表示リスクの識別と評価、評価した不正による重要な虚偽表示リスクへの対応などについて学習する。	1月16日（水） ⑤19:30-21:00
15	四半期レビュー 四半期レビューの目的、四半期レビューと年度の財務諸表の監査の関係、四半期レビュー手続、四半期レビューにおける監査人の結論について学習する。	1月23日（水） ⑤19:30-21:00
試験	期末テスト（筆記試験）	1月30日（水） ⑤19:30-21:00

## 使用教科書／評価方法等

教科書	・『新版 まなびの入門監査論（第2版）』盛田良久・百合野正博・朴大栄編著 中央経済社 2012年 ・講義において配布する資料
参考書	・『財務諸表監査 私論』五十嵐達朗著 日経事業出版センター 2012年 ・『監査実務ハンドブック（平成24年版）』日本公認会計士協会出版局 2011年
評価方法	期末テスト60%、出席40%
その他	



ID: YA12513

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	基本	職業倫理	慶松勝太郎 服部彰	15	2

## 授業の目的

LEC 会計大学院の使命・目的の一つは、職業倫理観を備えた会計職業人の養成である。本授業はこの目的のために、受講者が前半で倫理に関する基本的な考え方を、後半で実際の倫理判断の制度的基礎を学習し、かつその上から倫理的な思考が行えるようになることを目指す。なお、後半ではケース・スタディを取り入れて、公認会計士倫理の国際的な方法論となっている「概念的枠組みアプローチ」によって専門職業たる会計職業人の倫理問題へ対処法を学ぶ。

## 授業の到達目標

倫理に関する種々の考え方を理解し、かつ実際の倫理判断の制度的基礎と適用方法を知り、会計職業人としての倫理的判断の岐路に立った時に自主的に判断ができる人材の養成。

## 履修条件

会計、税務又は監査に関する一般的知識があること

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	[イントロダクション]マイケル・サンデルの『これからの正義の話をしよう』から倫理とは何だろうと考える。日本における倫理判断の伝統的基礎になっている考え方についても触れる。	10月1日(月) ⑤19:30-21:00
2	[日本の倫理思想]第1回に引き続き日本における倫理思想について考える。	10月8日(月) ⑤19:30-21:00
3	[倫理に絶対はあるか]バーナードの倫理思想を学ぶ。動物からの倫理学、カントの絶対思想を学ぶ。	10月15日(月) ⑤19:30-21:00
4	[科学哲学の形成]カントの対極にあると思われるライヘンバッハの考え方を学ぶ。	10月22日(月) ⑤19:30-21:00
5	[目的論的アプローチ]功利主義について考える。プラグマティズムを通じて神と自然科学の共存を考える。ウェーバーの責任倫理について学ぶ。	10月29日(月) ⑤19:30-21:00
6	[現代における正義とは何か]ロールズの『正義論』について考える。[共同体とコミュニタリアン] サンデルの考え方からアリストテレスとギリシャ・ローマ時代の共同体の倫理を考える。	11月5日(月) ⑤19:30-21:00
7	[企業の社会的責任] 企業の社会的責任はあるのか。あるとすればどんな責任があるのかを議論する。	11月12日(月) ⑤19:30-21:00
8	公認会計士、税理士等の職業倫理制度についてその概要、沿革、存在理由、機能等について概説する。	11月19日(月) ⑤19:30-21:00
9	公認会計士業務とは何かを公認会計士協会のブローチャー等を基に学び、公認会計士倫理制度について、公認会計士法、公認会計士協会規則、会社法、金融商品取引法などの法令的側面から解説する。J SOXについても触れる。	11月26日(月) ⑤19:30-21:00
10	税理士業務とは何かを税理士協会のブローチャー等を基に学び、税理士倫理制度について、税理士法、会社法、税法等などの法令的側面から解説する。	12月3日(月) ⑤19:30-21:00
11	公認会計士の倫理規則の内容について説明し、その基本的な考え方である「概念的枠組みアプローチ」について解説する。国際基準である国際会計士連盟(I F A C)の倫理規則との関係についても述べる。	12月10日(月) ⑤19:30-21:00
12	①上記「概念的枠組みアプローチ」に基づく会計職業人の倫理的ジレンマの対処法をケースによって考えてもらう。 ② 企業におけるビジネス・エシックス(経営倫理)の実践と会計職業人の関係を考える。	12月17日(月) ⑤19:30-21:00
13	①税理士倫理に関するジレンマをケースによって考えてもらう。 ②倫理の実践に欠かせないIntuition(直観・感得・体得)の方法論を解説・討議する。	1月7日(月) ⑤19:30-21:00

14	討論会① 種々の倫理的思考を踏まえた考え方から実際に起こった企業の倫理問題について全員で討論する。	1月14日(月) ⑤19:30-21:00
15	討論会② 種々の倫理的思考を踏まえた考え方から実際に起こった企業の倫理問題について全員で討論する。	1月21日(月) ⑤19:30-21:00
試験		1月28日(月) ⑤19:30-21:00

## 使用教科書／評価方法等

教科書	「公認会計士倫理読本」八田進二著、財経詳報社。「実践コンプライアンス」田中宏司著、PHP研究所。その他、必要な資料はその都度配布。
参考書	『これからの「正義」の話をしよう』マイケル・サンデル著 鬼澤忍訳、早川書房、2010年。 『道徳形而上学原論』イマヌエル・カント著 篠田秀雄訳、岩波書店、1976年。 『実践理性批判』イマヌエル・カント著 宇都宮芳明訳、以文社、2004年。 『科学哲学の形成』ハンス・ライヘンバッハ著 市川三郎訳、みすず書房、1985年。 『道徳及び立法の諸原理序説』ジェレミー・ベンサム著 山下重一訳、中央公論社「世界の名著32」昭和42年。 『功利主義』J.S. ミル著 水田珠枝・永井義雄訳、河出書房新社、「世界の大思想Ⅱ-6」昭和42年。 『プラグマティズム』ウィリアム・ジェームズ著 榊田啓三訳、岩波文庫、1971年。『現代倫理学の展望』伴博・遠藤博編、勁草書房、2001年。 『正義論』ジョン・ロールズ著 川本隆史・福田聡訳、紀伊国屋書店、2010年。
評価方法	期末テスト70%、出席30%
その他	

ID: YA12525

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	発展	監査手続論	(未定)	15	2

## 授業の目的

詳細が決定次第、改めてご案内いたします。
----------------------

## 授業の到達目標

--

## 履修条件

--

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1		10月2日(火) ⑤19:30-21:00
2		10月9日(火) ⑤19:30-21:00
3		10月16日(火) ⑤19:30-21:00
4		10月23日(火) ⑤19:30-21:00
5		10月30日(火) ⑤19:30-21:00
6		11月6日(火) ⑤19:30-21:00
7		11月13日(火) ⑤19:30-21:00
8		11月20日(火) ⑤19:30-21:00
9		11月27日(火) ⑤19:30-21:00
10		12月4日(火) ⑤19:30-21:00
11		12月11日(火) ⑤19:30-21:00
12		12月18日(火) ⑤19:30-21:00
13		1月8日(火) ⑤19:30-21:00
14		1月15日(火) ⑤19:30-21:00
15		1月22日(火) ⑤19:30-21:00
試験		1月29日(火) ⑤19:30-21:00

## 使用教科書／評価方法等

教科書	
参考書	

評価方法	
その他	

ID: YA12536

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	応用実践	内部統制監査	篠宮雅明	15	2

## 授業の目的

平成 20 年 4 月、我が国において上場会社に対して、財務報告に係る内部統制の経営者による評価と公認会計士等による監査（内部統制報告制度）が義務付けられてから既に 3 年が経過した。その間、実際に制度を適用した企業等からの要望や意見に応える形で、平成 23 年 3 月に財務報告に係る内部統制基準・実施基準が改訂され、内部統制報告制度の運用の見直しが図られている。

本講義では、主に監査の観点から、我が国における内部統制報告制度の内容について考察していく。

なお、本講義の履修者には、各回の授業内容についての予習・発表を行い、積極的に議論に参加することが求められる。

## 授業の到達目標

我が国における内部統制監査の制度と実務を理解することにより、内部統制を構築・運用・評価する経営者としての関わり方及び監査人としての関わり方を習得することを目標とする。

## 履修条件

「監査論」及び「監査手続論」の既履修もしくは同程度の理解を前提とする。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	内部統制の充実の必要性 財務諸表監査においては平成 3 年のリスク・アプローチ導入当初から監査の対象とされてきた内部統制が、10 数年経過した平成 20 年に内部統制監査として改めて監査が義務付けられた経緯について議論を行う。	10 月 6 日 (土) ②11:10-12:40
2	ダイレクト・レポーティングの不採用 我が国の制度において、内部統制そのものの有効性について意見を表明するダイレクト・レポーティングが不採用となったのはなぜか。また、ダイレクト・レポーティングを採用しないとしながらも、監査人自らが入手した監査証拠に基づいて判断した結果を意見として表明するとはどういうことか。このテーマについて議論を行う。	10 月 13 日 (土) ②11:10-12:40
3	内部統制報告制度に対する誤解—主に制度導入当初 実務の現場で一部に過度に保守的な対応が行われているとの指摘に対して、金融庁が制度導入間際の平成 20 年 3 月に公表した「内部統制報告制度に関する 11 の誤解」の内容に関して、主に監査人としての対応について議論を行う。	10 月 20 日 (土) ②11:10-12:40
4	企業の創意工夫を活かした監査人の対応の確保—改訂点とその考え方 内部統制基準・実施基準の改訂に際しては、監査人に企業独自の内部統制の手法を尊重してもらえないという企業側の意見が要因の 1 つに挙げられている。導入当初の誤解を監査人は解消していないのか、この点について議論を行う。	10 月 27 日 (土) ②11:10-12:40
5	内部統制の定義—目的と基本的要素 内部統制報告制度における内部統制の定義については、COSO のフレームワークを基本的に踏襲しながらも、目的と基本的要素にそれぞれ一つずつ加えた独自の定義付けが行われている。次回以降の議論を深めるため、内部統制の定義について議論を行う。	11 月 3 日 (土) ②11:10-12:40
6	内部統制の有効性 「内部統制が有効である」とは、どのような状況を意味するのか。内部統制の評価及び監査の観点である内部統制の有効性について、主に内部統制の不備との関係から、その内容について言及していく。	11 月 10 日 (土) ②11:10-12:40
7	内部統制の限界 どんなに適切に整備され、運用されている内部統制であっても、内部統制の限界により、その目的達成が絶対的に保証されるものではない。内部統制の限界とはどのようなものか議論を行う。	11 月 17 日 (土) ②11:10-12:40

8	経営者による内部統制の評価 必ずしも監査の専門家としての能力を有していない経営者が内部統制をどのように評価するのか。内部統制基準・実施基準に基づく、経営者による評価の方法・プロセスについて、企業の創意工夫と監査人の対応の観点から議論を行う。	11月24日(土) ②11:10-12:40
9	全社的な内部統制 全社的な内部統制とはどのようなものか、その評価はどのように行うか、全社的な内部統制が業務プロセスに係る内部統制に与える影響にはどのようなものがあるか。主にこれらのテーマについて議論を行う。	12月1日(土) ②11:10-12:40
10	業務プロセスに係る内部統制と3勘定一売上、売掛金、棚卸資産 評価対象となる業務プロセスについて、評価範囲の決定(重要な事業拠点の選定、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目など)、整備状況と運用状況の評価(実施方法、実施時期など)の観点から議論を行う。	12月8日(土) ②11:10-12:40
11	3点セットフローチャート、業務記述書、リスク・コントロール・マトリックス(RCM) 内部統制の評価に際しては、閲覧可能な一定の記録(文書化)が求められる。業務プロセスに係る内部統制においては、3点セットが該当するが、実施基準における様式例、必要性や有用性について、企業の創意工夫と監査人の対応の観点から議論を行う。	12月15日(土) ②11:10-12:40
12	ITを利用した内部統制 上場会社のほとんどは財務報告の基礎となる会計記録に関してITを利用しており、内部統制についてもITを利用したものが少なくない。手作業による内部統制とITを利用した内部統制の違い、IT全般統制とIT業務処理統制の関係について議論を行う。	12月22日(土) ②11:10-12:40
13	財務諸表監査と内部統制監査の関係 内部統制監査は、財務諸表監査と同一の監査人が実施することにより、効率的かつ効果的に行うことが期待される。一方で、内部統制監査は、経営者の評価結果が対象となるため、経営者の評価の遅延により監査が遅延するという懸念がある。財務諸表監査と内部統制監査の一体的実施の課題について議論を行う。	1月12日(土) ②11:10-12:40
14	内部統制監査における監査手法 内部統制監査における監査手法は、財務諸表監査における監査手法(主に運用評価手続)に違いはあるのか。この点について、適用する監査手続の種類や組み合わせ、実施の範囲や深度の観点から議論を行う。	1月19日(土) ②11:10-12:40
15	期末日現在における有効性 財務報告は、会計期間を通じた会計記録の結果として、期末日を基準として行われる。一方で、経営者の評価及び監査人の監査は、期末日現在の内部統制の有効性に関して行われる。会計期間を通じて内部統制が有効でなければ、財務報告の信頼性は保証されないのではないかと。この点について議論を行う。	1月26日(土) ②11:10-12:40
試験	期末レポート	2月2日(土) ②11:10-12:40

## 使用教科書/評価方法等

教科書	講義において配布する資料
参考書	『内部統制の統合的枠組み 理論編』鳥羽至英・八田進二・高田敏文共訳 白桃書房 1996年 『内部統制の理論と制度』鳥羽至英著 国元書房 2007年 『J-SOX対応 IT統制監査実践マニュアル』NPO日本システム監査人協会編 森北出版 2011年 『監査実務ハンドブック(平成24年版)』日本公認会計士協会出版局 2011年
評価方法	期末レポート30%、発表30%、出席40%
その他	

ID: YA12413

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	基本	経営学 I	慶松勝太郎	15	2

## 授業の目的

経営学では主要な経営理論を学ぶことを目的とする。経営理論には組織や戦略など、人間を一つの駒とみる立場と、人間の行動を基本とする立場があるが、経営学 I では主として前者を経営学 II では後者について学ぶ。職業会計人は単に会計の技術的知識を身につければよいだけでなく、経営についての理解を必要とする。理論の理解だけで経営ができるわけではないが、経営理論の習得は、経営の体系的理解に役立つ。

## 授業の到達目標

経営理論の生まれた背景を理解すること、そうした経営理論を経営の現状分析に応用できるようになることを目標とする。発表と討論を通じてプレゼンテーション能力の向上を図る。

## 履修条件

--

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	【イントロダクション】 少子高齢化の進展、IT 技術の発展など、変化する経営環境について学ぶ。経営管理の必要理由とドラッカーの云う decentralized system について考える。	10月6日(土) ③13:30-15:00
2	【組織マネジメントとは何か】 組織とは何か、組織マネジメントはなぜ必要か、組織マネジメントの全体像はどんなものかについて学ぶ。	10月13日(土) ③13:30-15:00
3	【古典的経営論】 テイラーの科学的管理法の現代的意味と限界について、フェイヨールの踏み板論、ホーソン実験の意義と発見について学ぶ	10月20日(土) ③13:30-15:00
4	【経営戦略論 I】 経営戦略論の概念について学ぶ。ゼロックスの乾式複写機の成功について学ぶ。キャノンの複写機の成功とゼロックスとは異なるビジネスモデルについて学ぶ。	10月27日(土) ③13:30-15:00
5	【経営戦略論 II】 市場構造と企業間競争について主としてポーターの戦略論に学ぶ。	11月3日(土) ③13:30-15:00
6	【経営戦略論 III】 価値創造システムとアスクルの成功例と今後の課題、ワールドの事例を学ぶ。	11月10日(土) ③13:30-15:00
7	【経営戦略論 IV】 多角化戦略について学ぶ。	11月17日(土) ③13:30-15:00
8	【イノベーションのジレンマ】 急進的イノベーション・漸進的イノベーションについてクリステンセンの『イノベーションのジレンマ』における破壊的イノベーションを理解する。	11月24日(土) ③13:30-15:00
9	【イノベーション】 クリステンセンのイノベーションのジレンマに引き続きイノベーション一般について学ぶ。	12月1日(土) ③13:30-15:00
10	【経営資源論】 財務資源、物的資源、人的資源、組織能力、技術能力など企業の有する物的資源と能力資源について学ぶ。	12月8日(土) ③13:30-15:00
11	【コア・コンピテンス】 企業の有する能力のうちプラハラッドとハメルの「コア・コンピテンス論」の論文を読む。	12月15日(土) ③13:30-15:00
12	【組織論のデザイン】 組織設計の原理を学ぶ。職能的組織、事業部制、官僚組織等について学ぶ。	12月22日(土) ③13:30-15:00

13	【イノベーションと組織】 イノベーションに対する組織的障害、イノベーションを促進する組織等について学ぶ。	1月12日(土) ③13:30-15:00
14	【経営文化論】 経営文化、組織風土の意味を考える。	1月19日(土) ③13:30-15:00
15	【企業の社会的責任】 企業の社会的責任について考える。	1月26日(土) ③13:30-15:00
試験	試験は行わない。レポートの提出を求める。	

## 使用教科書／評価方法等

教科書	『組織マネジメントの基礎』柴田悟一編著 東京経済情報出版 2010年(5版)。『経営戦略の基礎』中橋国蔵編著 東京経済出版 2012年。 『イノベーションのジレンマ』クレイトン・クリステンセン著 株式会社翔泳社 2007年(初版20刷)。「企業の中心的能力」C.K.プラハラッド、ゲイリー・ハメル。
参考書	『現代企業入門』土屋守章著 日本経済新聞社出版 1992年(19刷)。『現代企業論』土屋守章著 平成5年(初版5刷)。『経営者の役割』C.Iバーナード著 山本安二郎・田杉競・飯野春樹訳 ダイヤモンド社 1999年。
評価方法	出席50%、期末レポート50%
その他	



ID: YA12414

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	基本	ファイナンス論	高森寛	15	2

## 授業の目的

近年、会計とファイナンスは融合しつつある半面、それぞれ、対照的な原理と原則に基づいています。会計学においては、複式簿記をベースにして、取得原価の原理が貫かれております。ファイナンスでは、諸資産の価値は、取得原価ではなく、未来がもたらす便益とリスクに依存します。これら知識・原理の両方を身につけてこそ、これからの会計とファイナンスのプロフェSSIONAL（専門職業人）として活躍することができます。この科目は、ファイナンスの方の原理と原則と、未来へ向けての投資戦略思考を訓練します。

## 授業の到達目標

「企業の諸資産と企業そのものの市場価値は、どのように決まるのか」が最大の重要テーマです。まずは、株式という権利資産の価値の源泉は何かを理解することからはじめて、モダン・ポートフォリオ理論のエッセンスを学びます。リスクを配慮しながら、諸資産を価値づけする方法論を学び、知的資産など、デリバティブ的資産の価値についても触れます。

## 履修条件

特になし。中学、高等学校程度の数学知識が望ましい。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	ファイナンスに係る基本的な諸概念 I: 市場経済と株式システム、会計原則とファイナンスの原理は、どう違うか、埋没費用と機会費用、権利資産としての株式とその価値、企業家精神の源泉は、株式システムのどこにあるのか。企業は、いくつかのステーク・ホルダーの運命共同体である。	10月6日(土) ④15:10-16:40
2	マネーフローの時間価値と各種キャッシュフロー資産の価値: 一様フロー現在価値係数、資本回収係数、年間等価費用係数、投資型金融商品の価値、事業資産の価値は、どのようにきまるか。	10月13日(土) ④15:10-16:40
3	株式の価値と企業の市場価値 I: 時価ベースの資産バランスシート、割引配当モデルとゴードンのモデル、企業の価値はどのように決まるのか、将来の成長性とリスクは株式の価値にどのように影響するか。企業の価値は、だれにどのように帰属するか。	10月20日(土) ④15:10-16:40
4	ファイナンスに係る基本的な諸概念 II: 機会費用、投資家の要求収益率と資本コスト、同じコインの表と裏としての費用と価値。MM理論の要約。会計上のバランスシートと時価ベースのバランスシートの資産価値は、なぜ、乖離するのか。どういうときに、どちらを信用するのか。	10月27日(土) ④15:10-16:40
5	株式の価値と企業の市場価値 II: 投資の意思決定と事業の価値、資本の生産性、ROA、ROE、企業の収益性と株価、株主の限定責任と残余請求権はオプション契約であり、株式価値の源泉である。コーポレート・ガバナンスと企業価値、内部留保はだれのものか。	11月3日(土) ④15:10-16:40
6	企業の成長機会とその価値: 配当と内部留保、サステナブル成長率、収益性のリスクと成長性は、株式価値にどう反映するか。	11月10日(土) ④15:10-16:40
7	埋没費用か機会費用か - 減価償却費は費用でもキャッシュフローでもない、それをどう扱えばよいのか。利益もキャッシュフローではない。フリーキャッシュフローについて。経済付加価値分析 (EVA)。	11月17日(土) ④15:10-16:40
8	中間試験 : これまでの知識と諸概念について	11月24日(土) ④15:10-16:40
9	リスクの扱いに関する基礎 I: 確率および統計の基礎概念、収益性の尺度、リスクの尺度、リスク変数間の連動性の尺度。多次元変量の扱い。確率と統計に関する重要定理。ポートフォリオ資産の $\beta$ の合成。	12月1日(土) ④15:10-16:40
10	リスクの扱いに関する基礎 II: 不確実性と分散投資、回帰分析と相関分析、分散投資の意味。リスクとリターンに関する効用と無差別曲線。リスクとリターンのトレードオフ。効用最大化の投資行動モデル。	12月8日(土) ④15:10-16:40

11	リスクの扱いに関する演習：回帰分析とシミュレーション。CAPM モデルのパラメータ $\beta$ の意味と推定。	12月15日(土) ④15:10-16:40
12	モダン・ポートフォリオ理論のエッセンス I：資本資産評価 (CAPM) モデル。ファイナンにおける基本論理：無裁定条件に向けて市場価格は落ち着く。リスクを担う投資家にはリターンが約束される。市場では、リスクに価格がつく。	12月22日(土) ④15:10-16:40
13	モダン・ポートフォリオ理論のエッセンス II：市場モデル、シングル・インデクスモデル。システムティック・リスクとアンシステムティック・リスク。市場では、価格がつくリスクとつかないリスクがある。	1月12日(土) ④15:10-16:40
14	現代ファイナンス理論 - CAPM (資本資産評価) モデルに関する応用と演習 I。企業価値を下落させる経営決定と上昇させる決定。株主の利となる経営意思決定とは何か。資本へのリターンが軽視されると株価は下落する。	1月19日(土) ④15:10-16:40
15	現代ファイナンス理論 - オプション資産とデリバティブ資産。 先渡し契約と先物市場の意義。オプション資産の価値は、どのように決まるのか。金融工学の考え方。知的資産の価値評価。	1月26日(土) ④15:10-16:40
試験	期末試験	2月2日(土) ④15:10-16:40

## 使用教科書／評価方法等

教科書	『現代ファイナンスの基礎理論』高森寛著 東洋経済新報社 2002年 (コピーを配布する)
参考書	『コーポレート・ファイナンス』R. ブリーリー他著 藤井他訳 日経BP社)
評価方法	宿題・中間テスト等 30%、期末テスト 30%、出席 40 %
その他	適宜に、宿題、課題等をだします。

ID: YA12416b

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	基本	IT リテラシー	横井隆志	15	2

## 授業の目的

LEC 会計大学院が掲げるシミュレーション・アプローチを具体化する上で重要な役割を果たすのが表計算アプリケーション“Microsoft Office Excel”である。本科目では、シミュレーション・アプローチの土台を形成すべく、実習を通じて Excel の基本操作を習得し、関数を中心としたワークシートの作り込みを行う。あわせて、修士論文の作成等を念頭に、研究資料の入手方法や、効率的な論文作成のためのワープロソフトの使用法を学習する。

## 授業の到達目標

シミュレーターの作成等に必要 Excel の操作法を中心に、IT リテラシーの基本的な素養を身につけ、表計算アプリケーションを用いて簡易的なシステムを構築できる程度のスキルを修得することを本科目の到達目標とする。

## 履修条件

特になし

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	<ガイダンス並びに Excel の基本> 初めて Excel を使用することを想定し、ワークシートの基本やセルを参照する計算など、Excel の基礎的な要素を学習する。その中で、相対参照と絶対参照について学習する。あわせて、関数の基本について触れる。	10月7日(日) ④15:10-16:40
2	<条件判断を行う関数> 設定された論理式(条件)の正否を判断する IF 関数について、基本的な用法を学ぶ。同時に、複数の関数を組み合わせるネストや、IF 関数を補う論理関数について学習する。	10月14日(日) ④15:10-16:40
3	<検索を行う関数> 様々な用途に活用できる基本的な関数として、表の中から目的の値を取り出すことができる VLOOKUP 関数、HLOOKUP 関数について学習する。	10月21日(日) ④15:10-16:40
4	<VLOOKUP 関数をより実践的に活用するための関数の活用> VLOOKUP 関数と組み合わせることにより、ワークシートの実用性を高める MATCH 関数について学習する。あわせて、INDEX 関数、CHOOSE 関数について学習し、早見表や複数の対照表からデータを取り出す方法について学習する。	10月28日(日) ④15:10-16:40
5	<修士論文執筆のための Word の活用> Word には、論文等の作成を念頭に、目次や脚注、引用文献、図表等を管理する機能が備わっている。これらの機能を活用し、より効率的に修士論文を作成する方法を学習する。	11月4日(日) ④15:10-16:40
6	<インターフェースを意識したワークシートの作り込み> 第三者がワークシートを使用することを想定する場合、作業の手順や入力する内容ができるだけわかりやすいようにワークシートの構成を工夫する必要がある。ここでは、データの入力規則等によるワークシートの操作性向上を目指す。	11月11日(日) ④15:10-16:40
7	<日付と時刻> Excel における日付と時刻の扱いについて、シリアル値の概念を中心に学習する。その中で、日付と時刻を操作する関数や、セルの書式設定について学ぶ。	11月18日(日) ④15:10-16:40
8	<IT ツールの活用と著作権問題> 社会人学生が効率的に研究を進めるための携帯情報端末やクラウド等の活用法について学ぶ。同時に、高度情報社会において生じる著作権の問題を考える。	11月25日(日) ④15:10-16:40
9	<データベース機能> Excel のワークシート上で「フィールド」と「レコード」という概念に基づいて構成されるデータベースについて、フォームによる入力やフィルタによるデータの抽出、さらに、データベース関数を用いてデータを取り出す方法について学ぶ。	12月2日(日) ④15:10-16:40

10	<p>&lt;ピボットテーブルとピボットグラフ&gt; ワークシートに入力されたデータについて項目別に集計や分析を行うことができるピボットテーブルおよびピボットグラフについて、集計元となるデータの作成法や、様々な用途を想定したデータの集計・分析の方法を学習する。</p>	12月9日(日) ④15:10-16:40
11	<p>&lt;Excel によるデータ分析&gt; 商品や顧客の重要度を把握するためのABC分析とパレート図の作成、商品の位置づけを確認するPPM分析を通じて、グラフの作成・加工の手法を学ぶ。</p>	12月16日(日) ④15:10-16:40
12	<p>&lt;職業会計人に求められる統計手法&gt; 統計処理を行うための高価なアプリケーションが多数存在するが、Excelでも高度な分析を行うことが可能である。ここでは、会計・監査の現場での活用を念頭に、Excelを用いた基本的な統計手法について学ぶ。</p>	12月23日(日) ④15:10-16:40
13	<p>&lt;システム的设计思想&gt; 作成者ではない人が操作することを想定したシステムをExcelで構築する際、ワークシートの配置やユーザーインターフェース(操作画面)の設計をどのように行う必要があるか、実例をもとに検討する。</p>	1月13日(日) ④15:10-16:40
14	<p>&lt;VBAの基本(1)&gt; Excelには操作を自動で実行するためのプログラミング言語としてVisual Basic for Applicationsが搭載されている。ここでは、一連の動作を記録することでマクロ化する方法とVBAコードの基本、VBAエディタを用いたマクロの編集について学習する。</p>	1月20日(日) ④15:10-16:40
15	<p>&lt;VBAの基本(2)&gt; あらかじめ用意された関数ではまかなえない処理を行う方法として、VBAで処理の内容を記述することによりワークシート上で一般の関数と同様に扱うことの出来る関数を作成するユーザー定義関数について学習する。</p>	1月27日(日) ④15:10-16:40
試験	試験は実施しない。授業で扱った内容に関連して出題する課題と出席状況により成績評価を行う。	

## 使用教科書/評価方法等

教科書	特に指定しない。
参考書	適宜、授業時間内に示す。
評価方法	課題50%、出席50%
その他	

ID: YA12429

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	発展	経営学Ⅱ	竹澤史江	15	2

## 授業の目的

本講義では、組織行動論の観点から組織の中の人間行動に関する基本的な理論や考え方を学習する。具体的には、組織の中の個人、組織の中の集団、そして組織のシステムという3つの側面から組織内の人間行動を考察し、働く人々の行動を説明・予測・統制する理論や考え方について理解を深める。そして、職場において求められるモチベーションの向上、より良いコミュニケーションの形成、より効率的なチームの構築に必要な高度な思考力・判断力・実践力の育成を図る。また、近年の社会変化の中で生じている雇用や労働に関する問題についても検討を行う。

## 授業の到達目標

- ・組織の中での人間行動を理論的に考察することができる。
- ・ビジネスの現場における人間行動をめぐる諸問題について課題を提示できる。
- ・経営活動に対する関心を高め、組織行動論の観点から自分の意見を述べることができる。

## 履修条件

経営学Ⅰを履修しているか、または経営学の基礎的な知識があると理解が深まる。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	組織行動学とは何か 組織行動学とは、組織内で人々が示す行動や態度についての体系的な学問であることを理解する。	10月2日(火) ⑤19:30-21:00
2	個人の行動の基礎 個人の行動を理解するために、価値観、態度、認知、学習に注目し、考察を行う。	10月9日(火) ⑤19:30-21:00
3	パーソナリティと感情 パーソナリティと組織における行動との関係や、感情が仕事に関連する行動に与える影響について検討する。	10月16日(火) ⑤19:30-21:00
4	動機づけの基本的なコンセプト 動機づけの基本的なプロセスや期待理論など代表的な理論について学習する。	10月23日(火) ⑤19:30-21:00
5	動機づけ：コンセプトから応用へ 学習した動機づけ理論をどのように実践に結び付けるか、目標による管理など動機づけの技法について考察する。	10月30日(火) ⑤19:30-21:00
6	個人の意思決定 組織において意思決定はどのように行われるのか、また意思決定の効果を高めるにはどうすればよいのかを検討する。	11月6日(火) ⑤19:30-21:00
7	集団行動の基礎 集団に関する個本的な概念を学習する。さらに、グループシンクとグループシフトについて考察する。	11月13日(火) ⑤19:30-21:00
8	「チーム」を理解する 効果的なチームを構築するための基盤、構成、職務設計、プロセスについて学習する。	11月20日(火) ⑤19:30-21:00
9	コミュニケーション コミュニケーションの機能や阻害要因、また効果的なフィードバックの提供に関連する行動について検討する。	11月27日(火) ⑤19:30-21:00
10	リーダーシップと信頼の構築 リーダーシップの特性理論、行動理論、条件適合理論の代表的な理論や、近年の新たな理論を取り上げ考察する。	12月4日(火) ⑤19:30-21:00
11	力(パワー)と政治 組織における政治的観点の重要性や政治的行動に貢献する要因について理解を深める。	12月11日(火) ⑤19:30-21:00

12	コンフリクトと交渉 コンフリクトに関する考え方の変遷、コンフリクト処理の方法、そして交渉における今日的な問題を検討する。	12月18日(火) ⑤19:30-21:00
13	人材管理の考え方と方法 採用、研修、評価など人事に関する制度について学習するとともに、近年の雇用や労働に関する諸問題について考察する。	1月8日(火) ⑤19:30-21:00
14	組織変革と組織開発 組織に変革をもたらす因子、変化への抵抗とその克服、組織開発、組織変革における現代的問題を検討する。	1月15日(火) ⑤19:30-21:00
15	管理者の役割 分業と協業を前提とする会社組織において管理者に求められる役割について考察する。	1月22日(火) ⑤19:30-21:00
試験		

## 使用教科書／評価方法等

教科書	スティーブンP. ロビンス著 高木晴夫訳『新版 組織行動のマネジメントー入門から実践へ』ダイヤモンド社、2009年。
参考書	開本浩矢『入門 組織行動論』中央経済社、2007年。 奥林康司・上林憲雄・平野光俊(編著)『入門 人的資源管理(第2版)』中央経済社、2010年。
評価方法	期末レポート70%、出席20%、平常点10%
その他	

ID: YA12451

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	発展	実用英語演習応用	藤澤慶已	15	2

## 授業の目的

言語習得に関する理論と実際を考察することによって、特に第二言語の習得に関する理解を深める。中でも、外国語としての英語の習得にかかわる諸問題を考え、ビジネス英語に求められる専門的かつ実践的素養を身に付ける。最終的には TOEIC のスコアアップはもちろん、実践的なコミュニケーション力を養います。

## 授業の到達目標

英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテスト TOEIC で C ランク (470~730 点) 後半を目指す。

## 履修条件

--

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	日本人の弱点攻略 日本語と英語の音声的な違い母音と子音の比率のうち特に母音の暗さに焦点を当て弱点を攻略しています。 TOEIC 演習	10月3日(水) ⑤19:30-21:00
2	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ 日常生活の中ネイティブが使う流暢な英語を検証。 TOEIC 演習	10月10日(水) ⑤19:30-21:00
3	Practicum (実践演習)	10月17日(水) ⑤19:30-21:00
4	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ プレゼンテーション等、ネイティブが使う英語表現を検証。 TOEIC 演習	10月24日(水) ⑤19:30-21:00
5	Practicum (実践演習)	10月31日(水) ⑤19:30-21:00
6	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ TOEIC 演習	11月7日(水) ⑤19:30-21:00
7	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ TOEIC 演習	11月14日(水) ⑤19:30-21:00
8	Practicum (実践演習)	11月21日(水) ⑤19:30-21:00
9	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ TOEIC 演習	11月28日(水) ⑤19:30-21:00
10	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ TOEIC 演習	12月5日(水) ⑤19:30-21:00
11	TOEIC 模試 Listening	12月12日(水) ⑤19:30-21:00
12	TOEIC 模試 Reading	12月19日(水) ⑤19:30-21:00
13	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ TOEIC 演習	1月9日(水) ⑤19:30-21:00
14	シチュエーションに応じた発音表現方法、発音を学ぶ TOEIC 演習	1月16日(水) ⑤19:30-21:00
15	まとめ	1月23日(水) ⑤19:30-21:00

試験	
----	--

## 使用教科書／評価方法等

教科書	* 『スコアが劇的にアップする TOEIC テスト弱点克服トレーニング』藤澤慶巳著 あさ出版 * 各回配布レジメ
参考書	
評価方法	期末課題 50%、出席 30% 平常点 20%
その他	



ID: YA12453

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	応用実践	専門英語応用	藤澤慶已	15	2

## 授業の目的

英語能力を伸ばすための壁として、実用英語と学校英語の表現方法の違いを理解するのが大きなポイントとなります。この講座では論文を含む様々な分野の英語英文の読解に特化し、それに必要となる語彙、重要表現を学習していきます。

## 授業の到達目標

英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテスト TOEIC で B ランク (730~860 点) 後半を目指す。

## 履修条件

--

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	Words & Expressions I TOEIC 演習	10月4日(木) ⑤19:30-21:00
2	Article Reading I TOEIC 演習	10月11日(木) ⑤19:30-21:00
3	Practicum (論文読解演習)	10月18日(木) ⑤19:30-21:00
4	Essay Reading I TOEIC 演習	10月25日(木) ⑤19:30-21:00
5	Short Thesis Reading I TOEIC 演習	11月1日(木) ⑤19:30-21:00
6	Words & Expressions II TOEIC 演習	11月8日(木) ⑤19:30-21:00
7	Article Reading II TOEIC 演習	11月15日(木) ⑤19:30-21:00
8	Practicum (論文読解演習)	11月22日(木) ⑤19:30-21:00
9	Essay Reading II TOEIC 演習	11月29日(木) ⑤19:30-21:00
10	総合演習 Words & Expressions	12月6日(木) ⑤19:30-21:00
11	TOEIC 模試 Listening	12月13日(木) ⑤19:30-21:00
12	TOEIC 模試 Reading	12月20日(木) ⑤19:30-21:00
13	Short Thesis Reading II TOEIC 演習	1月10日(木) ⑤19:30-21:00
14	Practicum (論文読解演習)	1月17日(木) ⑤19:30-21:00
15	まとめ	1月24日(木) ⑤19:30-21:00
試験		

## 使用教科書／評価方法等

教科書	各回配布レジメ
-----	---------

	『新TOEIC テストリーディング 重要フレーズ&問題集』藤澤慶己著 DHC 出版
参考書	
評価方法	期末課題 50%、出席 30% 平常点 20%
その他	

ID: YA12454

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	応用実践	M&A	南繁樹	15	2

## 授業の目的

公認会計士、税理士その他財務会計ないし税務の職務を行う者にとって、M&A は魅力的な業務領域の一つである。しかし、M&A は、法務、税務及び会計の複合的な知識が必要となることに加え、教科書には必ずしも記載されていない実務的な知識も必要となり、その全体像を把握するのは容易ではない。本講では、M&A の諸形態を概観したうえで、法務、税務、会計、ファイナンス理論に関する基礎知識をカバーすることを目指す。

## 授業の到達目標

実務において M&A に公認会計士、税理士又はフィナンシャル・アドバイザーとして関与する前提となる基礎的な知識を習得すること。適宜、関連する法律（会社法・金融商品取引法等）、証券取引所規則（適時開示規則等）、会計基準（企業結合会計基準・事業分離等会計基準）、税法（法人税法・所得税法・租税特別措置法等）に言及する。

## 履修条件

財務会計及び法人税法の基礎的知識を前提とする。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	M&A とは何か	10月5日(金) ⑤19:30-21:00
2	M&A の諸形態①組織再編（合併、株式交換、株式移転、会社分割）	10月12日(金) ⑤19:30-21:00
3	M&A の諸形態②株式譲渡、新株発行	10月19日(金) ⑤19:30-21:00
4	M&A の諸形態③事業譲渡	10月26日(金) ⑤19:30-21:00
5	M&A の諸形態④公開買付け	11月2日(金) ⑤19:30-21:00
6	MBO、LBO	11月9日(金) ⑤19:30-21:00
7	M&A に必要な契約	11月16日(金) ⑤19:30-21:00
8	デューディリジェンス（法務）	11月30日(金) ⑤19:30-21:00
9	デューディリジェンス（財務）	12月7日(金) ⑤19:30-21:00
10	デューディリジェンス（税務）	12月14日(金) ⑤19:30-21:00
11	敵対的買収と防衛策	12月21日(金) ⑤19:30-21:00
12	企業価値評価	1月11日(金) ⑤19:30-21:00
13	倒産と M&A	1月18日(金) ⑤19:30-21:00
14	M&A 事例研究①	1月25日(金) ⑤19:30-21:00
15	M&A 事例研究②	2月1日(金) ⑤19:30-21:00
試験		2月15日(金) ⑤19:30-21:00

## 使用教科書／評価方法等

教科書	追って指定する。
参考書	追って指定する。
評価方法	期末テスト70%、出席30%
その他	授業日程は、変更が生じることがありますので、あらかじめご了承ください。

ID: YA12615b

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	基本	租税法	小山登	15	2

## 授業の目的

将来、みなさんが会計専門職業人として活躍される際、租税法に対する論理的思考が必須となります。特に租税法では、税実務上前例なき案件に直面することも多々あります。この案件を解決し結論を導出するには、高度の思考力、判断力、実践力が肝要とされるのです。租税法の授業を通じ、これらの能力を十分に養成し、経済社会の発展に貢献できる“人財”を育成することを目的としています。

## 授業の到達目標

租税法に限らず、会計実践上さまざまな案件に直面した際、自らの能力でその案件を解決し、結論を導き出さなければなりません。租税法の授業を通じて、この能力を養成し実社会で通用する人材を育成していきたいと考えています。

## 履修条件

受講生のみなさんが、事前に分担した項目につきまとめたレポートを発表し、教員がコメントする形で授業を進めていきます。みなさんの積極的な授業参加を希望します。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	「租税の意義・租税法の意義と特質」 これより研究対象とする租税法の意義と特質、さらに租税の種類と分類等の概要の検討を行います。	10月7日(日) ①9:30-11:00
2	「わが国における租税制度の発達 - 戦後における発達について -、租税法の基本原則」 わが国の戦後における租税制度の発達について、シャウプ勧告を中心に検討を行います。さらにわが国における将来の租税制度の展望を考察します。	10月14日(日) ①9:30-11:00
3	「租税法の法源と効力」 租税法の法源の内容を理解し、その効力について研究していきます。特に税実務上使用されている税務通達の意義と位置付けについても検討を行います。	10月21日(日) ①9:30-11:00
4	「租税法の解釈と適用 (1)」 租税法解釈の基盤とされている実質課税の原則について研究します。特に法実質主義と経済的実質主義について検討を行います。	10月28日(日) ①9:30-11:00
5	「租税法の解釈と適用 (2)」 租税法と私法との関連性について研究します。特に私法からの借用概念について判例等を通じて検討を行います。さらに解釈論の体系に文理解釈と目的論的解釈があり、これら解釈の考察を行います。	11月4日(日) ①9:30-11:00
6	「租税実体法の意義・課税要件総論」 租税実体法の意義を検討し、納税義務の成立要件とされる課税要件について考察を行います。特に各租税に共通の課税要件である納税義務者、課税物件、課税物件の帰属、課税標準(課税ベース)、税率について検討します。	11月11日(日) ①9:30-11:00
7	「課税要件各論・所得課税 - 所得税 -」 個人の所得に対する重要な租税である所得税について検討を行います。所得税の所得の意義、類型、課税単位さらに所得税制度の基本的仕組みについて具体的事例を使い考察をしていきます。	11月18日(日) ①9:30-11:00
8	「所得課税 - 法人税 - (1)」 法人の所得に対する重要な租税である法人税について検討を行います。特に法人税の課税根拠について法人擬制説と法人実在説をとりあげ考察を行います。	11月25日(日) ①9:30-11:00
9	「所得課税 - 法人税 - (2)」 前回の続きとして法人の納税義務者の問題をとりあげ検討を行います。さらにわが国の二重課税調整措置に関して具体例をあげ考察します。	12月2日(日) ①9:30-11:00
10	「法人税法第22条を巡る問題点」 法人税法第22条に規定のある法人の所得金額の計算システムについて検討します。特に	12月9日(日) ①9:30-11:00

	益金概念を構成する資産の無償譲渡について企業会計との相違点を考察します。この結果、法人税法上無償取引の益金構成要因を研究します。	
11	「法人税法第 22 条を巡る問題点」 法人税法第 22 条に規定のある法人の所得金額の計算システムについて検討します。特に益金概念を構成する資産の無償譲渡について企業会計との相違点を考察します。この結果、法人税法上無償取引の益金構成要因を研究します。	12月16日(日) ①9:30-11:00
12	「同族会社と所得課税」 同族会社の行為、または計算の否認規定について、判例等の事例に基づき、規定の趣旨、目的、さらに問題点を考察します。また、この否認規定の過去から現在に至る裁判所の見解に関する変遷の検討を行います。	12月23日(日) ①9:30-11:00
13	「多様な事業体・国際取引と所得課税 (1)」 現在多様な事業体が存在し、この事業体に関する課税問題が租税法上の重要な課題とされています。そこで今回は多様な事業体を取りあげ課税問題を検討します。	1月13日(日) ①9:30-11:00
14	「国際取引と所得課税 (2)」 今回、国際的経済活動に対する課税を研究します。この研究は国際租税法の研究であり、今日重要な課税問題の研究分野となっています。特に、国際的三重課税問題、移転価格税制の問題、過少資本税制の問題、タックス・ヘイヴン対策税制の問題等を取りあげ検討を行います。	1月20日(日) ①9:30-11:00
15	「まとめ」 1回～14回の問題の総括を行いたいと考えています。また、重要な課税事例を取りあげ、みなさんと共に討論を行いたいと思います。(各回、主要判例があれば検討したいと考えています。)	1月27日(日) ①9:30-11:00
試験	課題レポート提出	

## 使用教科書／評価方法等

教科書	『租税法』金子宏著 弘文堂(開講時に最新版(第17版)が出版されていればこれを使用)『確認租税法用語 250』増田英敏・加瀬昇一編著 成文堂(2008年12月)
参考書	『ケースブック租税法 第3版』金子宏 他3名編著 弘文堂(2011年3月)
評価方法	期末課題レポート70%、出席および発表30%
その他	みなさんの授業への出席が、授業の成果を有効に高める原動力となります。みなさんの全15回出席を希望します。

ID: YA12626

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	発展	企業法Ⅱ	平田和夫	15	2

## 授業の目的

企業法Ⅰに引き続き、商法総則・商行為、金融商品取引法及び民法等の基礎知識の習得を目的とする。授業では、概説書をベースとして、適宜判例集を参照することにより、抽象的な概念の把握にとどまらず、具体的な事案についても理解を深めることができるようにする。併せて、会社法制及び民法（債権関係）の改正の最新の動向にも触れる。本講義は、理論と実務の融合を目指すものであるが、更なる発展的な学習の契機ともなり得るものである。

## 授業の到達目標

法律系専門職に携わる以上、商法総則・商行為、金融商品取引法及び民法等の基礎的な理解は必須といつてよい。今や何らの付加価値もない専門職が生き残ることはできない。本講義で得た知識を武器として、質の高い会計専門職業人を目指してほしい。

## 履修条件

なし。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	商法総則 商法の意義につき企業法説等を紹介し、商法の法源・適用範囲に触れた上、商人資格、営業概念、商号、商業帳簿、商業使用人、商業登記、事業譲渡等の基本的な概念を理解する。	10月5日(金) ⑤19:30-21:00
2	商行為その1 商行為概念の基礎を理解した上、商行為の代理、商事法定利率、商事消滅時効、多数当事者間の債務の連帯、商人間の留置権のほか、商事売買、運送営業、倉庫営業、匿名組合等の基本を学ぶ。	10月12日(金) ⑤19:30-21:00
3	商行為その2 同上	10月19日(金) ⑤19:30-21:00
4	保険法その1 損害保険契約、生命保険契約及び傷害疾病定額保険契約について、判例を踏まえつつ、基礎知識を習得する。	10月26日(金) ⑤19:30-21:00
5	保険法その2、信託法 同上。また、信託法の基礎知識を習得する。	11月2日(金) ⑤19:30-21:00
6	手形法・小切手法 現在においても、手形・小切手は、企業実務・金融実務において重要な地位を占める。判例を踏まえつつ、基礎知識を習得する。	11月9日(金) ⑤19:30-21:00
7	金融商品取引法1 開示制度の趣旨を踏まえつつ、発行開示、継続開示及び内部統制報告について、その手続の概要を理解する。発行開示等の規制に違反した場合の民事責任について、責任を負う主体、責任の性質・内容、証明責任の分配等につき、近時の主要な判例に触れつつ理解する。	11月16日(金) ⑤19:30-21:00
8	金融商品取引法2 大量保有報告及び公開買付けについて学ぶ。公開買付けについては、その趣旨、適用範囲、手続等の基本を押さえつつ、近時の主要な判例に触れ、併せてMBOの概要を理解する。	11月23日(金) ⑤19:30-21:00
9	民法(総則) 民法の基本原則を踏まえ、権利能力及び行為能力、法人制度の概要、物の意義及び分類のほか、民法総則で最も重要な法律行為及び時効について主要な判例に触れつつ理解する。	11月30日(金) ⑤19:30-21:00
10	民法(物権) 物権法定主義、物権的請求権及び対抗要件等の基本を押さえた上、占有権、所有権のほか、各種用益物権及び担保物権の基礎を理解し、とりわけ抵当権については主要な判例に触れつつ学ぶ。	12月7日(金) ⑤19:30-21:00

11	民法（債権総則） 抽象的で難解な分野であるが、債務不履行責任、債権者代位権及び詐害行為取消権、多数当事者の債権及び債務、債権譲渡・契約上の地位の移転、債権の消滅について、その基本を理解する。	12月14日（金） ⑤19:30-21:00
12	民法（債権各則） 同時履行の抗弁権、危険負担、契約の解除といった契約総則を概観した上、売買を筆頭に、贈与・交換、消費貸借・賃貸借、請負・委任、寄託、組合等の各契約形態の基本を理解する。	12月21日（金） ⑤19:30-21:00
13	民法（親族・相続） 企業法務においても、とりわけ相続法は重要である。相続人、相続分、遺産分割、相続の承認及び放棄、遺言及び遺留分等の基本を理解する。	1月11日（金） ⑤19:30-21:00
14	会社法制の見直し 法制審議会会社法制部会では、企業統治の在り方及び親子会社に関する規律を中心に議論が行われている。議論の内容及び経過等について、その概要を紹介する。	1月18日（金） ⑤19:30-21:00
15	民法（債権関係）の改正 民法制定後110年余りを経て、法制審議会民法（債権関係）部会では、債権法に関する大規模な改正作業が進行している。議論の内容及び経過等について、その概要を紹介する。	1月25日（金） ⑤19:30-21:00
試験	期末テスト	2月1日（金） ⑤19:30-21:00

## 使用教科書／評価方法等

教科書	江頭憲治郎『商取引法』（弘文堂、第6版、2010） 山下友信＝神田秀樹編『金融商品取引法概説』（有斐閣、2010） 大村敦志『民法のみかた：『基本民法』サブノート』（有斐閣、2010） 山下友信＝神田秀樹編『商法判例集』（有斐閣、第4版、2010）（企業法Ⅰ使用のもの） 『有斐閣判例六法平成24年版』（有斐閣、2011）（企業法Ⅰ使用のもの）
参考書	適宜指定する。
評価方法	授業への寄与度80%、期末テスト20%
その他	なし。



ID: YA12627b

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	発展	法人税法	齊藤誠	15	2

## 授業の目的

法人税の体系的な理解を図るため、テーマ毎に学びます。まず、法人税の性質について配当益金益金不算入等の二重課税排除について学びます。次に、納税義務者に関連して、事業体課税、公益法人課税について学びます。租税回避を検討するにあたって、事実認定と、法律解釈における、経済的観察法と、租税法律主義との関係について学びます。以下、課税所得計算の基本となる、法人税法22条を中心に、益金、損金、権利確定基準、債務確定、公正会計処理基準、資本等取引、別段の定めについて学びます。、更に、圧縮記帳、減価償却、特別償却、リース取引等を学び、役員給与等、寄付金、交際費、国際取引について学ぶことになります。法人税法に関係ある、租税特別措置法も、その都度学習していくことになります。

## 授業の到達目標

各自の問題意識の整理と、法人税法の体系の理解に注力します。

## 履修条件

初回にテーマ発表の割り振りをしますので、必ず出席すること。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	配当益金不算入について、法人税の意義と、本質。二重課税の排除、事業年度等法人税の基本について学びます。	10月7日(日) ①9:30-11:00
2	事業体課税、法人税の納税義務者について ファンドの運用にかかわる方は検討すべき内容です。	10月14日(日) ①9:30-11:00
3	公益法人課税 法人税の納税義務者について 公益法人の法律改正に伴う税法上の取り扱いについて学びます。	10月21日(日) ①9:30-11:00
4	租税回避をテーマにして、 事実認定、法律解釈における、経済的観察法と、租税法律主義との関係 みなし規定、限度額等法人税法解釈上の問題点について学習します。 法人税法解釈にあたって考慮すべき内容です。	10月28日(日) ①9:30-11:00
5	低額取引、無償取引と法人税法、益金の意義、権利確定主義 法人税法22条2項の理解について学びます。	11月4日(日) ①9:30-11:00
6	貸倒損失について、損金意義、債務の確定との関係 法人税法22条3項について学びます。	11月11日(日) ①9:30-11:00
7	IFRS と、公正処理基準(法22-4 会社法431)、損金経理(法2-25) 確定決算主義(法74-1) 法人税法と、会計学、会社法、金融商品取引法との関係について、公正処理基準、損金経理、確定決算主義を中心に学びます。	11月18日(日) ①9:30-11:00
8	新株引受権、自己株式、デットエクイティスワップ等資本等取引 資本等取引と損益取引の混合取引(金子「租税法」第6版p279)について学びます。	11月25日(日) ①9:30-11:00
9	圧縮記帳、減価償却、特別償却、資本金の支出と法人税、租税特別措置法 資産の評価損(法33-1) 固定資産に関する法人税法上の取り扱いを整理します。	12月2日(日) ①9:30-11:00
10	リース取引基準と、法人税法 リース会計基準の変遷に伴う法人税法上の取り扱いの変遷と、現行法人税法での取り扱いについて学びます。	12月9日(日) ①9:30-11:00
11	役員給与等(法35) 寄付金(法37) 交際費(租特61-4) 租税公課 損金の額に関する計算の法人税法上の根拠について学びます。	12月16日(日) ①9:30-11:00
12	同族会社行為計算否認(法132) 組織再編成税制、連結納税、グループ法人課税 組織再編成と行為計算否認について学びます。	12月23日(日) ①9:30-11:00

13	繰越欠損金、解散、清算終了と法人税法 平成 22 年法人税法の改正に伴い清算所得税が廃止になりました。清算法人の所得の計算は、通常の法人の所得の計算と基本的には変わりありません。特例として、期限切れの欠損金の損金算入が認められます。法人の最終局面の学習です。	1月13日(日) ①9:30-11:00
14	タックスヘイブン対策税制、外国税額控除、過小資本課税、移転価格税制 国際関係税制について整理します。	1月20日(日) ①9:30-11:00
15	重要判例検討と、総まとめ 判例は、法人税法の適用と運用について具体的に学ぶ手段となります。判例の読み方について学びます。	1月27日(日) ①9:30-11:00
試験	課題レポート提出。	

## 使用教科書／評価方法等

教科書	金子宏「租税法17版」弘文堂
参考書	講義の都度指摘
評価方法	出席発表30%課題レポート提出70%
その他	テーマ担当者が15分程度発表した後、講義し、その後質疑を行います。また、必要によってテーマの入れ替えを行うことがありますが、その場合は事前に連絡します。

ID: YA12628

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	発展	所得税法	伊東博之	15	2

## 授業の目的

所得税は個人にとって最も身近な税ではあるが、所得税法自体は必ずしも身近とはいえない。所得税法以外の国税通則法や租税特別措置法、条約実施特例法、災害減免法等との関連を体系的に把握したうえで、所得税法に特徴的な考え方や固有の思想を理解する。このため主張が対立する訴訟事件等に数多く接し多面的な物の見方や考え方を自家菜籠中の物とするように努める。もって理論、実務の両面から税の理解に資することを目的とする。

## 授業の到達目標

所得計算や所得区分などの個別的規定の修得に加え、個人の担税力に応じて課される所得税のその課税の根拠、特質や税体系における位置付けを理解すること。

## 履修条件

所得税はもとより関係法令の規定（条文）を繰り返し読み、理解する努力をすること。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	【沿革、現状、税法体系及び所得概念等】 明治 20 年の所得税法の創設からシャープ勧告を経て今日までの沿革を概観するとともに、常に税収の中核を占めている所得税に関する税務行政の現状や所得税の税法体系を理解したうえで、所得税が課される「所得」とは何かを理解する。	10月6日(土) ④15:10-16:40
2	【納税義務者、課税所得、課税方法、国内源泉所得の範囲】 所得税の納税義務は個人だけではなく、人格なき社団等や外国法人を含む法人まで負っているが、納税義務者の態様別の課税所得の範囲や課税方法について理解する。特に非居住者等に課される国内源泉所得の範囲について修得する。	10月13日(土) ④15:10-16:40
3	【物的非課税・人的非課税】 所得税法に規定されている非課税所得に限らず、他の法律により非課税とされる所得もあるので、これら非課税所得の内容及び根拠を理解するとともに、人的非課税についても修得する。併せて関連する判例も研究する。	10月20日(土) ④15:10-16:40
4	【所得区分1（利子・配当・不動産）】 10種類の所得区分のうち資産性所得について、その意義や特徴や性質を理解する。併せて関連する判例を研究する。	10月27日(土) ④15:10-16:40
5	【所得区分2（事業・給与）】 人的役務提供による所得のうち最も代表的な事業所得と給与所得とを取り上げる。これらの所得は直接的、包括的な定義がされておらず規定に示されたものから帰納的に理解するしかない。このため種々その範囲を巡り問題が生じている。現在通説となっているこれら所得の意義を理解するとともに、代表的な判例をいくつか研究する。	11月3日(土) ④15:10-16:40
6	【所得区分3（給与・退職）】 退職所得は退職に基因して支払を受けるものが前提であるが、退職の事実がなくても退職所得とされる給与も含まれているので、その意義を給与所得との関連で多くの判例を素材に研究する。	11月10日(土) ④15:10-16:40
7	【所得区分4（山林・譲渡・一時・雑）】 他の所得に比し、臨時・偶発的要素の強いものについて取り上げる。とりわけ譲渡所得については、土地等の譲渡と株式等の譲渡に対する課税制度の変遷とともに複雑化した内容を的確に理解する。併せて関連する判例を研究する。	11月17日(土) ④15:10-16:40
8	【収入金額（範囲・計上時期）】 収入すべき金額には金銭以外の物や権利を含むこと、その金銭以外のものの評価方法及び所得区分による収入すべき時期の差異等について理解する。併せて関連する判例を研究する。	11月24日(土) ④15:10-16:40

9	<p>【必要経費（家事関連費）】 収入金額から控除される必要経費とはどのようなものか（脱税経費は経費として認められるか）、概算経費にはどのようなものがあるか、家事関連費との区分などを理解する。併せて関連する判例を研究する。</p>	12月1日（土） ④15:10-16:40
10	<p>【所得計算（総所得金額・変動・臨時・損益通算・繰越控除）】 各所得区分ごとの所得金額を計算後の損益通算や純損失や雑損失の繰越控除、純損失の繰戻し還付など特殊な所得計算を含めて年間の課税所得金額の計算について理解する。</p>	12月8日（土） ④15:10-16:40
11	<p>【所得控除（各控除の概要）】 所得控除が設けられている意義（課税最低限の保障や担税力への考慮ほか）をはじめ各種所得控除の種類、控除の順序、控除対象者、控除要件等について網羅的に理解する。</p>	12月15日（土） ④15:10-16:40
12	<p>【税額計算・確定申告と納付】 課税所得金額から控除する各種税額控除の意義及び内容等のほか、還付申告、損失申告、準確定申告などの確定申告の種類及びその申告要件等その他予定納税を含む納付について理解する。復興特別所得税についても触れる。</p>	12月22日（土） ④15:10-16:40
13	<p>【源泉徴収制度（意義・申告所得税との関係）】 源泉徴収制度の意義、仕組み、何らの手続を要せずに確定するその法的性格、特に申告所得税の確定申告との関係等について過去の最高裁等の判例を材料に研究する。</p>	1月12日（土） ④15:10-16:40
14	<p>【源泉徴収（徴収義務者・徴収時期・納税地）】 源泉徴収義務者の範囲、源泉所得税の納税地、支払時の徴収義務と支払の意義、年末調整の意義等源泉徴収を巡る申告所得税との比較においての特徴を理解する。</p>	1月19日（土） ④15:10-16:40
15	<p>【青色申告（要件・特典）・その他（不服申立・罰則・質問検査権）】 青色申告制度の趣旨、承認の要件（記帳義務・記録保存）や取消し事由、青色申告の特典の内容等を理解する。さらに課税処分等に係る不服申立ての手続や要件その他不正行為に基づく罰則、税務職員の質問検査権等について理解する。併せて関連する判例も研究する。</p>	1月26日（土） ④15:10-16:40
試験	課題レポートの提出	

## 使用教科書／評価方法等

教科書	池本征男『所得税法 理論と計算 七訂版』税務経理協会 2012年（5月頃刊行予定）
参考書	金子宏『租税法第17版』弘文堂 2012年、金子宏ほか編著『ケースブック租税法 第3版』弘文堂 2011年
評価方法	課題レポート70%、出席及び寄与度30% 課題論文に授業の目標とする点がいかに反映しているかに重きを置く。
その他	授業の内容は進度などに応じて変わることがある。

ID: YA12634

年度	配当	区分	科目名	担当教員	総回数	単位数
2012	後期	応用実践	実践国際租税法	大塚正民	15	2

## 授業の目的

前期の「国際租税法」では、日本の主たる「租税に関する法律」である「所得税法」、「法人税法」、「消費税法」、「相続税法」の「国内的側面」および「国際的側面」から「日本法としての国際租税法の全体像」の把握を試みました。その際に、いくつかの「租税条約」および「判例」に言及しましたが、後期の「実践国際租税法」では、上記の「租税に関する法律」よりも、むしろ「租税条約」および「判例」を主たる材料として、「日本国内法と租税条約との交錯」の検討を試みたいと思います。具体的には、後記の教科書について、各自が予め割り当てられ箇所を精読して、その概要を授業時間に他の参加者に説明する、という形式を取ります。

## 授業の到達目標

[租税条約] および [判例] を主たる材料として、「日本国内法と租税条約との交錯」の検討。

## 履修条件

前期の「国際租税法」を履修済みか、または、履修済みと同じ程度の基礎的知識を有すること。

## 授業計画

回数	授 業 内 容	日 程
1	設例その1: 4号非居住者の(個人)の7号所得: ベルギー条約とアメリカ条約	10月7日(日) ②11:10-12:40
2	設例その2: 4号外国法人の7号所得: スイス条約	10月14日(日) ②11:10-12:40
3	設例その3: 3号非居住者(個人)の7号所得: ベルギー条約とアメリカ条約	10月21日(日) ②11:10-12:40
4	設例その4: 1号外国法人の7号所得: ベルギー条約とアメリカ条約	10月28日(日) ②11:10-12:40
5	教科書第1部総論第1章 条約と国内法および第2章租税条約と国内税法	11月4日(日) ②11:10-12:40
6	教科書第1部総論第3章 問題点の整理	11月11日(日) ②11:10-12:40
7	教科書第2部各論第1章 各論で取り上げる問題の位置づけ	11月18日(日) ②11:10-12:40
8	教科書第2部各論第2章 所得の定義 第3章 所得の源泉地	11月25日(日) ②11:10-12:40
9	教科書第2部各論第4章 課税権の行使に関する規定	12月2日(日) ②11:10-12:40
10	教科書第2部各論第5章 恒久的施設の範囲	12月9日(日) ②11:10-12:40
11	教科書第2部各論第6章 恒久的施設に帰属する(国内税法上の)国外源泉所得	12月16日(日) ②11:10-12:40
12	教科書第2部各論第7章 恒久的施設に帰属しない国内源泉所得	12月23日(日) ②11:10-12:40
13	教科書第2部各論第8章 二重課税排除条項	1月13日(日) ②11:10-12:40
14	教科書第2部各論第9章 特殊関連企業条項	1月20日(日) ②11:10-12:40
15	教科書第2部各論第10章 まとめ	1月27日(日) ②11:10-12:40
試験	ペーパーテストはありません。	

## 使用教科書/評価方法等

教科書	租税条約と国内税法の交錯、第2版、井上康一・仲谷栄一郎、商事法務（2011年9月）
参考書	とくにありません。すべてインターネットを介して参考資料にアクセスします。
評価方法	出席率と授業の際の発表（教科書の概要の説明）を総合的に判断します。
その他	